

敬語と敬語意識
－ 愛知県岡崎市における第三次調査 －

研究成果報告書 第1分冊

【経年調査 実施資料編】

平成 19 (2007) 年度～平成 21 (2009) 年度

文部科学省科学研究費補助金〔基盤研究(A)〕

課題番号：19202014

平成 22 (2010) 年 3 月

研究代表者 杉戸清樹

国立国語研究所名誉所員

敬語と敬語意識
- 愛知県岡崎市における第三次調査 -

科研費報告書 第1分冊

【経年調査 実施資料編】

研究代表者 杉戸清樹 (国立国語研究所名誉所員)

目次

1. まえがき	1
調査の概要 成果報告について 本報告書について	1
研究組織と交付決定額	3
2. 企画・申請	5
岡崎経年調査委員会第1回委員会	7
平成19年度科学研究費補助金申請「研究計画調書」	15
岡崎調査第1回全体会議 初回資料	25
3. 調査項目の検討	31
経年調査班プリテスト	33
岡崎経年調査プリテスト 調査の手引き	35
経年調査班プリテストIについて（回答内容一覧）	39
4. 調査対象者の選定	73
岡崎市に関する基本情報	75
岡崎市在住の外国人について	91
第3次調査のためのサンプリング方法について	93
継続調査の調査対象者	98
パネルサンプル（第1次・第2次調査からの 追跡回答者）の追跡結果	99
5. 本調査の実施	101
調査依頼	105
岡崎市長名 研究所長名	105
調査のガイドライン	109
調査票・提示物	111
アンケート	111
面接調査票	115
提示刺激図・選択肢リスト	129
記録簿・マニュアル	141
調査員記録簿	141
調査マニュアル	143
調査本部マニュアル	165
調査結果（本調査の終了時点）	175
6. 補充調査の実施	177
補充調査の計画について サンプリングミスについて	179
補充調査実施マニュアル	183
7. 調査の達成状況	205
面接調査・アンケート達成状況（最終）	207
補充調査による構成比の補正	209
調査結果（地区別）	211
調査不能の内訳（ランダムサンプル・パネルサンプル）	213

1. まえがき

<調査の概要>

国立国語研究所は、昭和 28 (1953) 年度と昭和 47 (1972) 年度の 2 度にわたり、敬語と敬語意識に関する大規模な言語調査を愛知県岡崎市において実施した。同一の調査地点で約 20 年の年月をおいて実施した定点・経年の調査であった。

このたび、平成 19 (2007) 年度から 21 (2009) 年度にかけて、国立国語研究所員及び各地の大学教員で構成した研究チームは、上記の岡崎市における定点・経年の敬語調査の第三次調査を実施した。幸いなことに、当該の 3 年間、文部省科学研究費補助金(基盤研究(A))の交付を受けて実現できたものである。ここに記して謝意を表す。

研究課題名は「敬語と敬語意識の半世紀—愛知県岡崎市における第三次調査」と掲げた。第一次調査から約 55 年、第二次調査から約 35 年という実時間を経た時点で、文字通り半世紀の間の敬語と敬語意識の変化・不変化を把握しようとした調査研究であった。

第一次・第二次調査ではそれぞれ多くの種類の調査が実施されたが、第三次調査でも次のような調査を実施した。

- ① 今回あらたに無作為抽出した岡崎市民(600名)への面接・アンケート調査
- ② 第一次・第二次調査からの継続回答者(145名)への面接・アンケート調査
- ③ 岡崎地域の方言敬語や敬語意識を記述するための面接調査・録音収録調査
- ④ 敬語使用についての詳細な意識を問うグループインタビュー調査
- ⑤ 岡崎市民の自然な座談会話を収録する談話収集調査
- ⑥ 街頭で道を尋ねる言語行動を録音録画して分析する道尋ね調査
- ⑦ 看板・店舗名等、街頭の文字表記を観察記録し分析する景観文字調査

<成果報告について>

それぞれの調査で得た回答データや各種資料については、整理と分析を進め、それと並行して研究・分析の成果を公表してきている。

こうした調査実施の経過を受けて、科学研究費補助金交付期間の終了するこの段階で、本報告書を含めて以下の 4 分冊の成果報告書を印刷公表することとした。

- | | | |
|--------|---------------|----------------------------|
| 第 1 分冊 | 「経年調査 実施資料編」 | 上記①・②の調査を扱う |
| 第 2 分冊 | 「経年調査 基礎データ編」 | 同上 |
| 第 3 分冊 | 「発表成果編」 | 平成 22 年 2 月末までに公表した研究成果の集成 |
| 第 4 分冊 | 「記述調査編」 | 上記③の調査を扱う |

このうち第 3 分冊には、すでに公表した各種の成果物を 60 件以上集録することができた。それらも含めて、今回印刷公表するのは、科学研究費補助金交付終了段階での成果報告である。

第三次調査データの詳細な分析、第一次・第二次調査との比較分析、収集した録音・録画・写真などの記述分析等は、すでに着手・進行しているところに続けて今後本格的に進めることになる。また、調査で得た各種データの公開・供用を適切な時機や形を選んで行うことも検討している。

<本報告書について>

前記のとおり、本書はこの段階で作成する成果報告書4冊のうち第1分冊であり、実施した7種の調査のうち①、②の面接・アンケート調査を扱う。

繰り返すが、①は、今回あらたに無作為抽出（ランダムサンプリング）によって選んだ岡崎市民600名を対象とする面接・アンケート調査である。また②は、第一次調査・第二次調査でかつて回答していただいた岡崎市民に二度目あるいは三度目の協力をお願いして行う面接・アンケート調査である。これらは、岡崎市での敬語・敬語意識の調査研究が持つ「定点・経年」という特徴を具現する調査であって、第三次調査全体の中で重要な位置を占めている。

本報告書「経年調査 実施資料編」は、上記2種類の面接調査・アンケート調査を実施する過程で実際に作成した各種資料を集録するものである。ここで「実施資料」と呼ぶのは、調査を企画・準備する段階の会議資料、内部検討資料、あるいは調査現場で用いた依頼文書、調査マニュアル、調査票、さらに調査の達成・不達成の一覧資料など、実際に作成し使用した文書・資料類である。本報告書には、これらを原則として使用した際の姿のまま複製して集録する。

このような実施資料を集録する趣意は次のような点にある。

- ・ 今回の岡崎第三次調査に参加した研究チームの構成員が、当面、あるいは将来、調査結果の分析や研究を行う際に参照できる基本的な記録資料とする。
- ・ 研究チーム以外の関係者・研究者が、調査の実施過程を具体的な資料を参照しつつ理解するためのよりどころとして供する。
- ・ 岡崎における敬語・敬語意識調査を将来さらに継続展開することに向けて、第三次調査の実施資料を具体的な形で保存承継し活用する。

いうまでもなく、こうした実施資料は数多くの種類と膨大な量からなる。そのすべてをここに集録するのは適切でない。また、例えば、調査対象者関係の資料は個人情報にあたる内容を数多く含むものである。本報告書には、そうしたものを除外し、上記のような編集趣意に沿う範囲のものとして精選した限りの資料を集録する。なお、ここに集録しない各種の実施資料は、第一次調査・第二次調査の資料類と共に、今後とも国立国語研究所において保存していくことにしている。

実施資料は、以下の要領で集録していく。

- ・ 調査の企画、事前準備、実施、実施後のように進捗段階順にまとめる。
- ・ 各資料に付された使用当時の資料番号やページ表示を原則として残す。
例：岡調 08-012 （岡崎調査関連資料 2008年度12番目の資料の意味）
- ・ 資料ごと、あるいは資料グループについて、各章の冒頭に説明を付す。この説明は杉戸清樹が執筆した。

<研究組織と交付決定額>

* 平成 20 年度より参加

** 平成 21 年度より参加

■研究組織

○研究代表者

杉戸清樹 (国立国語研究所名誉所員)

○研究分担者

横山詔一 (国立国語研究所)

朝日祥之 (国立国語研究所)

磯部よし子 (国立国語研究所)

塚田実知代 (国立国語研究所)

○連携研究者

江川清 (広島国際大学) †

井上史雄 (明海大学)

真田信治 (奈良大学)

米田正人** (国立国語研究所名誉所員)

吉岡泰夫 (別府大学)

水野義道** (京都工芸繊維大学)

松田謙次郎 (神戸松蔭女子学院大学)

片岡邦好* (愛知大学)

西尾純二 (大阪府立大学)

辻加代子 (神戸学院大学)

松丸真大 (滋賀大学)

吉野諒三* (統計数理研究所)

松本渉* (統計数理研究所)

熊谷康雄** (国立国語研究所)

井上文子** (国立国語研究所)

大西拓一郎 (国立国語研究所)

尾崎喜光 (国立国語研究所)

熊谷智子 (国立国語研究所)

齋藤達哉** (国立国語研究所)

高田智和 (国立国語研究所)

鏑水兼貴** (国立国語研究所)

阿部貴人 (国立国語研究所)

†江川清：平成 21 年 2 月没

○研究協力者

久木田恵 (愛知教育大学)

■交付決定額 (配分額)

	直接経費	間接経費	合計
平成 19 年度	14,100 千円	4,230 千円	18,330 千円
平成 20 年度	11,800 千円	3,540 千円	15,340 千円
平成 21 年度	10,400 千円	3,120 千円	13,520 千円
総計	36,300 千円	10,890 千円	47,190 千円

2. 企画・申請

第三次調査を準備し計画を策定する段階のうちでも初期の段階の資料として、以下の資料を抜粋集録する。

企画検討のための委員会や会議の資料、及び科学研究費補助金交付を希望して審査のために提出した研究計画調書の、それぞれ初回のものである。

- 「岡崎経年調査委員会」第1回資料 …………… 5
 - 2006年10月21日付
 - 平成18年度、当時の独立行政法人国立国語研究所は、第2次中期目標期間が始まるとともに新規研究プロジェクト「経年調査に基づく地域社会の言語変容に関する調査研究」（通称：岡崎経年調査）を開始した。第三次岡崎調査の実施を視野に入れたものであった。この研究プロジェクトで、所外研究者の参加も得て開催された第1回の会議資料である。

- 科学研究費補助金申請書「平成19年度基盤研究(A)研究計画調書」抜粋 ……… 15
 - 平成18年11月8日版
 - 第三次調査実施計画に対しては平成19年度から3年間、文部省科学研究費補助金が交付された。その初年度用の交付申請で作成した「研究計画調書」の抜粋。予算計画、分担者の研究業績一覧等の箇所は割愛した。記載された計画内容は、その後の検討を経て改訂された。なお、この科学研究費補助金の交付が開始されたのち、第三次調査関係の諸経費はすべてこれによった。

- 「岡崎調査第1回全体会議」資料 ……………25
 - 2007年6月9日付
 - 前項の科学研究費補助金の交付を受けて、当時の研究チーム構成員が初めて一堂に会して開いた会議の資料である。記載された計画内容等は、その後の検討を経て改訂され実施に移された。

岡崎経年調査委員会 第1回委員会

- 日時・場所
 - ・ 2006年10月21日(土) 午前10時～午後1時
 - ・ 国立国語研究所・2F・多目的室

- 出席者(敬称略)
 - ・ 井上史雄(明海大学) 松田謙次郎(神戸松蔭女子学院大学) 西尾純二(大阪府立大学)
 - ・ 松丸真大(大阪大学) 久木田恵(愛知教育大学) 辻加代子
 - ・ 横山詔一、熊谷智子、尾崎喜光、朝日祥之(以上、国語研)

- 協議事項
 - ・ 岡崎調査の構想(資料1)
 - ・ 岡崎経年調査委員会の組織・役割分担について(資料2)
 - ・ 岡崎調査の日程について(資料3)
 - ・ 科研費申請について(資料4)

- 次回の委員会について

岡崎調査の構想について

○ 国語研の岡崎調査

- ・ 昭和 27 年、47 年に国立国語研究所が愛知県岡崎市で行った敬語・敬語意識に関する経年的調査。
- ・ 平成 18 年度からはじまった、国立国語研究所・第 2 期中期計画で実施するプロジェクト「経年調査に基づく地域社会の言語変容に関する調査研究（通称：岡崎経年調査）」のもとで第 3 次岡崎経年調査を企画・実施するものである
- ・ （社会調査型の調査研究にはよくあるが）科研費を用いた形での調査の組織作り＋調査の実行

○ 第 3 次調査で行う岡崎調査のあり方

I. 第 2 期中期計画でやるべきこと。

1. 敬語・敬語意識の調査を行なう
2. 「経年調査」という手法を用いる
3. 調査は愛知県岡崎市をフィールドとする
→ 1 を実施しながら、2 を検討する。

II. 敬語・敬語意識の調査をするために検討すべきことがら

1. これまでの分析法（「丁寧さ」の度合）をどこまで取り入れるべきか
2. 最近の敬語研究の動向をどこまで取り入れるべきか
例：ポライトネス・待遇表現・言語行動研究・地域言語研究・敬意表現調査
3. 敬語に関する答申内容をどの程度取り入れるべきか
Cf. 「これからの敬語」と第 1 次調査

III. 敬語・敬語意識を経年調査法を用いて調べることの意義

1. 継続性がポイントに。
→岡崎をフィールドとした、国語研の調査（昭和 27 年、47 年）
→2008 年に調査を実施するとなると…
最初の調査から半世紀が経つ。（→「半世紀」＝キーワードに）
2. 経年調査の 2 つの性格
 - (1) 共通語化調査→形式＋意味が経年的に変化する。そのプロセスは明瞭である。
 - (2) 言語行動に関する調査（含：敬語の調査）
→行動に関わる状況／条件＝より複雑に（→chaos になる可能性も）
→何を「変化」と呼ぶのか。→共通語化調査のようにキレイに見られない。

→「場面」の認知の仕方が異なる（年代・地域・加齢による変化）



・調査の目的によって経年調査をするかどうかは決まる

(1) 共通語化調査の場合：調べたい変化が観察されたら終わり

→社会動向を見据えた形での問題設定+フィールドの選択

(2) 言語行動に関する調査：継続的に調査をする必要性=高

→単なる比較をすることには限界がある

○ 第3次岡崎調査の枠組み

・2つの調査で構成（発想は鶴岡調査と類似）

・経年調査：これまでの調査法を踏襲した調査（継続調査・パネル調査）

・基盤調査：経年調査が言語生活のどの側面を捉えたのかを明らかにする調査
（記述調査・意識調査）

○それぞれの調査で行う内容

①経年調査

調査法の検討：第1次・第2次調査で行なわれた調査方法の意義を再検討し、調査方法を確定させる。敬語を扱った継続調査の持つ学術的意味を検討し、その意義を提示する。

調査項目の検討・策定：第2次調査の調査項目を再検討し、敬語・敬語意識を捉える視点を定める。調査場面の持つ待遇的価値を吟味した上で、必要に応じて調査項目の修正を行なう。

②基盤調査

記述調査の企画と試行調査：第1次・第2次調査で捉えた敬語形式が、待遇表現全体でどのような位置づけとなるかを、少人数に対する詳細な記述的調査を通して把握する。経年調査の調査項目との関係を整理し、調査が捉える局面を明らかにする。

意識調査の企画と試行調査：第1次・第2次調査で扱った敬語意識が、敬語意識全体の中でどのような位置づけとなるかを、小規模調査を通して明らかにする。敬語意識全体を捉えるには、調査場面をより広がりをもつものとして捉えなおし、非言語行動的要素も視野に入れた、敬語意識の俯瞰図を描くことを目指す。経年調査の調査項目との関係をまとめ、調査が捉える局面を明らかにする。

岡崎経年調査委員会の組織・役割分担(案)について

○第3次岡崎調査では、以下に示す研究組織で運営する。それぞれの班にそれぞれ4、5人の委員が担当する。1人あたり、2つの調査班の担当がある。基本的には、経年調査・基盤調査の両方を担当してもらう。

【総括班】(杉戸、江川、井上、真田、吉岡)

・プロジェクト全体の進捗状況を把握し、全体的な方向付け・事務的な調整、愛知県岡崎市へのアプローチ方法などを協議し、各班・グループの意見調整を図る。

【経年調査班】仕事の内容は資料1を参照

1. 調査法グループ
江川、松田、松丸、尾崎
2. 調査項目グループ
尾崎、熊谷、西尾、久木田、朝日

【基盤調査班】仕事の内容は資料1を参照

1. 記述調査グループ
西尾、久木田、辻、朝日
2. 意識調査グループ
朝日、尾崎、松田、松丸

岡崎経年調査の日程(案)について

○基本的な考え方

1. 基盤調査班による検討・調査の実施

- ・記述調査グループ：敬語表現を含めた待遇表現の俯瞰図を得る。第2次岡崎調査で扱われた場面、敬語形式の位置づけを明確化する
- ・意識調査グループ：敬語意識の俯瞰図を得る。第2次岡崎調査で取り上げられた敬語意識の位置づけを明確化する。

2. 経年調査班による検討・調査の実施

- ・調査法グループ：経年調査法の検討、社会生活項目の検討をもとに第3次調査の設計
- ・調査項目グループ：記述調査・意識調査グループで得られた知見をもとに、調査票を作成する。

○このほかには…

- ・普及広報活動を行う → 「ことば」フォーラムの開催 (2回)
- ・国際シンポジウムを開催する
→ 平成23年度 (経年調査法と言語変化研究)

○調査日程 (案)

第3次調査の本調査 (継続調査・パネル調査) は平成20年度に実施する予定
記述本調査は19年度、意識本調査は21年度に実施予定。

→ 予備調査・委員会の日程案は別紙参照

岡崎調査日程表(案)

資料3 別紙
2006年10月21日

年度	月	経年調査		基盤調査	
		調査法G	項目G	記述調査G	意識調査G
18	9				
	10	顔合わせ	顔合わせ	顔合わせ	顔合わせ
	11				
	12				
19	1			委員会	委員会
	2				
	3				
	4	委員会	委員会	委員会	委員会
	5				
	6				
	7	全体会・委員会	全体会・委員会	全体会・委員会	全体会・委員会
	8			本調査	予備調査
	9	全体会・委員会	全体会・委員会	全体会・委員会	全体会・委員会
	10				
	11				
	12	全体会・委員会	全体会・委員会	全体会・委員会	全体会・委員会
	20	1	予備調査	予備調査	
2					
3					
4					
5		委員会	委員会		
6				委員会	委員会
7		全体会・委員会	全体会・委員会	全体会・委員会	全体会・委員会
8					
9		継続本調査	継続本調査		
10					
11		パネル本調査	パネル本調査		
12		全体会・委員会	全体会・委員会	全体会・委員会	全体会・委員会
21		1			
	2				
	3				
	4				
	5	補充調査	補充調査		
	6	委員会	委員会		本調査
	7	全体会・委員会	全体会・委員会	全体会・委員会	全体会・委員会
	8				
	9				
	10				
	11				
	12	全体会・委員会	全体会・委員会	全体会・委員会	全体会・委員会
	22	1			
2		科研・報告書	科研・報告書	科研・報告書	科研・報告書
3					
4					
22	5	全体会	全体会	全体会	全体会
	6				
	7				
	8				
	9	全体会	全体会	全体会	全体会
	10				
	11				
	12	報告書締め切り	報告書締め切り	報告書締め切り	報告書締め切り
	1				
	2				
	3				

年	月	経年調査		基盤調査			アプローチ	普及広報	国際シンポ
		調査法G	項目G	記述調査	意識調査	行動調査			
18	9								
	10	顔合わせ	顔合わせ	顔合わせ	顔合わせ	顔合わせ	人の紹介	窓原稿送付	
	11								
	12	方法論の検討	質問項目の検討	質問項目の検討	質問項目の検討	質問項目の検討			
	1								
	2								
	3	委員会	委員会	委員会	委員会				
	4						市役所挨拶 相談		
	5			インフォーマント探し			人の紹介		
19	6			調査票確定	質問項目の確定				
	7	委員会	委員会	調査実施	予備調査の実施				
	8								
	9	委員会	委員会		結果の検討			フォーラム	
	10	全体会	全体会	全体会	全体会	全体会		岡崎市HP	
	11								
	12	予備調査の実施	予備調査の実施				挨拶状送付		
	1								
	2								
20	3	データの分析	データの分析	データ集の作成					
	4					委員会	市役所挨拶 サンプリング相談 サンプリング申請	パンフレット作成 地元メディア 宣伝	
	5	本調査の設計	本調査の設計	検討会					
	6								
	7	委員会	委員会						
	8								
	9	継続調査の実施	継続調査の実施	内部報告		委員会	サンプリングの実施 調査依頼状送付		
	10								
	11	パネル調査の実施	パネル調査の実施						
	12	データ集計	データ集計						
	1					予備調査			
	2								
21	3	集計終了	集計終了						
	4	全体会	全体会	全体会	全体会	全体会			
	5	データ分析	データ分析						
	6				委員会		市役所等挨拶 人の紹介		
	7	委員会	委員会						
	8								
	9				本調査の実施	本調査の実施			
	10	委員会	委員会					速報版UP メディアに報告	
	11				データ分析	データの分析			
	12								
	1								
	2								
22	3	委員会	委員会		委員会	委員会			
	4								計画案提出
	5								交渉開始
	6				委員会	委員会			
	7								
	8								
	9								
	10	内部報告	内部報告		内部報告	内部報告		最終版UP メディアに報告	
	11								
	12								
	1								
	2	全体会	全体会	全体会	全体会	全体会		フォーラム	
23	3								
	4								
	5								
	6								
	7								
	8								シンポ実施

日時：2006年10月21日（土）10時～13時

場所：国立国語研究所 2F 多目的室

出席者：(50音順，略敬称) 朝日，尾崎，熊谷，久木田，辻，西尾，松田，松丸

○配布資料：平成18年国語研概要，国語研の窓（29号），岡崎調査についての資料一式

議事進行

○配布資料のそれぞれの内容について，説明をした。内容に関する意見交換を行なった。
以下に主だった意見をまとめておく。

- 委員としての仕事をするにあたって，国語研究所の岡崎調査の報告書（2冊）と敬意表現の調査報告書（「言語行動における『配慮』の諸相」1冊）を読むことが望まれる。報告書を入手していない人には配布することとなった。
- 役割として委員のメンバーは，「経年調査班」「基盤調査班」ともに関わるという原則で企画にあたってもらう方針である。だが，データが収集されるまでは特にグループ分けせず一緒に進める方針でいったらどうか。全体で調査の方向付けを考え，具体的な調査の枠組みができあがってきてから，ワーキンググループ的な性格のものとして，作業グループでの打ち合わせをしてもいいのではないか。
- 日程としては，18年度に準備（経費は運営交付金），19年度には予備調査，20年度に本調査の実施，21年度には分析を行い，22年度（経費は運営交付金）にまとめを行なう，と考える方針でいいのではないか。
- 記述調査の日程はこのままだとみつすぎる。19年度中には，予備調査を実施し，本調査の設計を考えるべきではないか。時間をかけて整理をしていなければ，調整が難しくなってしまう。
- 調査の日程についても，現地の人からの情報収集を基盤として設計するのはどうか。机上の空論のままだと現実的な日程が組めないのではないか。
- 科研の申請書のことについては，経年調査と基盤調査の関係がよりわかりやすいものにしたらどうか。単に2種類の調査をするのではなく，両者がどのように関連を持ち，相乗効果が期待できるかを述べるといいのではないか。
- 分担金については，研究分担者への配分は，基本的には，これまでの国語研での調査ではやらなかったが，希望に応じて対応することはできる。
- 次回の委員会については，予備的な調査を今年度から少しでも進められるよう，来年の1月に愛知県岡崎市で開催する方向で調整する。宿泊先等の情報については，久木田委員から提供してもらう予定。

機関番号	研究種目番号	審査区分番号	細目番号	分割番号	整理番号
82618	04	1	3002		0001

平成19年度(2007年度)基盤研究(A)(一般)研究計画調書

平成18年11月 8日
2版

新規

研究種目	基盤研究(A)	審査区分	一般				
分野	人文学						
分科	言語学						
細目	日本語学						
細目表 キーワード	言語生活						
細目表以外の キーワード	敬語						
研究代表者 氏名	(フリガナ)	スギト セイジユ					
	(漢字等)	杉戸 清樹					
所属研究機関	独立行政法人国立国語研究所						
部局	その他部局等						
職	所長						
研究課題名	敬語と敬語意識の半世紀－愛知県岡崎市における第3次調査－						
研究経費 〔千円未満の 端数は切り 捨てる〕	年度	研究経費 (千円)	使用内訳(千円)				
			設備備品費	消耗品費	旅費	謝金等	その他
	平成19年度	18,288	4,669	1,629	6,010	5,730	250
	平成20年度	16,887	0	250	9,679	6,130	828
	平成21年度	14,825	0	250	8,110	5,780	685
	平成22年度	0	0	0	0	0	0
	総計	50,000	4,669	2,129	23,799	17,640	1,763
分担金の配分	無						
開示希望の有無	審査結果の開示を希望する						
研究計画最終年度前年度応募	--						

研究組織（研究代表者及び研究分担者）

※ 研究分担者も応募資格を有する者であり、
本研究計画に常時参加する者です。

	氏名（年齢）	所属研究機関 部局 職	現在の専門 学位 役割分担	平成19年度 研究経費 （千円）	エフオ ート （%）
研究代表者	10099913 (57) スギト セイジユ 杉戸 清樹	(82618) 独立行政法人国立国語研究所 (999) その他部局等 (25) 所長	言語行動論, 社会言語学 文学修士 総括	18,288	20
研究分担者	30000425 (64) エガワ キヨシ 江川 清	(35413) 広島国際大学 (716) 人間環境学部 (20) 教授	社会言語学 教育学士 総括, 経年調査の企画・実施	0	10
研究分担者	00099912 (61) サナダ シンジ 真田 信治	(14401) 大阪大学 (923) 文学研究科 (20) 教授	社会言語学 文学博士 総括, 基盤調査の企画・実施	0	10
研究分担者	90200948 (58) ヨシオカ ヤスオ 吉岡 泰夫	(82618) 独立行政法人国立国語研究所 (999) 研究開発部門 (25) 上席研究員	社会言語学 文学修士 総括, 基盤調査の企画・実施	0	10
研究分担者	40011332 (64) イノウエ フミオ 井上 史雄	(32404) 明海大学 (206) 外国語学部 (20) 教授	社会言語学 博士（文学） 総括, 経年調査の企画・実施	0	10
研究分担者	60182713 (48) ヨコヤマ ショウイチ 横山 詔一	(82618) 独立行政法人国立国語研究所 (999) 研究開発部門 (25) グループ長	認知心理学, 心理言語学 博士（心理学） 総括, 基盤調査の企画・実施	0	5
研究分担者	10204190 (48) オザキ ヨシミツ 尾崎 喜光	(82618) 独立行政法人国立国語研究所 (999) 研究開発部門 (25) 主任研究員	社会言語学 修士（文学） 経年調査・基盤調査の企画・実施	0	10
研究分担者	40207816 (48) クマガイ トモコ 熊谷 智子	(82618) 独立行政法人国立国語研究所 (999) 研究開発部門 (25) 主任研究員	談話分析, 言語行動研究 文学修士 経年調査・基盤調査の企画・実施	0	15
研究分担者	40263636 (45) マツダ ケンジロウ 松田 謙次郎	(34513) 神戸松蔭女子学院大学 (201) 文学部 (20) 教授	変異理論 Ph. D. 経年調査・基盤調査の企画・実施	0	15
研究分担者	60314340 (35) ニシオ ジュンジ 西尾 純二	(24403) 大阪府立大学 (323) 人間社会学部 (22) 講師	社会言語学 博士（文学） 経年調査・基盤調査の企画・実施	0	15
合計 一名（うち他機関の分担者数 一名）			研究経費合計	—	

研究組織（研究代表者及び研究分担者）

※ 研究分担者も応募資格を有する者であり、
本研究計画に常時参加する者です。

	氏名（年齢）	所属研究機関 部局 職	現在の専門 学位 役割分担	平成19年度 研究経費 （千円）	エフオ ート （%）
研究分担者	50392543 (33) アサヒ ヨシユキ 朝日 祥之	(82618) 独立行政法人国立国語研究所 (999) 研究開発部門 (24) 研究員	社会言語学, 言語接触論 博士（文学） 経年調査・基盤調査の企画・実施, 事務局	0	35
研究分担者	30379218 (33) マツマル ミチオ 松丸 真大	(14401) 大阪大学 (923) 文学研究科 (23) 助手	社会言語学 文学修士 経年調査・基盤調査の企画・実施	0	15
研究分担者	50311155 (55) イソベ ヨシコ 磯部 よし子	(82618) 独立行政法人国立国語研究所 (999) 情報資料部門 (24) 研究員	社会言語学 短大卒 事務局, 経年調査の企画・実施	0	10
研究分担者	10311151 (55) ツカダ ミチヨ 塚田 実知代	(82618) 独立行政法人国立国語研究所 (999) 情報資料部門 (24) 研究員	社会言語学 短大卒 事務局, 基盤調査の企画・実施	0	10
合計 14 名（うち他機関の分担者数 6 名）			研究経費合計	18,288	

研究目的

本欄には、研究の全体構想及びその中で本研究の具体的な目的について、適宜文献を引用しつつ記述し、特に次の点については、焦点を絞り、具体的かつ明確に記述してください。(記述に当たっては、「科学研究費補助金(基盤研究等)における審査に関する規程」(公募要領59～90頁参照)を参考にしてください。)

- ① 研究の学術的背景(本研究に関連する国内・国外の研究動向及び位置づけ、応募者のこれまでの研究成果を踏まえ着想に至った経緯、これまでの研究成果を進展させる場合にはその内容等)
- ② 研究期間内に何をどこまで明らかにしようとするのか
- ③ 当該分野における本研究の学術的な特色・独創的な点及び予想される結果と意義

【研究の学術的背景】

本研究は、敬語と敬語意識について、昭和27年度と昭和47年度に文部省科学研究費補助金を受けて愛知県岡崎市で2度実施された、国立国語研究所による調査(国立国語研究所1957, 1983)の3回目の経年調査を企画・実施するものである。人口動態の活発化にともなう地域社会の変容と言葉との関係、特に、敬語使用基準の変化や多様化の把握は、第1次調査からの研究課題である。これまでの調査から、社会の変化によって敬語の使い分けの幅が広がったり、敬語意識にも変化が生じたりしていることが示されている(国立国語研究所1983)。

第2次調査以降の日本社会も大きく変化している。現在における敬語と敬語意識の姿を明らかにし、第1次調査が行われてから半世紀の間における敬語使用と敬語意識の変遷を解明するためには、これまでの調査を踏まえた経年調査を行うことが不可欠である。なお、敬語と敬語意識について同一地点で継続して大規模な調査研究を行うという点では、国内外の研究においても他に事例はない。この点で、本研究は当該分野における先駆的なものとして位置づけられる。

さらに、敬語と敬語意識は、日本語の社会言語学的な状況を記述する上で、絶えず目配りをする必要のある言語事象である。その意味でも、敬語の将来像を占う可能性を持つ本経年調査を継続する必要性は高い。また、国語施策や国語教育施策の立案にあたって、敬語は重要な課題であり、科学的調査に基づく情報が不可欠である。本研究はこれらへの貢献も企図している。

【研究期間内に何をどこまで明らかにしようとするのか】

上述の通り、愛知県岡崎市で2度行なってきた経年的調査研究の第3次調査を行うことが、本研究の目的である。本研究を実行するにあたっては、第1に、これまでの調査を踏まえた調査(以下「経年調査」と称する)を行うこととする。経年調査は、サンプリングによって抽出された回答者に対して行う「継続調査」と、第1次・2次調査で協力を仰いだ回答者に対して調査を再度行う「パネル調査」の2つの調査で構成される。

また、経年調査の成果を分析・活用するためには、経年調査で明らかにした敬語と敬語意識の実態が、言語生活のどのような側面を捉えたものなのかを正確に記述することが必要となる。このことを目的として、経年調査の調査結果を支える基盤となる調査を実施する(以下、この調査を「基盤調査」と称する)。

本研究では、以上の経年調査と基盤調査それぞれの企画・準備調査・本調査・分析を3年計画で行う。以下に、経年調査、基盤調査それぞれの目的と、明らかにすることがらを表に掲げる。

I. 経年調査(継続調査・パネル調査)

目的	・第3次調査時点における敬語・敬語意識の解明	・第1次・2次調査との比較による敬語・敬語意識の変遷過程の解明
明らかにする点	・第3次調査時点における「丁寧さ」の度合いの実態 ・設定場面における敬語(相当)形式の使用実態 ・敬語に対する意識の実態	・3回の調査で得られる「丁寧さ」の変遷の把握 ・設定場面で使用される敬語(相当)形式の使用の変遷 ・敬語に対する意識の変遷
具体例(抜粋)	・対話の基調(「です・ます体」「であります体」「でございます体」)の実態 ・「おつりをもらう」「道を教えてもらう」等の場面における敬語(相当)形式の使用実態 ・家庭内における目上の人や年長者に対する敬語の使用・不使用に対する意識の実態	・対話の基調(「です・ます体」「であります体」「でございます体」)の変遷 ・「おつりをもらう」「道を教えてもらう」等の場面における敬語(相当)形式の使用の変遷 ・家庭内における目上の人や年長者に対する敬語の使用・不使用に関する意識の変遷

研究機関名	独立行政法人 国立国語研究所	研究代表者氏名	杉戸清樹
-------	----------------	---------	------

研究目的(つづき)

II. 基盤調査

基盤調査は、①敬語・敬意表現を含んだ待遇表現の記述的調査、②敬語・敬意表現に関する言語行動意識についての意識調査で構成される。①は、経年調査で扱うこととなる敬語形式の使用実態を捉える基礎的な調査、②は、経年調査で扱う敬語意識が、言語行動意識全体の中で占める位置づけを明らかにする基礎的な調査、としてそれぞれ位置づけられる。

調査	・敬語・敬意表現を含んだ待遇表現の記述的調査	・敬語・敬意表現に関する言語行動意識の詳細調査
目的	・敬語形式のもつ待遇的な価値の解明	・敬語意識の俯瞰図の把握
明らかにする点	・共通語の敬語形式の敬意の度合い ・方言敬語と共通語の敬語との関係	・敬語／方言そのものに対する意識の解明 ・方言敬語使用意識／敬語使用意識の解明
具体例	・「イラッシャル」「レル・ラレル」の敬意の度合い ・「ミエル」「オイデル」と「イラッシャル」との関係の把握	・「イラッシャル」「ミエル」そのものに対する評価・志向意識の解明 ・「ミエル」「オイデル」「イラッシャル」を使用場面に関する意識の解明

以上のように、本研究は、愛知県岡崎市における敬語・敬意表現、及びそれに対する意識に関して、①現時点での共時的な実態、②半世紀の間の通時的な変遷、③待遇表現全体の中での位置づけを、多角的に捉えようとする。

【当該分野における本研究の学術的な特色・独創的な点及び予想される結果と意義】

[学術的な特色・独創的な点]

本研究は、半世紀にわたる経年調査の手法で、同一の調査内容で同一の対象地域・対象者に対する調査を実施する点で特色を持つ。この手法による調査研究の代表的な例としては、国立国語研究所が山形県鶴岡市で行った共通語化調査(国立国語研究所1953, 1974, 1994)が挙げられる。だが、経年の手法を用い、敬語と敬語意識の変遷を把握する大規模な調査研究は他に前例がなく、独創的である。

さらには、将来の第4次、第5次経年調査に向けての確かな一里塚を築き、言語変化を実時間の歴史の中で追跡する言語研究としてかけがえのない意義を有するものである。

[予想される結果と意義]

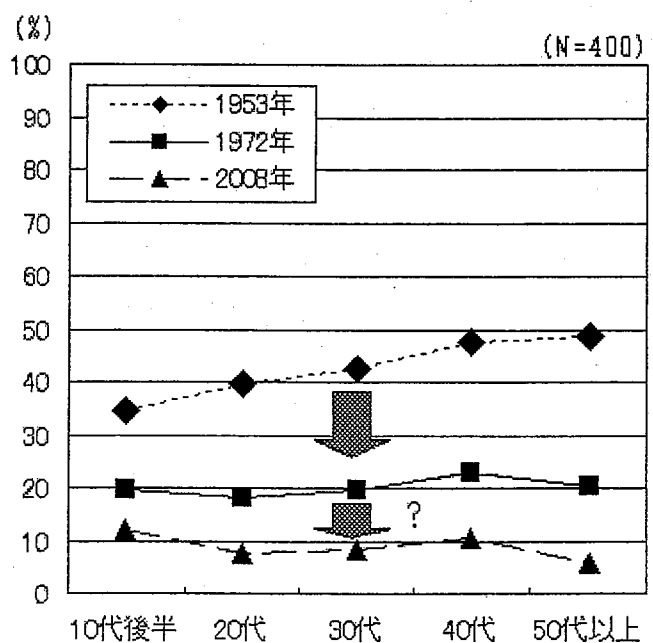
2回の調査から、敬語および敬語意識に変化が生じていることが確認された。例えば、第1次・第2次調査では、「家庭内において目上、または年長者に対して敬語を使うか」という質問をしている。右のグラフは、「使う」という回答率を示したものであるが、第1次調査と第2次調査の間に、その割合は減少していた。今回の調査では、例えば、文化庁の調査結果などから、その傾向がさらに強くなる結果が出るものが予想される。

本研究では、例えばこのように、半世紀の間に見られる敬語・敬語意識の変遷を把握し、それに基づいて敬語の将来を考えるための知見をもたらすものであり、学術的意義は大きい。

これと並んで、これらの調査結果は、文化審議会・国語分科会での審議のための基礎資料として、また、学校教育や社会教育に活用される資料としても貢献度はきわめて高い。

【参考文献】

国立国語研究所(1957) 『敬語と敬語意識』 秀英出版
 国立国語研究所(1953) 『地域社会の言語生活－鶴岡における実態調査』 秀英出版
 国立国語研究所(1983) 『敬語と敬語意識－岡崎における20年前との比較－』 三省堂
 国立国語研究所(1974) 『地域社会の言語生活－鶴岡における20年前との比較－』 秀英出版
 国立国語研究所(1994) 『鶴岡方言の記述的研究』 秀英出版



研究計画・方法

本欄には、研究目的を達成するための具体的な研究計画・方法について、平成19年度の計画と平成20年度以降の計画に分けて、適宜文献を引用しつつ記述してください。ここでは、研究が当初計画どおりに進まない時の対応など、多方面からの検討状況について述べるとともに、次の点についても、焦点を絞り、具体的かつ明確に記述してください。

① 研究計画を遂行するための研究体制について、研究代表者、研究分担者及び研究協力者（海外共同研究者、科学研究費への応募資格を有しない企業の研究者、大学院生等（必要に応じ氏名、員数を記入することも可））の具体的な役割（図表を用いる等）、及び研究分担者ともに行う必要がある場合には、学術的観点から研究組織の必要性・妥当性及び研究目的との関連性

② 研究代表者が、本研究とは別に職務として行う研究のために雇用されている者である場合、または職務ではないが別に行う研究がある場合には、その研究内容と本研究との関連性及び相違点

①研究計画を遂行するための研究体制

1. 研究組織と役割

研究体制として、以下に示す調査班・調査グループを構成する。各調査班、調査グループの役割、及び、研究代表者・研究分担者・研究協力者の分担を表により示す。

調査班・グループ		役割
総括班		プロジェクト全体の企画・運営を統括する。全体的な方向付け、進捗状況の把握、愛知県岡崎市等との折衝などを担当し、各班・グループの活動の相互調整を図る。
経年調査班	調査法グループ	敬語を扱った継続調査の持つ学術的意味を検討し、その意義を提示する。第1次・第2次調査で行われた調査方法の意義を検討し、今回の調査方法を確定させる。これらを踏まえて経年調査を実施する。
	調査項目グループ	第2次調査の調査項目を吟味し、敬語・敬語意識を捉える今回調査の視点を定める。調査場面の持つ待遇の価値等を吟味した上で、必要に応じて調査項目の改訂を行う。これらを踏まえて経年調査を実施する。
基盤調査班	記述調査グループ	第1次・第2次調査で捉えた敬語形式が、待遇表現全体でどのような位置づけとなるかを、少数に対する詳細な記述的調査を通して把握する。これにより、経年調査の調査結果を吟味し、調査が捉える局面を明らかにする。
	意識調査グループ	第1次・第2次調査で扱った敬語意識が、敬語意識全体の中でどのような位置づけとなるかを、小規模調査を通して明らかにする。敬語意識全体を捉えるため、調査場面をより広い領域で扱い、非言語行動的要素も視野に入れた、敬語意識の俯瞰図を描くことを目指す。これらにより、経年調査の調査項目との関係を吟味し、調査が捉える局面を明らかにする。
事務局		研究分担者・協力者による研究打ち合わせに関する事務的な連絡、愛知県岡崎市での調査の実施、運営に関する事務的業務、データの整理・管理等を担当する。

氏名		担当班	氏名		担当班
代表者	杉戸清樹	総括班	西尾純二	経年調査班・基盤調査班	
分担者	江川清	総括班・経年調査班	分担者	朝日祥之	経年調査班・基盤調査班・事務局
	真田信治	総括班・基盤調査班		松丸真大	経年調査班・基盤調査班
	井上史雄	総括班・経年調査班		塚田実知代	基盤調査班・事務局
	吉岡泰夫	総括班・基盤調査班		磯部よし子	経年調査班・事務局
	横山詔一	総括班・基盤調査班	協力者	久木田恵	経年調査班・基盤調査班
	尾崎喜光	経年調査班・基盤調査班		辻加代子	経年調査班・基盤調査班
	熊谷智子	経年調査班・基盤調査班		非常勤研究員	経年調査班・基盤調査班・事務局
	松田謙次郎	経年調査班・基盤調査班			

2. 研究組織の必要性・妥当性及び研究目的との関連性

研究組織は、研究代表者1人に研究分担者13人、研究協力者3人を加えた計17人で構成する。分担者は、総括班、または、経年調査班・基盤調査班の作業を担当する。総括班の担当者は、これまで国立国語研究所での言語生活研究に関する専門知識と経年調査を含めた調査経験を持っている。経年調査班・基盤調査班の担当者は、すべて敬語・言語行動、愛知県方言、歴史言語学、社会言語学の専門家である。以上のような構成員によって、愛知県岡崎市の敬語・敬語意識の実態を多角的に捉えられるような研究組織を構成した。また、臨地調査を含む本研究を遂行するためには、事務局組織が不可欠であるので、分担者（朝日・塚田・磯部）及び、非常勤研究員により構成することとした。

② 研究代表者が、本研究とは別に職務として行う研究のために雇用されている者である場合等
該当なし

研究機関名	独立行政法人 国立国語研究所	研究代表者氏名	杉戸清樹
-------	----------------	---------	------

研究計画・方法(つづき)

[平成19年度]

平成19年度は、平成20年度に予定している本調査の実施に向けた、予備調査を企画・実施する。各グループの計画は以下のとおり。

月	全体会議	経年調査		基盤調査	
		調査法グループ	調査項目グループ	記述調査グループ	意識調査グループ
5	第1回会議	調査方法・内容の方向性についての検討			
6					
7	第2回会議	予備調査の枠組みの策定			
8		経年調査法の吟味	第1次・第2次調査の項目の吟味	予備調査準備	予備調査準備
9				予備調査の実施	予備調査の実施
10		予備調査項目の策定		データ分析	データ分析
11				データ分析	データ分析
12	第3回会議	予備調査項目の確定		データ分析の報告	データ分析の報告
1		予備調査の実施		本調査への準備	
2					
3		データ整理・入力			

1. 調査方法の再検討・調査項目策定・データ分析

【全体会議】(旅費, 会議費)

第1回(5月) 第3次岡崎調査を実施するための基本方針の提示

第2回(7月) 第3次岡崎調査・予備調査に向けた体制の確認と調査班・グループごとの進行スケジュールの調整

第3回(12月) 経年調査の予備調査の調査項目の確定, 基盤調査の予備調査のデータ分析の報告

【班・グループ会議】(設備備品費, 旅費, 会議費, 消耗品費, アルバイト謝金)

8月 基盤調査班: 記述予備調査および意識予備調査の項目の策定

11月 基盤調査班: 記述予備調査および意識予備調査のデータ分析

10・11月 経年調査班: 予備調査の調査項目の策定

3月 経年調査班: 予備調査データの整理・入力

2. 予備調査の実施

【基盤調査班】(旅費, 調査費, 消耗品費, アルバイト謝金)

9・10月 記述予備調査および意識予備調査の実施

- ・調査地点・調査方法: 愛知県岡崎市, 面接調査法

- ・対象者数・調査期間: 記述予備調査: 4人, 約5日間

- 意識予備調査: 50人, 約7日間

【経年調査班】(旅費, 調査費, 消耗品費, アルバイト謝金)

1・2月 予備調査の実施

- ・調査地点・調査方法: 愛知県岡崎市, 面接調査法

- ・対象者数・調査期間: 50人, 約7日間

※研究が当初計画通りに進まない時の対応

調査の実施にあたっては、自治体や被調査者への依頼を周到に行って書面で承諾を得るなど、有効回答の確保に努める。調査不能・調査拒否などが生じた場合に備えて、代替・追加サンプリング等の工夫も考慮に入れる。

研究計画・方法(つづき)

[平成20年度以降]各グループの計画は以下のとおり。

年度	月	全体会議	経年調査		基盤調査	
			調査法グループ	調査項目グループ	記述調査グループ	意識調査グループ
平成20年度	4		予備調査データの整理・入力			
	5		調査項目策定	調査項目策定	経年調査への参加	
	6					
	7	第4回会議	調査項目の確定			
	8		サンプリング			
	9		本調査(継続調査)の実施			
	10		本調査(パネル調査)の実施			
	11		データ整理・集計の方法の確定			
	12	第5回会議	データ整理・入力			
	1		データ整理・入力			
	2		データ整理・入力			
	3		データ整理・入力			
平成21年度	4		データ整理・入力			
	5	第6回会議	データ分析の報告			
	6				調査項目の策定	調査項目の策定
	7	第7回会議	データ分析の報告		調査項目の確定	調査項目の確定
	8		補充調査(継続調査・パネル調査)の実施		本調査の実施	本調査の実施
	9		データ整理・入力		データ整理・入力	データ整理・入力
	10		データ整理・入力		データ整理・入力	データ整理・入力
	11	第8回会議	データ分析の報告・研究成果報告書の執筆方針確定			
	12		研究成果報告書原稿執筆			
	1		研究成果報告書原稿の締め切り			
	2		研究成果報告書の印刷			
	3		研究成果報告書の印刷			

平成20年度は、経年調査・本調査の実施、平成21年度は経年調査の補充調査、および、基盤調査の本調査を実施する。

1. 調査方法の再検討・調査項目策定・データ分析

【全体会議】(旅費, 会議費)

- 第4回(H20・7月) 経年本調査(継続調査・パネル調査)の調査項目の確定
- 第5回(H21・1月) 経年本調査のデータの整理・集計方法の確定
- 第6回(H21・5月) 経年本調査のデータ分析の報告
- 第7回(H21・7月) 経年本調査のデータ分析の報告, 基盤調査の調査項目の確定
- 第8回(H21・11月) 基盤調査のデータ分析の報告, 研究成果報告書の執筆方針の確定

【班・グループ会議】(設備備品費, 旅費, 会議費, 消耗品費, アルバイト謝金)

- H20・4月 経年予備調査のデータ整理・入力作業
- H20・5・6月 経年本調査の調査項目に関する検討
- H21・2-4月 経年本調査のデータ整理・入力作業
- H21・6月 基盤本調査の調査項目に関する策定
- H21・9・10月 経年補充調査, および基盤本調査データの整理・入力作業

2. 本調査の実施

【経年調査班】(旅費, 調査費, 消耗品費, アルバイト謝金)

- H20・8月 サンプリングの実施(分担者3名, 約3日間)
- H20・9月-12月(本調査), H21・8・9月(補充調査) 継続調査およびパネル調査の実施
 - ・調査地点・調査方法: 愛知県岡崎市, 留め置き調査法・面接調査法
 - ・対象者数・調査期間: 継続調査: 400サンプル, 約15日間
 パネル調査: 約300サンプル, 約10日間 補充調査: 約100サンプル, 約5日間

【基盤調査班】(旅費, 調査費, 消耗品費, アルバイト謝金)

- H21・8月 記述本調査および意識本調査の実施
 - ・調査地点・調査方法: 愛知県岡崎市, 面接調査法
 - ・対象者数・調査期間: 記述本調査: 4人, 約5日間 意識本調査: 50人, 約7日間

3. 成果発表: 国内・海外の学会で最終成果を発表(平成21年度)(旅費)

4. 最終報告書の作成・送付(平成21年度)(印刷費・通信費)

研究機関名	独立行政法人 国立国語研究所	研究代表者氏名	杉戸清樹
-------	----------------	---------	------

今回の研究計画を実施するに当たっての準備状況等

本欄には、次の点について、焦点を絞り、具体的かつ明確に記述してください。

- ① 本研究を実施するために使用する研究施設・設備・研究資料等、現在の研究環境の状況
- ② 共同して研究を行う者がいる場合には、その者との連絡調整の状況など、研究着手に向けての状況
- ③ 本研究の研究成果を社会・国民に発信する方法等

① 本研究を実施するために使用する研究施設・設備・研究資料等、現在の研究環境の状況

- ・ 第1次調査・第2次調査で収集した研究資料は国立国語研究所にすべて保管されており、それらの活用が可能である。現在、被調査者探しのための協力体制の構築、及び、調査地の岡崎市に関する基礎的な情報の収集に着手している。

② 共同して研究を行う者がいる場合には、その者との連絡調整の状況など、研究着手に向けての状況

- ・ 協力・分担者とは、研究会合を開いて準備的な研究連絡に着手している。また、カナダの社会言語学者、J. K. Chambers 氏を招待し、経年調査に関する日本とカナダの研究動向について情報交換も行なっている。国内外の研究動向を整理し、調査企画を準備している。

③ 本研究の研究成果を社会・国民に発信する方法等

- ・ 個人情報には十分配慮をしたうえで、第3次調査の調査データを公開し、学術研究・教育に広く貢献する環境を整備する。同時に、協力・分担者自身が分析した結果をまとめた調査報告書を作成し公表する。これに加えて、成果を一般にわかりやすく伝える普及書を、平成22年度以降に公刊する準備をする。
- ・ 平成21年度には、国立国語研究所の普及活動の一環として行われる「ことばフォーラム」や公開研究発表会で調査の結果を報告する予定である。
- ・ 本調査で得られた情報を国語政策、学校教育への情報提供できる準備をする。具体的には、文化審議会・文部科学省等への資料提供を想定する。

研究計画最終年度前年度の応募を行う場合の記入事項 (該当者は必ず記述してください (公募要領14~15頁参照))

本欄には、研究代表者として行っている平成19年度が最終年度に当たる継続研究課題の当初研究計画、その研究によって得られた新たな知見等の研究成果及び中間評価結果 (特別推進研究及び基盤研究 (S) が該当) を記述するとともに、当該研究の進展を踏まえ、今回再構築して本研究に応募する理由 (研究の展開状況、経費の必要性等) を記述してください。 (なお、本欄に記述する継続研究課題の研究成果等は、10頁の「これまでに受けた研究費とその成果等」欄には記述しないでください。)

研究種目名	審査区分	課題番号	研究課題名	研究期間
			平成 年度～ 平成19年度

当初研究計画及び研究成果等

該当なし

応募する理由

岡崎調査第1回全体会議

- 日時・場所
 - ・ 2007年6月9日(土) 13時30分～16時30分
 - ・ 学術総合センター・103 特別会議室

- 出席者(敬称略)
 - ・ 江川清(広島国際大学), 松田謙次郎(神戸松蔭女子学院大学) 西尾純二(大阪府立大学) 松丸真大(大阪大学) 久木田恵(愛知教育大学) 辻加代子, 阿部貴人
 - ・ 杉戸清樹、吉岡泰夫、横山詔一、尾崎喜光、大西拓一郎、朝日祥之、高田智和、塚田実知代、磯部よし子(以上、国語研)

- 議題(13時30分～15時15分)
 - (1) 岡崎調査の体制について(岡調 07-001)
 - (2) 岡崎調査のスケジュールについて(岡調 07-002, 岡調 07-009)
 - (3) 各調査班の調査内容・調査の予定について(岡調 07-004～岡調 07-008)
 - (4) 第20回社会言語科学会でのワークショップ応募について(岡調 07-003)
 - (5) その他

- 各調査班での打ち合わせ(15時30分～16時30分)
 - (1) 打ち合わせのスケジュールについて
 - (2) 調査班での打ち合わせ事項

岡崎調査の調査体制とスケジュールについて

朝日祥之

* 岡崎調査の枠組みに向けて *

基本的には…①経年調査（これまでの調査を継承するもの）

②新しい調査（これまでにない調査を企画・実施するもの）

①経年調査：これまでの調査の方法・内容を継承するもの。

継承の仕方には2つの方法がありうる。

a. 第1次・第2次調査の内容をそのまま調査するもの（30年調査）

継続調査では…

敬語行動意識調査（第1次：434人、第2次：400人）

敬語に対する意見等の調査（第1次：434人、第2次：400人）

スライド調査（学校調査）（第1次：169人、第2次：585人）

対話調査（報告書では掲載されず）

パネル調査では…

敬語行動意識調査（第2次：185人）

敬語に対する意見等の調査（第2次：185人）

b. 第1次調査の内容を調査するもの（50年調査）

※第2次調査で採用されなかった調査を実施するか再検討

②新しい調査：これまでに調べられてないものに関する調査

待遇表現に関する記述的調査（約5人）

ポライトネスに関する質的・量的調査（約50人）

談話分析的なアプローチ（約10人）／発話機能による分析（約50人）

文字に関する調査・言語生活調査（約100人）

※ 岡崎調査の枠組み

3つの調査班と事務局を設ける

① 経年調査班：30年調査・50年調査の企画・実施を行う

② 記述調査班：待遇表現の記述を行う

③ 新規調査班：最新の敬語研究に見られる動向に則した調査を行う

④ 事務局：調査研究の運営を行う

※ 各調査班・事務局の年度計画

【経年調査班】

平成 19 年度

第 3 次調査で取り上げる調査の選出・予備調査の実施（平成 19 年 1・2 月）

平成 20 年度

本調査の実施（平成 20 年 10 月・11 月）・データの整理と集計

平成 21 年度

補充調査の実施（平成 21 年 5 月・6 月）成果発表（国内外）・成果報告書の作成

【記述調査班】

平成 19 年度

調査項目の策定・調査票原案を作成する。予備調査の実施（平成 20 年 2 月）

→ 経年調査の本調査項目の立案に寄与

平成 20 年度

予備調査の結果から経年本調査の項目案に寄与

本調査の実施（平成 21 年 2 月・3 月）

平成 21 年度

データ分析・学会発表・成果報告書の作成

【新規調査班】

平成 19 年度

調査項目の策定・調査票原案を作成する。予備調査の実施（平成 20 年 2 月）

→ 経年調査の本調査項目の立案に寄与

平成 20 年度

予備調査の結果から経年本調査の項目案に寄与

本調査の実施（平成 21 年 2 月・3 月）

平成 21 年度

データ分析・学会発表・成果報告書の作成

【事務局】

平成 19 年度

・調査実施に関する普及広報の実施・全体会議・各班打ち合わせの日程調整・議事録の作成・岡崎市とのコンタクト・インフォーマントの紹介等

平成 20 年度

サンプリングの実施・調査実施に関する普及広報の実施・全体会議・各班打ち合わせの日程調整・議事録の作成・岡崎市とのコンタクト・インフォーマントの紹介等

平成 21 年度

サンプリング（追加分）の手配，実施・調査結果報告に関する普及広報の実施・全体会議・各班打ち合わせの日程調整・打ち合わせ資料・議事録の作成・岡崎市とのコンタクト・インフォーマントの紹介・成果報告書の編集・刊行の準備等

※ 研究組織（下線部は研究所員）

総括： 杉戸 所長

経年調査班： 朝日（調整役）、尾崎、井上、江川、松田、松丸、礪部

記述調査班： 朝日（調整役）、大西、久木田、西尾、辻、塚田

新規調査班： 横山（調整役）、熊谷、吉岡、真田、高田

事務局： 朝日、塚田、礪部、阿部（8/1より）

1次2次調査を重視 経年調査

継続調査

- ・敬語行動意識
- ・敬語に関する意識

パネル調査

- ・敬語行動意識
- ・敬語に関する意識

最新の敬語研究を重視 新規調査

敬語談話調査

- ・談話分析
- ・発話機能

ポライトネス調査

- ・質的調査
- ・量的調査

言語生活調査

- ・文字生活調査

← 項目の調整 ←

調査すべき場面の提示
調査語形の提供

記述調査

待遇表現の記述調査

		全体	関連する仕事	学会の行事など	
平成19年度	平成19年	5月			
		6月	全体会議(1回目)		
		7月			
		8月			
		9月	全体会議(2回目)	所長と岡崎市長との面談	社会言語科学会(関西学院大)・計量国語学会・待遇コミュニケーション学会
		10月		経年予備調査のためのインフォーマント探し	
		11月			方言研究会・日本語学会・言語学会
		12月	経年予備調査の実施		
平成20年度	平成20年	1月		記述・新規予備調査のためのインフォーマント探し	
		2月	記述・新規予備調査の実施		
		3月			社会言語科学会・待遇コミュニケーション学会
		4月			
		5月			方言研究会・日本語学会
		6月	全体会議(3回目)		言語学会・関西言語学会
		7月			
		8月			
		9月		サンプリングの実施	社会言語科学会・計量国語学会・待遇コミュニケーション学会
		10月	経年本調査の実施		
		11月			方言研究会・日本語学会・言語学会
		12月			
平成21年度	平成21年	1月		記述・新規本調査へのインフォーマント探し	
		2月	記述本調査・新規本調査の実施		
		3月	全体会議(4回目)		社会言語科学会・待遇コミュニケーション学会
		4月		経年補充調査のためのインフォーマント探し	
		5月	経年補充調査の実施		方言研究会・日本語学会
		6月	全体会議(5回目)		言語学会・日本言語政策学会・関西言語学会
		7月			
		8月			
		9月	調査報告会の実施		社会言語科学会・計量国語学会・待遇コミュニケーション学会
		10月			
		11月	全体会議(6回目)		方言研究会・日本語学会・言語学会
		12月			
平成22年度	平成22年	1月			
		2月	執筆原稿回収		
		3月	成果報告書の刊行		社会言語科学会・待遇コミュニケーション学会

3. 調査項目の検討

第三次調査で行う面接調査の質問項目を策定するため、第一次調査・第二次調査の面接調査（サーヴェイ調査）の質問項目について、その設定場面や面接で提示する刺激図の適切性を検討する事前調査を行った。

以下は、そのうち、岡崎市民を対象にして実施した現地事前調査「経年調査プリテストⅠ」の資料である。

○「経年調査班プリテストⅠについて」…………… 33

- ・岡調07-063
- ・2008年1月28日付
- ・当該調査についての概要、対象者、日程、担当予定者を記載する。

○「岡崎経年調査プリテストⅠ 調査の手引き」…………… 35

- ・岡調07-068
- ・2008年2月付
- ・当該調査を実施する際の留意事項、質問項目等を記載する。
- ・このうち「フォローアップインタビューでの質問項目」が重要な関心事だった。

○「経年調査班プリテストⅠ」について……………39

- ・岡調07-079, 岡調07-080
- ・2008年3月8日付
- ・当該のプリテスト実施後の打合せ資料。17名の調査対象者のリストとともに、それぞれの回答者からの回答内容が詳細な一覧資料になっている。
- ・この調査結果などを参考にして、面接調査質問項目の場面設定の一部改訂（電報用紙→振込用紙など）、提示する刺激図の全面改訂をした。改訂の具体的な内容は報告書第2分冊に収録してある。

経年調査班プリテスト I について

1. 調査の目的

岡崎調査の第二次調査（サーヴェイ調査・社会生活調査）を岡崎市民対象に実施し、第三次調査の調査票策定に向けての検討材料を得る。また、東京・滋賀・兵庫・広島で実施した前調査の結果との相違を見極めることも併せて目的とする。

2. 調査の対象者

若年層，中年層，高年層（記述班・予備調査のインフォーマント）それぞれ5名ずつ。

若年層は前調査との比較，高年層は年齢層の違いによる場面等の捉え方の異なりにも注目する意図がある。

3. 調査時期と調査員

日時：2008年2月5日（火）～8日（火）

参加者：松田，松丸，辻，塚田，朝日，阿部

日程（▼は移動日，塗りつぶしは宿泊日）

	5 (火)	6 (水)	7 (木)	8 (金)	調査
松丸	▼	⑤	▼		プリテスト
朝日	▼	⑤	⑤	▼	プリテスト，事務局業務
阿部	▼	⑤	⑤	▼	プリテスト，記述，事務局業務
松田		▼	⑤	▼	プリテスト
辻		▼	⑤	▼	記述，プリテスト
塚田		▼	⑤	▼	事務局業務，プリテスト

4. 調査内容とチェック事項

調査は，第二次調査のサーヴェイ調査（＋上野 102 の1項目）と，社会生活調査を実施する（調査票は岡調 07-064，岡調 07-065）。

チェックすべき事項については，本打合せで検討したい。

岡崎経年調査プリテスト I

調査の手引き

- プリテスト I は①サーヴェイ調査項目, ②第三者敬語調査項目, ③敬語に対する意見の調査項目, ④社会生活調査項目で構成される。
- 本調査では, 調査票と刺激図を用いる。調査の様子は IC レコーダーで録音する。
※事前に IC レコーダーの電源や動作の確認をすること
- 調査時間は 1 時間程度。
※市役所での調査は時間厳守。時間の許す範囲の調査でよい。
- 社会生活調査項目については, 面接形式・アンケート形式のどちらかで調査する。
※両方の調査を一度に行う必要はないが, 調査期間中にそれぞれの調査は実施すること。
- 2 月下旬 (25~29 日) 実施予定のスライド調査の前調査に協力可能か, 都合を伺う。

調査時に留意すべきこと

- 質問番号 101~116 まで(サーヴェイ調査項目)
 - ・ 質問文を自分の言葉にせずに, 書かれてあるとおりに読み上げること。
 - ・ 質問文を読み上げるときには, 刺激図をインフォーマントにきちんと示すこと。
- 質問番号 117~123 まで(第三者敬語調査項目)
 - ・ 質問文を自分の言葉にせずに, 書かれてあるとおりに読み上げること。
 - ・ 質問文を読み上げるときには, 刺激図をインフォーマントにきちんと示すこと。
 - ・ 質問に登場する人物の関係については, 必要に応じて説明すること。
- 質問番号 201~211 まで(敬語に対する意見の調査項目)
 - ・ 質問文を自分の言葉にせずに, 書かれてあるとおりに読み上げること。
 - ・ 選択肢はゆっくりと読み上げること。
- 社会生活調査項目
 - ・ 差し支えない範囲で回答してもらうことを伝える。
 - ・ 回答が得られない項目については, 回答者の様子や反応をメモすること。
- 質問番号 19-25 について(調査者の判断)
 - ・ 調査者の主観で判断すること。
 - ・ 調査後に, 回答者の目の届かない所に移動したあとで記入するなど, 回答者には分からないようにする工夫したうえで記入すること。

フォローアップインタビューでの質問項目

○ 質問すること（1）サーヴェイ調査項目

- ・それぞれの場面について次の3つの質問をする。
 1. 登場人物が何歳に見えるのか
 2. 調査場面に違和感を覚えるか
 3. 経験したことのある場面として捉えているか想像で答えているのか

○ 質問すること（2）第三者敬語調査項目

- ・それぞれの質問について次の4つの質問をする。
 1. 答えやすい質問だったのか
 2. 調査場面に違和感を覚えるか
 3. 回答語形を選択するのに困らなかったのか
 4. 共通語形式と方言形式のどちらを使うと意識したか

○ 質問すること（3）敬語に対する意見の調査項目

- ・それぞれの質問について次の2つの質問をする。
 1. 答えやすい質問だったか
 2. 質問の内容に違和感を覚えるのか
- ・以下の点については、個別に聞く（可能であれば）。
 1. 質問 202 や 207 でいう「目上」の持つイメージ
 2. 質問 203 でいう「昔」がいつのことを指すか

○ 質問すること（4）社会生活調査項目

- ・回答するのに差し支えがあったかどうかを聞く。
- ・(差し支えがあった場合) どういった項目が該当するかを聞く。
- ・事前に郵送されてきた場合に、回答しにくくなる項目があるかどうか聞く。

機材の使用法——ICレコーダー（ROLAND）の録音方法

(1) [REC]ボタンを1回押し、スタンバイ状態にします。

※液晶画面の左下に「REC」と「STANBY」が交互に点滅していることを確認してください。

(2) 再生ボタンを1回押し、録音が始まります。

※録音が始まると、液晶画面左下の表示が「REC」だけになります。

(3) 録音を停止する場合は、停止ボタンを押してください。

※停止ボタンを押すと、自動的に1つのファイルが生成されます。

(1)～(3)を繰り返すと、自動的に別ファイルとして保存されます。

前のデータが上書きされることはありません。

ICレコーダーの録音データの回収方法・受け渡しについて

(1) 1日が終わった時点で、一旦機材（SDカードも）を回収し、PCにデータを移動する。

※DATやMDを使用した場合は、メディアを回収する。時間的に可能であれば、PCに取り込む。

(2) ？次の日の朝に空の機材を渡す。

※本調査を意識し、録音データを確実に保存することを第一に考え、それとともに、調査員が聞きなおしをしたいときに対応しやすい方法を探る。

調査終了時に回収するもの

回収するもの：刺激図・図書券の受領書

※調査票は、調査員が持ち帰る（準備調査のまとめ等に必要）

経年調査班プリテスト I について

1. 調査の目的

岡崎調査の第二次調査（サーヴェイ調査・社会生活調査）を岡崎市民対象に実施し、第三次調査の調査票策定に向けての検討材料を得ることを目的として実施した。

2. 調査の概要

日時：2008年2月5日（火）～8日（火）

調査員：松田，松丸，辻，朝日，塚田，阿部

No.	年層	氏名	調査者	備考
1	老	K. S.	松丸	
2	老	K. K.	松丸	
3	老	Y. K.	阿部	
4	老	Y. O.	辻	
5	老	K. E.	松田	
6	中	H. O.	松田	
7	中	T. O.	辻	市職員
8	中	S. A.	阿部	市職員
9	中	A. H.	塚田	市職員
10	若	K. H.	松田	市職員
11	若	Y. I.	塚田	市職員
12	若	W. O.	松田	市職員
13	若	Y. K.	松丸	短大生
14	若	R. I.	辻	短大生
15	若	K. O.	朝日	市職員
16	若	T. O.	阿部	短大生
17	若	Y. I.	阿部	市職員

※ 老年層：5名，中年層：4名，若年層：8名，計17名。

3. 調査内容とインフォーマントへの確認事項

調査は、第二次調査のサーヴェイ調査（上野 102 の 1 項目）と、社会生活調査を実施する（調査票は岡調 07-064，岡調 07-065）。

インフォーマントへの確認事項は配布した「岡崎経年調査プリテスト I 調査の手引き」（岡調 07-068）を参照のこと。

調査者	tsj	tsj	tsj	
02.被調査者氏名	T. O.	R. I.	Y. O.	
03.生年	S35,3	S83,1	S17,1	
04.性別	F	F	M	
調査期日 2008年2月	6	7	7	
開始時刻	pm5:35	am9:09	pm1:07	
①サーヴェイ調査項目				
101. 道教え	A-1年齢	50いくつか50歳くらい	40代	40歳位
	A-2違和感	違和感を覚えることはない	特になし(明大橋を知らないの で申し訳ないとのこと)	なし
	A-3経験/想像	難しい、道をたずねられることは 経験あり。明大寺橋については 経験したことはない、ある程 度想像	経験なし	経験している
	B調査者コメント C改善案			
102. 振込用紙	A-1年齢	30代	30代前半	30歳位
	A-2違和感	なし	なし	(絵)違和感あり。黒い腕カバー・ 郵便局のマークでもどこかにあ ると、わかり易い。(質)違和感 なし
	A-3経験/想像	経験した場面	あんまり経験ない。あんまり想 像できなかった。	(経験は)郵便局ではないが、銀 行ではある
	B調査者コメント C改善案			
103. 荷物あづけ	A-1年齢	30代位	40代	50歳位
	A-2違和感	なし	ちょっと違和感を感じた。(説明) 荷物は普通だったら大きい荷物 だとロッカーに預けるから、人に 頼んだりすることはないので	(絵)違和感あり(店員)は女性の 方がいいんじゃないかと思う。レ ジの位置は左手の所(と向き 合って左側を指し)にあった方が いい。後に棚でもあって商品が あった方がいい
	A-3経験/想像	経験あり	経験はない	自分が(頼み)を受けたことはあ る。自分は頼んだことはない。
	B調査者コメント C改善案			
104. 傘忘れ	A-1年齢	20代後半~30代	30代前半	25(歳)
	A-2違和感	特になし	特になし	特になし
	A-3経験/想像	経験あり	想像	経験あり
	B調査者コメント C改善案			
105. 先生	A-1年齢	80歳くらい	60歳	75歳
	A-2違和感	なし	なし(弟なのか子どもなのか、私 からしたら弟だとしたらちょっと 離れている感じなのでそこが ちょっと。兄妹は姉しかいない。	なし
	A-3経験/想像	想像での回答	想像	経験あり
	B調査者コメント C改善案		(注)質問文に「弟↑」と反応。調 査者は「仮に」と答えた	
106. 電灯料	A-1年齢	30代後半	20代後半	40歳位
	A-2違和感	覚える(うちは振込みだし)	なし	なし
	A-3経験/想像	想像	想像	経験はない。想像で答えた
	B調査者コメント C改善案			
107. 議事堂	A-1年齢	40代	26位	25~30(歳)
	A-2違和感	なし。道を尋ねることはよくある。	なし	(絵)違和感あり。(質)違和感な し
	A-3経験/想像	想像(国会議事堂を尋ねること はないので)	(経験)あり	国会議事堂ということでは経験 したことない。東京で道を聞いた 経験あり。

調査者	mam	mam	mam	
02.被調査者氏名	K. K.	K. S.	Y. K.	
03.生年	S10	S13	S62	
04.性別	M	F	F	
調査期日 2008年2月	5	6	7	
開始時刻	15:10	10:04	9:00	
①サーヴェイ調査項目				
101. 道教え	A-1年齢			
	A-2違和感	なし		
	A-3経験/想像	経験。よくある。		
	B調査者コメント C改善案			
102. 振込用紙	A-1年齢	40歳	35.6歳	50歳くらい
	A-2違和感	なし	なし。ただ、今の人は腕に黒いものを付けていないのではないかと。絵が古い。	違和感はないが「振り込み」ということには慣れていない。
	A-3経験/想像	経験	経験	経験
	B調査者コメント C改善案			
103. 荷物あずけ	A-1年齢	40歳から50歳	40歳前後	40歳くらい
	A-2違和感	なし	なし	すごく違和感がある。もし荷物があつたら今はロッカーに入れてしまう。
	A-3経験/想像	経験。荷物を預けることがよくある。	経験	想像で答えた。
	B調査者コメント C改善案			
104. 傘忘れ	A-1年齢	25歳から30歳	20歳くらい	25歳くらい
	A-2違和感	なし	なし	なし
	A-3経験/想像	経験。忘れることがよくあるし、声をかけたこともある。	経験。ハンカチやマフラーを忘れたのを指摘したことがある。	経験。自分が傘をよく忘れるので、その時言われたことを想像しながら答えた。
	B調査者コメント C改善案			
105. 先生	A-1年齢	60歳くらい	80歳くらい。杖をついているから。	65歳から70歳
	A-2違和感	なし	なし。	まだ子供がいないので少し違和感がある。しかし恩師に会うということはある。【弟を連れていたとしたら？】弟も大きいのでやっぱり違和感がある。
	A-3経験/想像	想像。体験はあまりない。	想像。実際には先生に会うことはない。	想像
	B調査者コメント C改善案			
106. 電灯料	A-1年齢	35歳から40歳	45歳くらい	35歳くらい
	A-2違和感	なし	なし	実際にはポストに伝票が入っているか、予め電話があつてから来るので突然訪問されることに違和感がある。また、普段は見知らぬ人を玄関に入れられないのでその点でも違和感がある。
	A-3経験/想像	想像。新聞の集金人なら来る。	想像。電気料以外だと新聞の集金人などが来るが、電気料は集金人が来ない。	想像
	B調査者コメント C改善案	もしかしたら「振り込め詐欺」と間違えているかもしれない。		
107. 議事堂	A-1年齢	40歳前後	35.6歳。スーツを着ている人の年齢は分からない。	40歳
	A-2違和感	なし	なし	よく道を尋ねるので違和感なし。
	A-3経験/想像	経験。実際には、まず薬屋さんのような店を探す。もし店がなければ、絵のような若い人ではなくて同じくらいの年代(60歳から70歳)の人に尋ねる。薬を配達する仕事をしているが、配達中に道が分からない時に道を聞くことがある。	経験。どこに行っても道を聞く。	経験

調査者	abe		abe	
02.被調査者氏名	T. O.	S. A.	Y. I.	
03.生年	S63.2	S42.1	S57.5	
04.性別	F	F	M	
調査期日 2008年2月	7	8	7	
開始時刻	10:10	9:30	pm1:30	
①サーヴェイ調査項目				
101. 道教え	A-1年齢			
	A-2違和感			
	A-3経験/想像			
	B調査者コメント C改善案			
102. 振込用紙	A-1年齢	50歳	40代	40歳
	A-2違和感	なし	1回	ない
	A-3経験/想像	想像	想像	想像
	B調査者コメント C改善案			
103. 荷物あづけ	A-1年齢	60歳	32.3歳	45歳
	A-2違和感	なし	ない	ある
	A-3経験/想像	想像	想像	経験
	B調査者コメント C改善案			
104. 傘忘れ	A-1年齢	25歳	30代	30歳
	A-2違和感	なし(ハンカチ)	ある	ある
	A-3経験/想像	想像	経験	想像
	B調査者コメント C改善案			
105. 先生	A-1年齢	70歳	60,70代	70歳
	A-2違和感	ある。バイト先で会ったことはあるが、道ではあったことがない	ない	ない
	A-3経験/想像	想像	想像	想像
	B調査者コメント C改善案			
106. 電灯料	A-1年齢	40歳	30歳	30歳
	A-2違和感	なし	ない	ない
	A-3経験/想像	想像	想像(新聞代ならOK)	想像。ヤクルト。
	B調査者コメント C改善案			
107. 議事堂	A-1年齢	30歳	20代後半	35歳
	A-2違和感	なし(店の人)	あり	ある
	A-3経験/想像	想像		交番/コンビニを想像した

調査者	abe	asa	mad
02.被調査者氏名	Y. K.	K. O.	K. H.
03.生年	S15.5	S61	S56
04.性別	F	M	F
調査期日 2008年2月	5		5 6
開始時刻	15:25		16時00分 13:04

①サーヴェイ調査項目

101. 道教え	A-1年齢		n/a	
	A-2違和感	特にない	めったに聞かれないから違和感がある。プライベートのときに説明といわれても違和感がある	調査員のミスにより飛ばす
	A-3経験/想像	良くあること	想像 聞かれても乗り気になれない	
	B調査者コメント			
C改善案				
102. 振込用紙	A-1年齢	40歳	50後半 定年間際	30前半
	A-2違和感	ない	特にない	特になし
	A-3経験/想像	経験	自動車税を払うときに振り込んだことがあるので経験で答えた	想像
	B調査者コメント			
103. 荷物あづけ	A-1年齢	45.6歳	50半ば	20代後半
	A-2違和感	ない	違和感はない。サービスとしてありそうだが、自分から頼むことはない。	特に感じない
	A-3経験/想像	経験	想像	経験あり
	B調査者コメント			
104. 傘忘れ	A-1年齢	20代	35ぐらい	20代後半
	A-2違和感	ない	ほとんどない	特になし
	A-3経験/想像	経験	経験したことがある。	経験あり
	B調査者コメント			
105. 先生	A-1年齢	70歳	75ぐらい 自分のおじいちゃんと同じ	60才ぐらい
	A-2違和感	ない	今は感じる 甥っ子にたとえとない	特になし
	A-3経験/想像	きもの	想像。子供がいたらこのように答えるだろう	想像
	B調査者コメント		子供にすると若年層の場合には問題があるか	
106. 電灯料	A-1年齢	70代	40	30代前半
	A-2違和感	ない。商売をしているので、集金はよくある	あまり違和感を感じない。ただ、集金自体はまれになっている	最近あまり集金人を見かけない
	A-3経験/想像	想像。新聞代ならなおよい	家にいるときは対応しないので、想像でこたえた	想像
	B調査者コメント			
107. 議事堂	A-1年齢	40代	30後半 38ぐらい	20代後半
	A-2違和感	ない	違和感ある そもそも聞かないし、聞けない ひとに話しかけない	なし
	A-3経験/想像	想像	想像	経験あり

調査者	mad	mad	mad
02.被調査者氏名	H. O.	W. O.	K. E.
03.生年	S45	S54	S21
04.性別	M	F	F
調査期日 2008年2月	7	7	8
開始時刻	10:11	16:00	10:06
①サーヴェイ調査項目			
101. 道教え	A-1年齢		
	A-2違和感	なし	なし
	A-3経験/想像	経験	経験
	B調査者コメント C改善案		
102. 振込用紙	A-1年齢	50位	50代
	A-2違和感	違和感はないが、今では窓口にたいてい用紙が置いてある	なし
	A-3経験/想像	経験	経験
	B調査者コメント C改善案		
103. 荷物あずけ	A-1年齢	50位	60才くらい
	A-2違和感	あまりこういうことは最近少ないので違和感あり	自分の買い付けの店に60才くらいの店員さんがいることに違和感がある
	A-3経験/想像	経験	行きつけの店で預かって貰ったことはない
	B調査者コメント C改善案		
104. 傘忘れ	A-1年齢	30代	35才くらい 髪の毛から
	A-2違和感	なし	なし
	A-3経験/想像	経験あり	携帯電話を忘れた人がいてこの
	B調査者コメント C改善案		
105. 先生	A-1年齢	70代	85才くらい 服装から
	A-2違和感	なし	なし
	A-3経験/想像	先生ではないが聞かれることはある	想像
	B調査者コメント C改善案		
106. 電灯料	A-1年齢	40位	30代後半 顔で判断
	A-2違和感	なし	なし
	A-3経験/想像	最近銀行振り込みだが、新聞屋は集金に来る	想像
	B調査者コメント C改善案		
107. 議事堂	A-1年齢	30代	35才くらい 顔で判断
	A-2違和感	なし	特になし
	A-3経験/想像	あり	想像

02.被調査者氏名		T. O.	R. I.	Y. O.
	B調査者コメント C改善案			
108. 医者	A-1年齢	60歳位	40代後半	65歳位
	A-2違和感	多少あり。往診をしてすぐ、と頼むようなことはないです。	ちょっと違和感を感じた(説明)医者さんだったら行くっていう手段しか考えたことがなかったので。それが救急車(を呼ぶので)お医者さん呼んだら他の患者さんが困ってしまうし。	特になし(今、お医者さんといえど開き戸ではなくスライド式の引き戸が多いのでは)
	A-3経験/想像	想像	想像	想像で
	B調査者コメント C改善案			
109. 席ゆずられ	A-1年齢	20代	20代前半	28位
	A-2違和感	特になし	違和感覚えなし	なし
	A-3経験/想像	過去の経験にもとづいて。	似てる場面ならある。経験あり(反対の立場で)	経験あり。(逆の経験あり)
	B調査者コメント C改善案			
110. おつり	A-1年齢	70歳代	50前半	50歳
	A-2違和感	あり。(説)おつりが違うということは過去において(あったこと)今はレジでパッと出てくるし、この絵の感じのお店はちょっとない。現代の自分に照らし合わせると、違和感がある。お金を間違った云方に関しては、全く違和感はないとはいえないが、今から何年か前であつたらそういうこともあつただろう。	あり。(説明)こういうお店に行つたことがない。コンビニとかに行く。レジがないことがおかしく感じた。	(絵)違和感あり。絵が古い(文)違和感なし
	A-3経験/想像	10数年前だったら経験あり	なし。お金の間違いはない。	経験なし
	B調査者コメント C改善案			
111. 傘貸し	A-1年齢	20~30代	20代後半	35(歳)
	A-2違和感	特になし	違和感感じない	(違和感)なし
	A-3経験/想像	経験	想像で	(経験は)あり
	B調査者コメント C改善案			
112. 魚釣り	A-1年齢	8~9歳	小学三年生くらい。9歳くらい	1,12,3(歳)小学生後半~中学生
	A-2違和感	特になし	違和感を覚える。(説)時代を感じる...服装、川で釣りをしている子はあまり見ない。	(絵)違和感あり。着てるシャツが昔自分が着ていたようなシャツ。今なら半袖(シャツ)でしょうね。なつかしい絵。帽子も。
	A-3経験/想像	経験ある	想像	経験はある。子供じゃないとしても(大人に)オジサン、ツレテルカン↑と言うことはある。
	B調査者コメント C改善案			
113. 市役所	A-1年齢	55~60歳	50代後半	45(歳)
	A-2違和感	「目上の人」が全く見も知らない人という設定であれば違和感あり。「多少面識のある人」という設定であれば、特に違和感はない。その辺の状況がよくみえない。	なし	(絵)(違和感)特になし。(質)ちょっと違和感ある。今だったら市役所ではなく、ショッピングセンターなどにしては。
	A-3経験/想像	「目上の人」が未知の人なら想像による。多少面識のある人なら経験による。	想像	想像。経験なし
	B調査者コメント	「目上の人」とは面識のある人かと尋ねられた	(注)「目上の人」について「知らない人ですか?」と尋ねられた	

02.被調査者氏名		K. K.	K. S.	Y. K.
108. 医者	B調査者コメント C改善案			
	A-1年齢	65歳くらい	65.6歳。髭を生やしていると年齢が分からない。	55歳くらい
	A-2違和感	なし	なし	すごく違和感を感じる。病院に走っていくよりも救急車を呼んでしまう。【医者が家に来ることはあるか?】ない。【お母さんが倒れたらどうする?】救急車を呼ぶ。【近くに個人病院はあるか?】あるけど、インフルエンザなどの軽い病気の時にしか行かない。
	A-3経験/想像	想像。往診を頼んだことはある。現在はほとんどこういうことをしない。近所の山本医院は往診することがある。	経験。何年か前に実際に先生を連れてきたことがある。	想像
	B調査者コメント C改善案			
109. 席ゆずれ	A-1年齢	30歳くらい	18.9歳	19歳から20歳
	A-2違和感	なし	なし	最近は席を譲るところを見たことがない。自分は小さい子に席を譲ることがある。
	A-3経験/想像	経験。譲った経験がある。今は譲られる方。	想像。今の子は寝たふりをしてなかなか譲ってくれない。	自分が席を譲る方になったつもりで想像して答えた。
	B調査者コメント C改善案			
110. おつり	A-1年齢	40歳くらい	60歳くらい。もう少し若いかもしれない。ほっかむりをしていると年齢が分からない。	55歳から60歳
	A-2違和感	なし	なし	行為自体には違和感を感じないが、刺激図の店の雰囲気に変に感じる(いつもはコンビニやデパートしか利用しないため)。
	A-3経験/想像	経験。最近このような経験があった。自分自身もおつりを間違えたことがある。	経験。フナ市などでおつりを間違えられたことがある。	経験
	B調査者コメント C改善案			
111. 傘貸し	A-1年齢	40歳くらい	30歳前後	30代
	A-2違和感	なし	なし	ちょっと知っている人に傘を貸すということがあまりないので違和感を感じた。
	A-3経験/想像	経験。実際に傘をよく貸す。	経験	想像
	B調査者コメント C改善案			
112. 魚釣り	A-1年齢	10歳から12歳	小学校3年生くらい。10歳くらい。	9歳
	A-2違和感	なし	違和感はないが、声をかけなければいけない時にしか声をかけないようにしている。	違和感がある。子供が好きなのでよく「こんにちは」などの挨拶をすることはあるが、「何しているの?」と踏み込んで聞くことはない。
	A-3経験/想像	経験。最近はないが、昔はこういう経験があった。因みに江戸屋の周りは釣り禁止。	想像	想像
	B調査者コメント C改善案			
113. 市役所	A-1年齢	50歳くらい	60歳くらい	55歳
	A-2違和感	なし	なし	このような経験がないので違和感がある。近所のおばさんになら「今からどこに行くの?」と聞かれることがある。【この人は誰?】父の上司だと思った。スーツを着ていて、後ろの建物が会社のようなだったので。
	A-3経験/想像	経験。【相手は誰?】自分の上司。	経験。上司ではないが知り合いの人になら「どこ行くの?」と聞かれることがある。	想像
	B調査者コメント			

02.被調査者氏名		T. O.	S. A.	Y. I.
108. 医者	B調査者コメント			
	C改善案			
	A-1年齢	60歳	50歳	50歳
	A-2違和感	ある	ある	ある
	A-3経験/想像	想像	想像。上司を呼ぶ	想像
109. 席ゆずられ	B調査者コメント			
	C改善案			
	A-1年齢	20歳	20代前半	20歳
	A-2違和感	なし	ない	ない
	A-3経験/想像	想像	想像	想像
110. おつり	B調査者コメント			
	C改善案			
	A-1年齢	60歳	50代前半	55歳
	A-2違和感	なし	あり	あり
	A-3経験/想像	想像		結構多い。経験
111. 傘貸し	B調査者コメント			
	C改善案			
	A-1年齢	35歳	30代	20代後半
	A-2違和感	なし	ない	ない
	A-3経験/想像	想像	想像	想像
112. 魚釣り	B調査者コメント			
	C改善案			
	A-1年齢	10歳	小3ぐらい	8歳
	A-2違和感	なし(実習ではあるが)	ない	ある
	A-3経験/想像	想像	想像(あぶないことをしている子)	経験
113. 市役所	B調査者コメント			
	C改善案			
	A-1年齢	50歳	50代	55歳
	A-2違和感	なし	あり	ない
	A-3経験/想像	想像		想像

02.被調査者氏名		Y. K.	K. O.	K. H.
	B調査者コメント C改善案			
108. 医者	A-1年齢	60代	50ぐらい	40代前半
	A-2違和感	ある	感じた 普通なら救急車を呼ぶ	あまりこういうことがない。救急車を呼ぶ。
	A-3経験/想像	救急車を呼ぶのが普通。車がエンジンした場面なら想像がつく。	想像	想像
	B調査者コメント C改善案			
109. 席ゆずられ	A-1年齢	20代	22ぐらい	20代前半
	A-2違和感	ない	行為じたいには違和感はない 自分がゆずられることはない	なし
	A-3経験/想像	想像	想像	経験あり
	B調査者コメント C改善案			
110. おつり	A-1年齢	50代	40後半から50ぐらい	60才 鼻の皺と「～商店」が決め手
	A-2違和感	ない	違和感を感じる 額によっていかどうか決まる	なし
	A-3経験/想像		想像 経験がない	想像
	B調査者コメント C改善案		かっぱう着が決め手	
111. 傘貸し	A-1年齢	30～40歳	30半ばぐらい	30代後半
	A-2違和感	ない	場面がないから違和感を感じる	あまり見かけない状況
	A-3経験/想像		想像 かさを貸すことがないから	想像
	B調査者コメント C改善案			
112. 魚釣り	A-1年齢	10歳	9歳ぐらい	10才ぐらい
	A-2違和感		感じる 知らない人に声をかけるのは違和感がある	あまり釣り人のそばに行ったことがない
	A-3経験/想像		想像	想像
	B調査者コメント C改善案		ニンテンドーDSとかなら見てしま うが、話しかけることはない	
113. 市役所	A-1年齢	40～50代	50ぐらい	40代後半
	A-2違和感		客引きならあるが、このような場面はない	この人が市役所の人なのか、ど ういう人なのか分からないので 困った
	A-3経験/想像		想像	想像
	B調査者コメント			被調査者が状況把握にとまどっ た可能性ありもしくは被調査者 自身が市役所職員だったことが 影響したか?

02.被調査者氏名		H. O.	W. O.	K. E.
	B調査者コメント C改善案	複数回答あり		
108. 医者	A-1年齢	60代	60才くらい 髭が決め手	60前後
	A-2違和感	ややあり。その場で診てもらうことはあるが。	なし	普通は電話をするのではないかと。直接行かろうか。
	A-3経験/想像	想像	経験はないがテレビで見たことはある	想像
	B調査者コメント C改善案			
109. 席ゆずられ	A-1年齢	20代	28才 顔によって判断	20前後 18くらいか
	A-2違和感	なし	なし	なし
	A-3経験/想像	あり	想像	経験
	B調査者コメント C改善案			
110. おつり	A-1年齢	70代 着ている服から判断	70代 顔で判断	60前後
	A-2違和感	なし	特になし	なし
	A-3経験/想像	あり	想像	経験
	B調査者コメント C改善案			
111. 傘貸し	A-1年齢	30代	30代 顔で判断	30半ば
	A-2違和感	とくになし	感じない	特になし
	A-3経験/想像	想像	想像	家の前ではなし
	B調査者コメント C改善案			
112. 魚釣り	A-1年齢	10歳くらい	10代 小学校一年	10才 小学校5, 6年
	A-2違和感	気になれば聞くかも知れない	なし	なし
	A-3経験/想像	想像	経験	経験
	B調査者コメント C改善案			質問文で小学校3, 4年と言っているのにこの反応があるところをみると、問題文を記憶し切れていないか？
113. 市役所	A-1年齢	60代	40代 顔によって判断	60代
	A-2違和感	なし	なし	なし
	A-3経験/想像	あり	想像	経験
	B調査者コメント			

02.被調査者氏名		T. O.	R. I.	Y. O.
	C改善案	「少し面識のある人を想定して下さい」と答えた	「少し知っている人」として答えてもらった。	
114. 公害問題	A-1年齢			
	A-2違和感	多少あり。シンポジウムなどで発言した経験はない。指されて発言するという状況なのかどうかということが見えないので。	なし	なし
	A-3経験／想像	想像	想像で	(経験)あり
	B調査者コメント	状況設定についての質問あり	(誘)「私の」「自分の」という言葉を入れるとしたらどう言うか尋ねた	
	C改善案			
115. 先生の絵	A-1年齢			
	A-2違和感	特になし	なし	なし
	A-3経験／想像	経験あり	想像	経験あり
	B調査者コメント			
	C改善案			
116. 誘い(上野102)	A-1年齢			
	A-2違和感	なし	なし	あり。最近あまりうちに来ませんかということは少ない。むしろドッカ タベニイカナイetcのように(外出を)誘うことの方が考え易い。
	A-3経験／想像	経験あり	経験	経験あり
	B調査者コメント		(誘)自分の家にあそびに来よう誘う場合にはどう言うか尋ねた。	
	C改善案			
終了時刻		6:12	9:50	1:55
所要時間		37min	41min	48min
②第三者敬語の調査項目				
117. →鈴木先生【校長】	A-1答えやすさ	答え易い	どちらでもない	答え易い
	A-2違和感	別に覚えなかった	あり(説明)余り校長先生に用事がないから、わからなくて、こういう言葉を聞いたことがないので。	なし
	A-3選択しやすさ	困らなかつた	少し困った	困らない
	A-4共／方意識	共通語、方言とかも意識せず	意識してない	共通語形式(標準語)
	B調査者コメント			
	C改善案			
118. →校長【鈴木先生】	A-1答えやすさ	答えにくくはない(話している最中で、ということなのかと思った)	どっちでもない	答え易い
	A-2違和感	特に違和感というほどではない	多少違和感を感じた(誘)。答えるのに悩んだ。(説明)校長先生に話しかける機会が少ないので、想像が少ししにくかったの、目上の人だからというのも考えて、答えるのに悩んでしまった。	(絵)違和感あり。鈴木先生が40歳というのがわかるような何か絵が描いてあると良い。鈴木先生が立派すぎる。(質)別に(違和感なし)
	A-3選択しやすさ	少し考えた。(誘)困るというほどではない	少し困った	困らない
	A-4共／方意識	特に覚えなかった	意識してない	共通語形式
	B調査者コメント			
	C改善案			
119. →校長【佐藤君】	A-1答えやすさ	答えにくくはない	答え易い	答えにくい。小学校ならもっと答え易い。中学生というちょっと中間で...
	A-2違和感	特になし	なし	あり。ちょっと答えにくかった
	A-3選択しやすさ	特に困らなかつた	少し困った	ちょっと困った
	A-4共／方意識	共通語か特に意識もせずと言った	意識してない	共通語
	B調査者コメント			
	C改善案			

02.被調査者氏名		K. K.	K. S.	Y. K.
114. 公害問題	C改善案			
	A-1年齢			
	A-2違和感			
	A-3経験/想像			
	B調査者コメント	公害問題そのものについての発言を回答してしまった。5回ほどトライしたが引き出せなかった。		
115. 先生の絵	C改善案			
	A-1年齢			
	A-2違和感			
	A-3経験/想像			
	B調査者コメント			
116. 誘い(上野102)	C改善案			
	A-1年齢			
	A-2違和感			
	A-3経験/想像			
	B調査者コメント			
終了時刻	15:50	10:21	9:13	
所要時間	40min	17min	13min	
②第三者敬語の調査項目				
117. →鈴木先生【校長】	A-1答えやすさ			
	A-2違和感			
	A-3選択しやすさ			
	A-4共/方意識		特に意識していない。何が標準語がよく分からない。	「共通語」「方言」の違いを意識したことがないので何が「共通語」で何が「方言」か分からない。
	B調査者コメント			
	C改善案			
118. →校長【鈴木先生】	A-1答えやすさ			
	A-2違和感			
	A-3選択しやすさ			
	A-4共/方意識		特に意識していない。何が標準語がよく分からない。	「共通語」「方言」の違いを意識したことがないので何が「共通語」で何が「方言」か分からない。
	B調査者コメント			
	C改善案			
119. →校長【佐藤君】	A-1答えやすさ			違和感があったので戸惑った。
	A-2違和感			校長先生に同級生のことを聞く体験がありませんので違和感があった。
	A-3選択しやすさ			
	A-4共/方意識		特に意識していない。何が標準語がよく分からない。	「共通語」「方言」の違いを意識したことがないので何が「共通語」で何が「方言」か分からない。
	B調査者コメント			
	C改善案			

02.被調査者氏名		T. O.	S. A.	Y. I.
114. 公害問題	C改善案			
	A-1年齢			
	A-2違和感			
	A-3経験/想像			
	B調査者コメント			
115. 先生の絵	C改善案			
	A-1年齢			
	A-2違和感			
	A-3経験/想像			
	B調査者コメント			
116. 誘い(上野102)	C改善案			
	A-1年齢			
	A-2違和感			
	A-3経験/想像			
	B調査者コメント			
終了時刻		10:25	9:41	13:40
所要時間		15min	11min	10min
②第三者敬語の調査項目				
117. →鈴木先生【校長】	A-1答えやすさ	答えやすい	答えやすい	答えやすい
	A-2違和感	想像で答えた	想像で答えた	想像で答えた
	A-3選択しやすさ			
	A-4共/方意識	分からない		
	B調査者コメント	他の設問とのワーディングの違いが大きい	他の設問とのワーディングの違いが大きい	他の設問とのワーディングの違いが大きい
	C改善案			
118. →校長【鈴木先生】	A-1答えやすさ	答えやすい	答えやすい	答えやすい
	A-2違和感	想像で答えた	想像で答えた	想像で答えた
	A-3選択しやすさ			
	A-4共/方意識	分からない		
	B調査者コメント	他の設問とのワーディングの違いが大きい	他の設問とのワーディングの違いが大きい	他の設問とのワーディングの違いが大きい
	C改善案			
119. →校長【佐藤君】	A-1答えやすさ	答えやすい	答えやすい	答えやすい
	A-2違和感	想像で答えた	想像で答えた	想像で答えた
	A-3選択しやすさ			
	A-4共/方意識	分からない		
	B調査者コメント	他の設問とのワーディングの違いが大きい	他の設問とのワーディングの違いが大きい	他の設問とのワーディングの違いが大きい
	C改善案			

02.被調査者氏名		Y. K.	K. O.	K. H.
114. 公害問題	C改善案			
	A-1年齢		n/a	
	A-2違和感		n/a	
	A-3経験/想像		n/a	
	B調査者コメント			
115. 先生の絵	C改善案			
	A-1年齢		n/a	
	A-2違和感		n/a	
	A-3経験/想像		n/a	調査員のミスにより飛ばす
	B調査者コメント			
116. 誘い(上野102)	C改善案			
	A-1年齢		n/a	
	A-2違和感		n/a	
	A-3経験/想像		n/a	
	B調査者コメント			
終了時刻		15:40	16:29	13:20
所要時間		15min	29min	16min
②第三者敬語の調査項目				
117. →鈴木先生【校長】	A-1答えやすさ	答えやすい	答えやすい	答えやすい
	A-2違和感	想像で答えた	想像で答えた	なし
	A-3選択しやすさ		n/a	ちょっと考えた
	A-4共/方意識	意識しなかった	n/a	考えていない
	B調査者コメント	他の設問とのワーディングの違いが大きい		
	C改善案			
118. →校長【鈴木先生】	A-1答えやすさ	答えやすい	答えにくい	答えにくかった
	A-2違和感	想像で答えた	違和感がある	違和感なし
	A-3選択しやすさ		n/a	困難を感じた
	A-4共/方意識	意識しなかった	n/a	考えていない
	B調査者コメント	他の設問とのワーディングの違いが大きい		
	C改善案			
119. →校長【佐藤君】	A-1答えやすさ	答えやすい	答えにくい	答えにくかった
	A-2違和感	想像で答えた	違和感がある	違和感なし
	A-3選択しやすさ		n/a	困った
	A-4共/方意識	意識しなかった	n/a	考えていない
	B調査者コメント	他の設問とのワーディングの違いが大きい		
	C改善案			

02.被調査者氏名		H. O.	W. O.	K. E.
	C改善案			
114. 公害問題	A-1年齢			
	A-2違和感	そういうこともあるかと思う		なかなかそういう場面に出くわすことはないのではないか
	A-3経験／想像	経験		経験
	B調査者コメント			
	C改善案			
115. 先生の絵	A-1年齢			
	A-2違和感	なし		状況がよく分からなかった。先生のお宅なのか、展覧会会場なのか。その点で違和感がある。
	A-3経験／想像	絵ではないが似たようなことはある	調査漏れ	経験あり。ただし先生ではない。
	B調査者コメント			
	C改善案			
116. 誘い(上野102)	A-1年齢			
	A-2違和感	なし		なし
	A-3経験／想像	ある		経験
	B調査者コメント			
	C改善案			
終了時刻		10:20	16:08	10:19
所要時間		9min	8min	13min
②第三者敬語の調査項目				
117. →鈴木先生【校長】	A-1答えやすさ	答えやすい	考えてしまう	答えやすい
	A-2違和感	そんなにない	あり	なし
	A-3選択しやすさ	ちょっと困った	困った	困らない
	A-4共／方意識	意識しない	意識しない	意識する
	B調査者コメント			
	C改善案			
118. →校長【鈴木先生】	A-1答えやすさ	117と同じくらい	答えにくい	
	A-2違和感	なし	あり。こういうことを聞いたこともない	調査者のミスによる聞き漏らし
	A-3選択しやすさ	多少困った	困った	
	A-4共／方意識	気にしない	意識なし	
	B調査者コメント			
	C改善案			
119. →校長【佐藤君】	A-1答えやすさ	ちょっと答えにくかった。3問続い	答えにくい 考えてしまう	答えやすい
	A-2違和感	なし	感じる	近所の子がいるかどうかを学校で尋ねることがあるのか、と思った
	A-3選択しやすさ	しにくかった	困った	困らない
	A-4共／方意識	意識しない	意識なし	親しかつたら「オル」を使うかも知れない。
	B調査者コメント			
	C改善案			

02.被調査者氏名		T. O.	R. I.	Y. O.
120. →友達【あの先生】	A-1答えやすさ	答えにくいというほどでもない	答えにくい(でも,名古屋に転勤,移動とか言ってくれたので,それで理解できてわかり易くなった)	答えにくい。「行くか」の意味がわかりにくかった。もう少し具体的に。研究会に行くとか,とするとわかり易い。役職がちよつとついている方が良い。教頭先生とか担任の先生とか。「友達」では父兄を意識した。
	A-2違和感	特になし	(違和感)覚えない	ちよつと覚える。
	A-3選択しやすさ	困ったというほどではない	困らない	なし。通常使っている言葉で別に方言ということでもない。
	A-4共/方意識	意識したというほどでないが,共通語	(意識)してない	
	B調査者コメント		(注)この質問だけは回答できず,「あの先生は?」と聞き返しあり。	
	C改善案			
121. →目上に【父親】	A-1答えやすさ	別に答えにくくはない	どっちでもない	答え易い
	A-2違和感	なし	(違和感)ない	なし
	A-3選択しやすさ	特に困りはしない	少し困った	困らない
	A-4共/方意識	共通語	意識してない	標準語
	B調査者コメント			
	C改善案			
122. →近所の知人【父親】	A-1答えやすさ	少し答えにくい。(説明)その人がどういう状況にあるか目上かどうかにより変わるので	どっちでもない	答え易い
	A-2違和感	なし	感じない	なし
	A-3選択しやすさ	相手の年齢がわからないので,その点困った	困らなかった	困らない
	A-4共/方意識	共通語	意識してない	通常使う言葉。方言というほどでもない
	B調査者コメント		(誘)「～から」まで言ってもらった。	
	C改善案			
123. →母親【父親】	A-1答えやすさ	答え易かった	答え易かった	答え易い
	A-2違和感	特になし	(違和感)感じない	なし
	A-3選択しやすさ	困らなかった	困らない	困らない
	A-4共/方意識	日常母に話しかける言い方	意識してない	方言, 日常語
	B調査者コメント			
	C改善案			
③敬語に対する意見の調査項目				
201. -1	A-1答えやすさ	答えにくくはない	答えやすい	答えにくい(自分で当たり前に使っているが敬語なのかどうかはわからない)
	A-2違和感	なし	なし	なし
	B調査者コメント	マスが丁寧語に含まれるかわからない,とのコメントあり		
	C改善案			
-2	A-1答えやすさ	答え易い	答えやすい	答え易い
	A-2違和感	なし	なし	なし

02.被調査者氏名		K. K.	K. S.	Y. K.
120. →友達【あの先生】	A-1答えやすさ			
	A-2違和感			
	A-3選択しやすさ			
	A-4共/方意識		特に意識していない。何が標準語かよく分からない。	「共通語」「方言」の違いを意識したことがないので何が「共通語」で何が「方言」か分からない。
	B調査者コメント			
	C改善案			
121. →目上に【父親】	A-1答えやすさ			近所の人にも親疎の違いがあつて、それによって答え方が違ってくるので答えにくかった。
	A-2違和感			
	A-3選択しやすさ			
	A-4共/方意識		特に意識していない。何が標準語かよく分からない。	「共通語」「方言」の違いを意識したことがないので何が「共通語」で何が「方言」か分からない。
	B調査者コメント			調査文を「来ますから」にしているために、インフォーマントの注意が接続助詞に向いてしまうことがある。
	C改善案			目上の人に非常に丁寧に「(自分の父が)来る」と言うとなると「来る」のところをどのように言いますか。
122. →近所の知人【父親】	A-1答えやすさ			
	A-2違和感			
	A-3選択しやすさ			
	A-4共/方意識		特に意識していない。何が標準語かよく分からない。	「共通語」「方言」の違いを意識したことがないので何が「共通語」で何が「方言」か分からない。
	B調査者コメント			
	C改善案			
123. →母親【父親】	A-1答えやすさ			
	A-2違和感			
	A-3選択しやすさ			
	A-4共/方意識		特に意識していない。何が標準語かよく分からない。	「共通語」「方言」の違いを意識したことがないので何が「共通語」で何が「方言」か分からない。
	B調査者コメント			調査文では母親に向かって「来ますから」と丁寧体を使っているが、ここでインフォーマントは少し引かかっていた。
	C改善案			母親に「(自分の父が)来る」と言うとなると「来る」のところをどのように言いますか。
③敬語に対する意見の調査項目				
201. -1	A-1答えやすさ	答えにくかった。敬語と丁寧語の区別が分からない。「いらっしゃいます」は丁寧語だと思っている。尊敬語は陛下にお会いした時に使うものだと思っている。	答えにくい。自分の敬語に自信がないため。	
	A-2違和感		答えにくい	
	B調査者コメント			
	C改善案			
-2	A-1答えやすさ	答えにくかった。敬語と丁寧語の区別が分からない。「いらっしゃいます」は丁寧語だと思っている。尊敬語は陛下にお会いした時に使うものだと思っている。	答えにくい。自分の敬語に自信がないため。	
	A-2違和感		答えにくい	

02.被調査者氏名		T. O.	S. A.	Y. I.
120. →友達【あの先生】	A-1答えやすさ	答えやすい	答えやすい	答えやすい
	A-2違和感	想像で答えた	想像で答えた	想像で答えた
	A-3選択しやすさ			
	A-4共／方意識	分からない		
	B調査者コメント	他の設問とのワーディングの違いが大きい	他の設問とのワーディングの違いが大きい	他の設問とのワーディングの違いが大きい
	C改善案			
121. →目上に【父親】	A-1答えやすさ	答えやすい	答えやすい	答えやすい
	A-2違和感	想像で答えた	想像で答えた	想像で答えた
	A-3選択しやすさ			
	A-4共／方意識	分からない		
	B調査者コメント	他の設問とのワーディングの違いが大きい	他の設問とのワーディングの違いが大きい	他の設問とのワーディングの違いが大きい
	C改善案			
122. →近所の知人【父親】	A-1答えやすさ	答えやすい	答えやすい	答えやすい
	A-2違和感	想像で答えた	想像で答えた	想像で答えた
	A-3選択しやすさ			
	A-4共／方意識	分からない		
	B調査者コメント	他の設問とのワーディングの違いが大きい	他の設問とのワーディングの違いが大きい	他の設問とのワーディングの違いが大きい
	C改善案			
123. →母親【父親】	A-1答えやすさ	答えやすい	答えやすい	答えやすい
	A-2違和感	想像で答えた	想像で答えた	想像で答えた
	A-3選択しやすさ			
	A-4共／方意識	分からない		
	B調査者コメント	他の設問とのワーディングの違いが大きい	他の設問とのワーディングの違いが大きい	他の設問とのワーディングの違いが大きい
	C改善案			
③敬語に対する意見の調査項目				
201. -1	A-1答えやすさ	答えやすい	答えやすい	答えやすい
	A-2違和感	特にない	特にない	特にない
	B調査者コメント		「選択肢はリストで見た方が 良いか」といった質問に対し、 「口頭でも問題ない」	
	C改善案			
-2	A-1答えやすさ	答えやすい	答えやすい	答えやすい
	A-2違和感	特にない	特にない	特にない

02.被調査者氏名		Y. K.	K. O.	K. H.
120. →友達【あの先生】	A-1答えやすさ	答えやすい	答えやすい	答えやすかった
	A-2違和感	想像で答えた	違和感ない	特になし
	A-3選択しやすさ		n/a	一瞬考えた
	A-4共／方意識	意識なかった	n/a	少し考えた
	B調査者コメント	他の設問とのワーディングの違いが大きい		
C改善案				
121. →目上に【父親】	A-1答えやすさ	答えやすい	答えにくい	答えにくかった
	A-2違和感	想像で答えた	違和感ない	なし
	A-3選択しやすさ		n/a	困った
	A-4共／方意識	意識なかった	n/a	考えていない
	B調査者コメント	他の設問とのワーディングの違いが大きい		
C改善案				
122. →近所の知人【父親】	A-1答えやすさ	答えやすい	答えやすかった	答えにくかった
	A-2違和感	想像で答えた	違和感ない	特になし
	A-3選択しやすさ		n/a	困った
	A-4共／方意識	意識なかった	n/a	考えていない
	B調査者コメント	他の設問とのワーディングの違いが大きい		
C改善案				
123. →母親【父親】	A-1答えやすさ	答えやすい	答えやすかった	答えやすかった
	A-2違和感	想像で答えた	違和感ない	なし
	A-3選択しやすさ		n/a	そんなに困っていない
	A-4共／方意識	意識なかった	n/a	考えていない
	B調査者コメント	他の設問とのワーディングの違いが大きい		
C改善案				
③敬語に対する意見の調査項目				
201. -1	A-1答えやすさ	答えやすい	ふつう。ちょっと考えればわかる	答えにくかった
	A-2違和感	特にない		感じない ただし方言の敬語だとどうなるのかで迷った
	B調査者コメント	「選択肢はリストで見せた方が 良いか」といった質問に対し、 「口頭でも問題ない」		2011については全体での答えを 聞いているので、小問ごとの回 答を聞いていない
	C改善案			
-2	A-1答えやすさ	答えやすい	ふつう。ちょっと考えればわかる	
	A-2違和感	特にない	ない	

02.被調査者氏名		H. O.	W. O.	K. E.
120. →友達【あの先生】	A-1答えやすさ	答えやすい	答えやすい	答えやすい
	A-2違和感	なし	なし	感じない
	A-3選択しやすさ	選択しやすい	困らない	困った
	A-4共／方意識	なし	意識しない	意識しない
	B調査者コメント			迷った回答：コラレルンデスカ、 センセーモイッシュヨデスカ
	C改善案			
121. →目上に【父親】	A-1答えやすさ	答えやすい	答えにくい	答えやすい
	A-2違和感	なし	感じない	なし
	A-3選択しやすさ	選択しやすい	何と言おうかと思ってしまう	困らない
	A-4共／方意識	なし	意識しない	意識しない
	B調査者コメント			
	C改善案			
122. →近所の知人【父親】	A-1答えやすさ	答えやすい	答えやすい	ちょっと答えにくい
	A-2違和感	なし	感じない	なし
	A-3選択しやすさ	なし 迷わない	困らない	困らない
	A-4共／方意識	なし	意識しない	方言だと丁寧に言いにくい
	B調査者コメント			
	C改善案			
123. →母親【父親】	A-1答えやすさ	答えやすい	答えやすい	これは嫁の立場で言うのかどう なのかで迷った。義理の母が相 手だとしたら別な言い方になる。 あり
	A-2違和感	なし	なし	
	A-3選択しやすさ	選択しやすい	困らない	A-1の事情で困った
	A-4共／方意識	なし	意識しない	迷わない
	B調査者コメント		この調査者に関する限り、第三 者敬語での方言・共通語に関す る意識は皆無のように見受けら れた	問題文の意味は理解されていた はず。
	C改善案			
③敬語に対する意見の調査項目				
201. -1	A-1答えやすさ	答えにくかった	答えにくい	答えにくい
	A-2違和感	違和感なし	なし	なし
	B調査者コメント	201については全体での答えを 聞いているので、小問ごとの回 答を聞いていない	201については全体での答えを 聞いているので、小問ごとの回 答を聞いていない	201については全体での答えを 聞いているので、小問ごとの回 答を聞いていない
	C改善案			
-2	A-1答えやすさ			
	A-2違和感			

02.被調査者氏名		T. O.	R. I.	Y. O.
	B調査者コメント			
	C改善案			
-3	A-1答えやすさ	答えにくい	少し困った	答え易い
	A-2違和感	あり	違和感覚えた	なし
	B調査者コメント			
	C改善案			
-4	A-1答えやすさ	答え易い	答えやすい	答え易い
	A-2違和感	なし	違和感覚えない	なし
	B調査者コメント			
	C改善案			
-5	A-1答えやすさ	答えにくい	答え易い	答え易くはない(下線部がよくわからない)
	A-2違和感	多少あり	なし	あり
	B調査者コメント			
	C改善案			
-6	A-1答えやすさ	答えにくくはない	答え易い	答え易い
	A-2違和感	あり	なし	あり(オ人参とか相鏡→そんなことあるのかと思った)
	B調査者コメント			
	C改善案			
202. 敬語がうまく使えるか	A-1答えやすさ	答え易い	答えやすい	答えにくい
	A-2違和感	なし	なし	なし
	A-3目上	職場の上司, おけいこの先生	年が上の人。職場でも上の地位にある人(誘)先生	
	B調査者コメント			
	C改善案			
203. 昔の敬語と今の敬語	A-1答えやすさ	答えにくい	少し困った	答え易い
	A-2違和感	あり	違和感覚えた	なし
	A-3昔	2,30年前	自分が生まれる前	
	B調査者コメント	昔の方が拡張高い。今, お互いの関係をよくする。垣根をとるということはいい。		
	C改善案			
204. 家族間での敬語使用	A-1答えやすさ	答え易い	答えやすい	答え易い
	A-2違和感	なし	違和感覚えない	なし
	B調査者コメント			
	C改善案			
205. 敬語は減った方がいいか	A-1答えやすさ	答えにくい(説明)「使うべき時使うべきだ」のような選択肢がない	答え易い	答えにくい
	A-2違和感	多少あり	なし	あり
	B調査者コメント			
	C改善案			
	A-1答えやすさ	答えにくくはないが, そんなにオをつけるのかと思った。	答え易い	答え易い
	A-2違和感	そんなにもオをつけるのかというところで違和感があった。オをつけるかという質問に違和感はない。	なし	あり

02.被調査者氏名		K. K.	K. S.	Y. K.
	B調査者コメント			
	C改善案			
-3	A-1答えやすさ	答えにくかった。敬語と丁寧語の区別が分からない。「いらっしゃいます」は丁寧語だと思っている。尊敬語は陛下にお会いした時に使うものだと思っている。	答えにくい。自分の敬語に自信がないため。	
	A-2違和感		答えにくい	
	B調査者コメント			
	C改善案			
-4	A-1答えやすさ	答えにくかった。敬語と丁寧語の区別が分からない。「いらっしゃいます」は丁寧語だと思っている。尊敬語は陛下にお会いした時に使うものだと思っている。	答えにくい。自分の敬語に自信がないため。	
	A-2違和感		答えにくい	
	B調査者コメント			
	C改善案			
-5	A-1答えやすさ	答えにくかった。敬語と丁寧語の区別が分からない。「いらっしゃいます」は丁寧語だと思っている。尊敬語は陛下にお会いした時に使うものだと思っている。	答えにくい。自分の敬語に自信がないため。	
	A-2違和感		答えにくい	
	B調査者コメント			
	C改善案			
-6	A-1答えやすさ	答えにくかった。敬語と丁寧語の区別が分からない。「いらっしゃいます」は丁寧語だと思っている。尊敬語は陛下にお会いした時に使うものだと思っている。	答えにくい。自分の敬語に自信がないため。	
	A-2違和感		答えにくい	
	B調査者コメント			
	C改善案			
202. 敬語がうまく使えるか	A-1答えやすさ			
	A-2違和感			
	A-3目上	先輩	先生、アルバイト先のお客さん、アルバイト先の店長、自分より立場・年齢が上の人	
	B調査者コメント		調査票の選択肢が読みにくい(単にレイアウトの問題)。以下、選択肢のものは同様。選択肢を縦に並べる。	
203. 昔の敬語と今の敬語	A-1答えやすさ		「昔」が何を指すのか分からず、答えにくかった。	
	A-2違和感		よく分からないので違和感あり。	
	A-3昔	戦前から昭和30年代まで	おばあちゃんの言葉を想像してみたが、方言しか思い浮かばなかった。上述のように「昔」がいつを指すのか分からなかったため、調査時に質問があった。	
	B調査者コメント			
204. 家族間での敬語使用	A-1答えやすさ			
	A-2違和感			
	B調査者コメント			
	C改善案			
205. 敬語は減った方が良いか	A-1答えやすさ			
	A-2違和感			
	B調査者コメント			
	C改善案			
	A-1答えやすさ			
	A-2違和感			

02.被調査者氏名		T. O.	S. A.	Y. I.
	B調査者コメント		「選択肢はリストで見た方が 良いか」といった質問に対し、 「口頭でも問題ない」	
	C改善案			
-3	A-1答えやすさ	答えやすい	答えやすい	答えやすい
	A-2違和感	特にない	特にない	特にない
	B調査者コメント		「選択肢はリストで見た方が 良いか」といった質問に対し、 「口頭でも問題ない」	
	C改善案			
-4	A-1答えやすさ	答えやすい	答えやすい	答えやすい
	A-2違和感	特にない	特にない	特にない
	B調査者コメント		「選択肢はリストで見た方が 良いか」といった質問に対し、 「口頭でも問題ない」	
	C改善案			
-5	A-1答えやすさ	答えやすい	答えやすい	答えやすい
	A-2違和感	特にない	特にない	特にない
	B調査者コメント		「選択肢はリストで見た方が 良いか」といった質問に対し、 「口頭でも問題ない」	
	C改善案			
-6	A-1答えやすさ	答えやすい	答えやすい	答えやすい
	A-2違和感	特にない	特にない	特にない
	B調査者コメント		「選択肢はリストで見た方が 良いか」といった質問に対し、 「口頭でも問題ない」	
	C改善案			
202. 敬語がうまく使えるか	A-1答えやすさ	答えやすい	答えやすい	答えやすい
	A-2違和感	特にない	特にない	特にない
	A-3目上			
	B調査者コメント			
203. 昔の敬語と今の敬語	C改善案			
	A-1答えやすさ	答えやすい	答えやすい	答えやすい
	A-2違和感	特にない	特にない	特にない
	A-3昔	10年前	自分が生まれるよりも前	20年くらい前
204. 家族間での敬語使用	B調査者コメント			
	C改善案			
	A-1答えやすさ	答えやすい	答えやすい	答えやすい
	A-2違和感	特にない	特にない	特にない
205. 敬語は減った方が 良いか	B調査者コメント			
	C改善案			
	A-1答えやすさ	答えやすい	答えやすい	答えやすい
	A-2違和感	特にない	特にない	特にない
	B調査者コメント			
	C改善案			
	A-1答えやすさ	想像するのが難しいので、答え にくい		
	A-2違和感			

02.被調査者氏名		Y. K.	K. O.	K. H.
	B調査者コメント	「選択肢はリストで見た方が 良いか」といった質問に対し、 「口頭でも問題ない」		
	C改善案			
-3	A-1答えやすさ	答えやすい	ふつう。ちょっと考えればわかる	
	A-2違和感	特にない	ない	
	B調査者コメント	「選択肢はリストで見た方が 良いか」といった質問に対し、 「口頭でも問題ない」		
	C改善案			
-4	A-1答えやすさ	答えやすい	ふつう。ちょっと考えればわかる	
	A-2違和感	特にない	ない	
	B調査者コメント	「選択肢はリストで見た方が 良いか」といった質問に対し、 「口頭でも問題ない」		
	C改善案			
-5	A-1答えやすさ	答えやすい	ふつう。ちょっと考えればわかる	
	A-2違和感	特にない	ない	
	B調査者コメント	「選択肢はリストで見た方が 良いか」といった質問に対し、 「口頭でも問題ない」		
	C改善案			
-6	A-1答えやすさ	答えやすい	ふつう。ちょっと考えればわかる	
	A-2違和感	特にない	ない	
	B調査者コメント	「選択肢はリストで見た方が 良いか」といった質問に対し、 「口頭でも問題ない」		
	C改善案			
202. 敬語がうまく使えるか	A-1答えやすさ	答えやすい	答えやすい	答えやすかった
	A-2違和感	特にない	ない	特になし
	A-3目上		会社のある程度の階級が上の 人 課長・部長など	50代以上のおじさん
	B調査者コメント			
203. 昔の敬語と今の敬語	A-1答えやすさ	答えやすい	難しかった	答えやすかった
	A-2違和感	特にない	昔の敬語がわからないから違和 感ある	特になし
	A-3昔	戦前	いつかがわからない	20-30年前
	B調査者コメント			
204. 家族間での敬語使用	A-1答えやすさ	答えやすい	答えやすい	答えやすかった
	A-2違和感	特にない	違和感もない	なし
	B調査者コメント			
	C改善案			
205. 敬語は減った方が良 いか	A-1答えやすさ	答えやすい	答えやすい	答えやすかった
	A-2違和感	特にない	違和感もない	なし
	B調査者コメント			
	C改善案			
	A-1答えやすさ	本当に首都圏では「おにんじん を使うの？」	聞いたことがないから答えにくい	答えやすい
	A-2違和感	ある。「おにんじん」はおかしい。	違和感ある	なし 首都圏で「お」を付けると いうイメージがある。ファースト フード店でそうすると聞いている。

02.被調査者氏名		H. O.	W. O.	K. E.
	B調査者コメント			
	C改善案			
-3	A-1答えやすさ			
	A-2違和感			
	B調査者コメント			
	C改善案			
-4	A-1答えやすさ			
	A-2違和感			
	B調査者コメント			
	C改善案			
-5	A-1答えやすさ			
	A-2違和感			
	B調査者コメント			
	C改善案			
-6	A-1答えやすさ			
	A-2違和感			
	B調査者コメント			
	C改善案			
202. 敬語がうまく使えるか	A-1答えやすさ	答えやすい	答えにくい	答えやすい
	A-2違和感	なし	なし	なし
	A-3目上	50-60代	上司 40から上	65才以上 自分より年上
	B調査者コメント			
203. 昔の敬語と今の敬語	A-1答えやすさ	答えにくかった	答えにくい	ちょっと答えにくい 昔とはいつ頃?
	A-2違和感	なし	違和感あり	なし
	A-3昔	昭和初期とか大正	10-20年前	昭和30年代くらいまで
	B調査者コメント			
204. 家族間での敬語使用	A-1答えやすさ	答えやすい	答えやすい	答えやすい
	A-2違和感	なし	なし	なし
	B調査者コメント	使うのはおばあさん相手だが、相手は記録する必要はないか		
	C改善案			
205. 敬語は減った方が良いか	A-1答えやすさ	答えやすい	答えやすい	答えやすい
	A-2違和感	なし	なし	話は本当に長くなるのか
	B調査者コメント			
	C改善案			
	A-1答えやすさ	答えやすい	答えやすい	ちょっと難しい。本当に東京では何にでも「お」を付けるのか。
	A-2違和感	実際にこういうことがあるのかな、と思った	あり 本当に首都圏では「お」を付けるのか。東京にいても、テレビでも気づかなかった	なし

02.被調査者氏名		T. O.	R. I.	Y. O.
206. 「お」	B調査者コメント			
	C改善案			
207. 家庭でも敬語を使うべきか	A-1答えやすさ	答えにくくはない	答え易い	答え易い
	A-2違和感	なし	なし	なし
	A-3目上		目上の人→親だけ	
	B調査者コメント		「家の中」って家族だけですか？との質問あり	
208. 敬語をさかんに使うべきか	C改善案		「そうだ」と答えた	
	A-1答えやすさ	非常に答えにくい問題	どっちでもない	答え易い
	A-2違和感	あり	なし	なし
	B調査者コメント			
209. 自称詞と対称詞の使い分け	C改善案			
	A-1答えやすさ	答えにくくはない	答え易い	答え易い
	A-2違和感	なし	なし	なし
	B調査者コメント			
210. 子供に本当のことを言うか	C改善案			
	A-1答えやすさ	すごくむづかしい答えにくい問題	答えにくかった	ちょっと答えにくい。(理由)子供が小学生であるか、大学生であるかにもよる
	A-2違和感	あり	少しあり	あり
	B調査者コメント			
211. 仕事上よく話す人	C改善案			
	A-1答えやすさ	答え易い	答え易い	ちょっと答えにくい→おとくい、知らぬ客→分類の仕方が問題。もう少しわかり易い方がよい。
	A-2違和感	なし	なし	あり
	B調査者コメント		学生なのでアルバイトのことを考えてもらった。継続的にアルバイトをしていたが、現在はしていないとのこと	
④社会生活調査項目				
面接/アンケート		アンケート	アンケート	アンケート
差し支えがあった項目				13-4,15-11,14-7
郵送の場合に回答しにくくなる項目		17-1		13-4,15-11
1. メンツ	A被調査者コメント			
	B調査者コメント			
	C改善案			
2. 世間のしきたり	A被調査者コメント			
	B調査者コメント			
	C改善案			
3. 目上の人を尊敬する習慣	A被調査者コメント			
	B調査者コメント			
	C改善案			
4. 地位や身分の決定要因	A被調査者コメント			一番回答しにくい
	B調査者コメント			
	C改善案			
5. 住んでみたい土地	A被調査者コメント			
	B調査者コメント			
	C改善案			
6. 外出(県外)場所、回数、用事	A被調査者コメント			
	B調査者コメント			
	C改善案			
7. 名古屋訪問	A被調査者コメント			目的地の意味か？
	B調査者コメント			
	C改善案			
8. 新聞を読む頻度・新聞名	A被調査者コメント			
	B調査者コメント			
	C改善案			
9-1 町内会や仕事での会	A被調査者コメント			
	B調査者コメント			

02.被調査者氏名		K. K.	K. S.	Y. K.
206. 「お」	B調査者コメント			
	C改善案			
207. 家庭でも敬語を使うべきか	A-1答えやすさ			
	A-2違和感			
	A-3目上	先輩	先生, アルバイト先のお客さん, アルバイト先の店長, 自分より立場・年齢が上の人	
	B調査者コメント			
208. 敬語をさかんに使うべきか	C改善案			
	A-1答えやすさ			
	A-2違和感			
209. 自称詞と対称詞の使い分け	B調査者コメント			
	C改善案			
	A-1答えやすさ			
	A-2違和感			
210. 子供に本当のことを言うか	B調査者コメント			
	C改善案			
	A-1答えやすさ		答えにくかった。	
	A-2違和感		答えにくかったので違和感あり。	
211. 仕事上よく話す人	B調査者コメント			
	C改善案			
	A-1答えやすさ			
	A-2違和感			

④社会生活調査項目

面接/アンケート		面接(一部アンケート)	アンケート
差し支えがあった項目			特にない
郵送の場合に回答しにくくなる項目			10,14,15,17,18
1. メンツ	A被調査者コメント		「子供のメンツ」なのか「自分(親)のメンツ」なのか?
	B調査者コメント		
	C改善案		
2. 世間のしきたり	A被調査者コメント		
	B調査者コメント		
	C改善案		
3. 目上の人を尊敬する習慣	A被調査者コメント		
	B調査者コメント		
	C改善案		
4. 地位や身分の決定要因	A被調査者コメント		
	B調査者コメント		最初, 順位を書くのではなく「○×」を付けていた。
	C改善案		特に改善の必要はない。
5. 住んでみたい土地	A被調査者コメント		「○○市」まで書く必要があるか?
	B調査者コメント		
	C改善案		
6. 外出(県外) 場所, 回数, 用事	A被調査者コメント		
	B調査者コメント		
	C改善案		
7. 名古屋訪問	A被調査者コメント		
	B調査者コメント		
	C改善案		
8. 新聞を読む頻度・新聞名	A被調査者コメント		全紙面読まないことと読んだことにならないのか?
	B調査者コメント		
	C改善案		
9-1 町内会や仕事での会	A被調査者コメント		
	B調査者コメント		

02.被調査者氏名		T. O.	S. A.	Y. I.
206. 「お」	B調査者コメント			
	C改善案			
207. 家庭でも敬語を使うべきか	A-1答えやすさ	答えやすい	答えやすい	答えやすい
	A-2違和感	特にない	特にない	特にない
	A-3目上	親	親	両親
	B調査者コメント			
	C改善案			
208. 敬語をさかんに使うべきか	A-1答えやすさ	答えやすい	答えやすい	答えやすい
	A-2違和感	特にない	特にない	特にない
	B調査者コメント			
209. 自称詞と対称詞の使い分け	A-1答えやすさ	答えやすい	答えやすい	答えやすい
	A-2違和感	特にない	特にない	特にない
	B調査者コメント			
	C改善案			
210. 子供に本当のことを言うか	A-1答えやすさ	答えやすい	答えやすい	答えやすい
	A-2違和感	ない	特にない	ある。子供が大きい子か小さい子かで回答がかわる
	B調査者コメント			
	C改善案			
211. 仕事上よく話す人	A-1答えやすさ	答えやすい	答えやすい	ある。「目下の人」とは、立場上か年齢のことが分からない。
	A-2違和感	特にない	特にない	ない
	B調査者コメント			
	C改善案			

④社会生活調査項目

面接/アンケート		面接	面接	面接
差し支えがあった項目		18	18	18
郵送の場合に回答しにくくなる項目		13-1,18	1,2,4,13-1,18	13-1,18
1. メンツ	A被調査者コメント			
	B調査者コメント			
	C改善案			
2. 世間のしきたり	A被調査者コメント			
	B調査者コメント			
	C改善案			
3. 目上の人を尊敬する習慣	A被調査者コメント			
	B調査者コメント			
	C改善案			
4. 地位や身分の決定要因	A被調査者コメント			
	B調査者コメント			
	C改善案			
5. 住んでみたい土地	A被調査者コメント			
	B調査者コメント			
	C改善案			
6. 外出(県外) 場所, 回数, 用事	A被調査者コメント			
	B調査者コメント			
	C改善案			
7. 名古屋訪問	A被調査者コメント			
	B調査者コメント			
	C改善案			
8. 新聞を読む頻度・新聞名	A被調査者コメント		何で新聞を読むかを尋ねるの?	
	B調査者コメント			
	C改善案			
9-1 町内会や仕事での会	A被調査者コメント			
	B調査者コメント			

02.被調査者氏名		Y. K.	K. O.	K. H.
206. 「お」	B調査者コメント	「おジュース」や「おビール」は問題ないという。回答は「つけないほうがいい」だが、「お」の付け過ぎよりも「おにんじん」という語に違和感があったの回答であった		
	C改善案			
207. 家庭でも敬語を使うべきか	A-1答えやすさ	答えやすい	答えやすい	答えやすい
	A-2違和感	特にない	ない	なし
	A-3目上	祖父母	年1回か2回しか会わない人、遠い親せきの人	70才以上
	B調査者コメント			
	C改善案			
208. 敬語をさかんに使うべきか	A-1答えやすさ	答えやすい	答えやすい	答えやすい
	A-2違和感	特にない	ない	なし
	B調査者コメント			
209. 自称詞と対称詞の使い分け	A-1答えやすさ	答えやすい	答えやすい	答えやすい
	A-2違和感	ない	ない	なし
	B調査者コメント			
	C改善案			
210. 子供に本当のことを言うか	A-1答えやすさ	答えやすい	答えやすい	ちょっと考えた
	A-2違和感	特にない	ない	なし
	B調査者コメント			
	C改善案			
211. 仕事上よく話す人	A-1答えやすさ	答えやすい	答えやすい	答えやすかった
	A-2違和感	特にない	ない	なし
	B調査者コメント	複数回答が良いのかという質問を受けた		
	C改善案			

④社会生活調査項目				
面接/アンケート		アンケート	アンケート	面接
差し支えがあった項目			17-18	なし
郵送の場合に回答しにくくなる項目			17-18	個人の勤め先(家族)に関するもの
1. メンツ	A被調査者コメント		問題なし	
	B調査者コメント			
	C改善案			
2. 世間のしきたり	A被調査者コメント		問題なし	
	B調査者コメント			
	C改善案			
3. 目上の人を尊敬する習慣	A被調査者コメント		問題なし	
	B調査者コメント			
	C改善案			
4. 地位や身分の決定要因	A被調査者コメント		あまり自分は重要視しない。	
	B調査者コメント			
	C改善案			
5. 住んでみたい土地	A被調査者コメント		問題ない	
	B調査者コメント			
	C改善案			
6. 外出(県外) 場所、回数、用事	A被調査者コメント		問題ない	
	B調査者コメント			
	C改善案			
7. 名古屋訪問	A被調査者コメント		たまたま行ってない	
	B調査者コメント			
	C改善案			
8. 新聞を読む頻度・新聞名	A被調査者コメント		問題ない	
	B調査者コメント			
	C改善案			
9-1 町内会や仕事での会合	A被調査者コメント		問題ない	
	B調査者コメント			

02.被調査者氏名		H. O.	W. O.	K. E.
206. 「お」	B調査者コメント			
	C改善案			
207. 家庭でも敬語を使うべきか	A-1答えやすさ	答えやすい	答えやすい	答えやすい。ただし夫の実家か自分の実家かで答えは違う。
	A-2違和感	なし	なし ただし「家の中」はどこまでを指すのかが不明	なし
	A-3目上	(聞き忘れ)	祖父母 70以上	親世代
	B調査者コメント			
208. 敬語をさかんに使うべきか	A-1答えやすさ	答えやすい	答えやすい	答えやすい
	A-2違和感	なし	なし	敬語を使うからと言って必ずしも上品ではないのではないが。
	B調査者コメント			
209. 自称詞と対称詞の使い分け	C改善案			
	A-1答えやすさ	答えやすい	答えやすい	迷った。相手について適当なことがあればよいが、日本語にはないの。
	A-2違和感	なし	なし	なし
	B調査者コメント			
210. 子供に本当のことを言うか	C改善案			
	A-1答えやすさ	答えやすい	答えやすい	答えにくい
	A-2違和感	なし	なし	なし
	B調査者コメント			被調査者が「子供がいないため分からない」と他の質問でも漏らす
211. 仕事上よく話す人	C改善案			
	A-1答えやすさ	答えやすい	答えやすい	答えにくい 専業主婦だと仕事がないので
	A-2違和感	なし	なし	なし
	B調査者コメント	回答がやや情性に流されているか？		
C改善案				

④社会生活調査項目

面接/アンケート		6, 11, 13-1, 18はアンケート 他面接	アンケート	アンケート
差し支えがあった項目		なし	18(家族構成)	なし
郵送の場合に回答しにくくなる項目		家族の名前(18)	仕事でなかったらこのアンケートには回答しなかったかも知れない。14-18は多分書かない。	6, 11, 12, 13-1, 14, 15, 18
1. メンツ	A被調査者コメント			
	B調査者コメント			
	C改善案			
2. 世間のしきたり	A被調査者コメント			
	B調査者コメント			
	C改善案			
3. 目上の人を尊敬する習慣	A被調査者コメント			
	B調査者コメント			
	C改善案			
4. 地位や身分の決定要因	A被調査者コメント			
	B調査者コメント			
	C改善案			
5. 住んでみたい土地	A被調査者コメント			
	B調査者コメント			
	C改善案			
6. 外出(県外) 場所, 回数, 用事	A被調査者コメント			
	B調査者コメント			
	C改善案			
7. 名古屋訪問	A被調査者コメント			
	B調査者コメント			
	C改善案			
8. 新聞を読む頻度・新聞名	A被調査者コメント			
	B調査者コメント			
	C改善案			
9-1 町内会や仕事での会	A被調査者コメント			
	B調査者コメント			

02.被調査者氏名		T. O.	R. I.	Y. O.
9-2 宴会・旅行	C改善案			
	A被調査者コメント			
	B調査者コメント			
9-3 見知らぬ人に話しかけるか	C改善案			
	A被調査者コメント			
	B調査者コメント			
9-4 交際の広さ	C改善案			
	A被調査者コメント			
	B調査者コメント			
10. 岡崎市での地位(自己評価)	C改善案			
	A被調査者コメント			
	B調査者コメント			
11. ふつうの日によく話す人	C改善案			回答しにくい
	A被調査者コメント			
	B調査者コメント			
12. 生まれた場所	C改善案			
	A被調査者コメント			
	B調査者コメント			
13. 住まいを変えたか	C改善案			
	A被調査者コメント			
	B調査者コメント			
13-1. 居住歴	C改善案			
	A被調査者コメント			
	B調査者コメント			
14. 父親・母親の出身地	C改善案			
	A被調査者コメント			
	B調査者コメント			
14-1 配偶者の出身地	C改善案			
	A被調査者コメント			
	B調査者コメント			
15. 最終学歴	C改善案			
	A被調査者コメント			
	B調査者コメント			
16. 役員経験	C改善案			
	A被調査者コメント			
	B調査者コメント			
17. あなた・世帯主の職業	C改善案	役所の所は、知らない相手から回答を求められたら、いやだと思ふ		
	A被調査者コメント			
	B調査者コメント			
17-1 あなた・世帯主の勤め先	C改善案			
	A被調査者コメント			
	B調査者コメント			
17-2 あなた・世帯主の商売／工業	C改善案			
	A被調査者コメント			
	B調査者コメント			
17-3 その他の仕事	C改善案			
	A被調査者コメント			
	B調査者コメント			
18. 家族の名前、続柄、同居／別居	C改善案			
	A被調査者コメント			
	B調査者コメント			
19. 家庭内での地位	B調査者コメント			
	C改善案			
20. 職業上の地位	B調査者コメント			
	C改善案			
21. 岡崎市での地位	B調査者コメント			
	C改善案			
終了時間		pm6:50	am10:33	pm2:45
所要時間		75min	84min	98min
22. -1 調査に対して	B調査者コメント			
	C改善案			
-2 反応までの時間	B調査者コメント			
	C改善案			
-3 反応語数	B調査者コメント			
	C改善案			
-4 言いよどみ、言いなおし	B調査者コメント			
	C改善案			
-5 質問に対する問いかけ	B調査者コメント	場合により質問あり		
	C改善案			

02.被調査者氏名		K. K.	K. S.	Y. K.
	C改善案			
9-2 宴会・旅行	A被調査者コメント			
	B調査者コメント			
	C改善案			
9-3 見知らぬ人に話しかけるか	A被調査者コメント			
	B調査者コメント			
	C改善案			
9-4 交際の広さ	A被調査者コメント			
	B調査者コメント			
	C改善案			
10. 岡崎市での地位(自己評価)	A被調査者コメント			
	B調査者コメント			
	C改善案			
11. ふつうの日によく話す人	A被調査者コメント			最初、順位を書くのではなく「○×」を付けていた。 親と兄弟が同じカテゴリに入っているのに戸惑っていた。 特に改善の必要はない。
	B調査者コメント			
	C改善案			
12. 生まれた場所	A被調査者コメント			
	B調査者コメント			
	C改善案			
13. 住まいを変えたか	A被調査者コメント			
	B調査者コメント			
	C改善案			
13-1. 居住歴	A被調査者コメント			
	B調査者コメント			
	C改善案			
14. 父親・母親の出身地	A被調査者コメント			
	B調査者コメント			
	C改善案			
14-1 配偶者の出身地	A被調査者コメント			
	B調査者コメント			
	C改善案			
15. 最終学歴	A被調査者コメント			
	B調査者コメント			
	C改善案			
16. 役員経験	A被調査者コメント			
	B調査者コメント			
	C改善案			
17. あなた・世帯主の職業	A被調査者コメント			学生の場合の書き方がよく分からない。
	B調査者コメント			
	C改善案			
17-1 あなた・世帯主の勤め先	A被調査者コメント			
	B調査者コメント			
	C改善案			
17-2 あなた・世帯主の商売／工業	A被調査者コメント			
	B調査者コメント			
	C改善案			
17-3 その他の仕事	A被調査者コメント			どの質問に答えてどの質問に答えなくていいのか迷っていた。
	B調査者コメント			
	C改善案			
18. 家族の名前, 続柄, 同居／別居	A被調査者コメント			
	B調査者コメント			
	C改善案			
19. 家庭内での地位	B調査者コメント			
	C改善案			
20. 職業上の地位	B調査者コメント			
	C改善案			
21. 岡崎市での地位	B調査者コメント			
	C改善案			
終了時間		16:20	11:30	10:10
所要時間	70min	86min	60min	
22. -1 調査に対して	B調査者コメント			
	C改善案			
-2 反応までの時間	B調査者コメント			
	C改善案			
-3 反応語数	B調査者コメント			
	C改善案			
-4 言いよどみ, 言いなおし	B調査者コメント			
	C改善案			
-5 質問に対する問いかけ	B調査者コメント			
	C改善案			

4. 調査対象者の選定

調査地岡崎市の現状や近年の動向を把握するため、市の公表資料を中心として各種資料を収集整理した。また、近年、岡崎市を含む三河地域でも増加する海外からの移入・在住者に関する資料も作成した。

第三次調査の回答者を得るために行った無作為抽出（ランダムサンプリング）の考え方・方法についての検討資料、第一次調査・第二次調査の回答者のうち第三次調査でも調査対象とする人（パネルサンプル）についての資料を収録する。

調査対象者（ランダムサンプル、パネルサンプルとも）の構成や属性別集計は、報告書第2分冊の「基礎項目集計表」に詳しい。

- 「岡崎市に関する基本情報（『岡崎市統計書』平成17年度版より）」 ……………75
 - ・ 2007年3月13・16日付
 - ・ 岡崎市の市勢、人口等の推移、市民の通勤・通学状況等に関する基本的な情報を、岡崎市から公表されている資料を基にグラフ化したもの。
 - ・ 例えば、⑦人口・世帯の推移、⑧外国人登録推移、⑩流出入人口（昼夜間人口比率）、⑪通勤通学先が市内か市外か、など、経年的な動向の情報も含む。

- 「岡崎在住の外国人について」 ……………91
 - ・ 岡調07-029
 - ・ 2007年9月17日付
 - ・ 岡崎市に外国人登録をして居住する外国籍の住民についての情報を収集し整理した。岡崎市文化国際課をはじめとして市役所関係部局の協力を得た。資料中に「添付資料」とある資料の中には、個人情報（居住地等）も含まれているため本報告書には収録しない。
 - ・ 第三次調査のランダムサンプリングでは、2名の帰化した方（推定）が調査対象者となった。実際に訪問して面接を目指したが、結果的には不在・留守の理由で面会できず回答は得られなかった。

- 「サンプリングの方法について」 ……………93
 - ・ 2008年4月16日付
 - ・ 第一次調査・第二次調査でのサンプリング法を参照しつつ、第三次調査でのサンプリング法を策定するための検討資料

- 「サンプリングの方法について(案)」 ……………95
 - ・ 2008年6月25日付
 - ・ 前資料以後の検討を経て、具体的なサンプリングとその後の調査の進め方に

ついて提案する資料。

- ・ 資料中に名が見える鈴木達三氏は岡崎第二次調査の統計班に参加した人、吉野氏・松本氏は第三次調査の連携研究者。
- ・ 資料中にある「Type A」「Type B」「Type C」のうち、補充調査において結果的に「Type A」「Type B」を併用的に適用したことになる。関連する資料が本報告書「6. 補充調査の実施」にある。

○ 「サンプリングについて(報告)」97

- ・ 2008年10月10日付
- ・ 今回のサンプリングの実施経過についての報告資料
- ・ 資料中「検討事項(1)」に「水害」とあるのは、2008年8月28日深夜に岡崎市を襲った集中豪雨による水害のこと。調査対象地域にも被害があった地域が含まれていたため、調査実施に際しては配慮を心がけた。

○ 「継続調査の調査対象者」98

- ・ 日付なし。
- ・ 37万人の市民から600人のランダムサンプル回答者を選ぶ手順を簡略化して図示したもの。
- ・ 調査対象者をどのように選定したかを、例えば面会して回答を依頼する現場で当の対象者やその家族などの関係者に説明するために作成した資料。

○ 「パネルサンプルの追跡結果」99

- ・ 2008年10月24日付
- ・ 第二次調査の回答者のうち、今回調査に先立つ居住地確認等の情報収集により現住地を把握できた218名についての現住地による分類資料。
- ・ 今回のパネル調査は、これらのうち調査対象地域に居住する145名を対象として実施した。それ以外の地域に住む人は、調査員移動等の効率を考慮して残念ながら対象にできなかった。

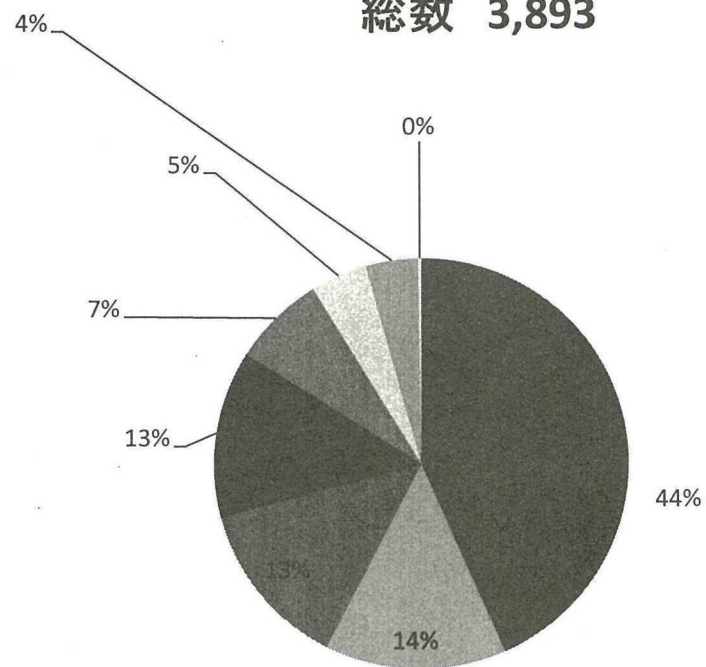
岡崎市に関する基本情報（『岡崎市統計書』平成17年度版より）

朝日祥之

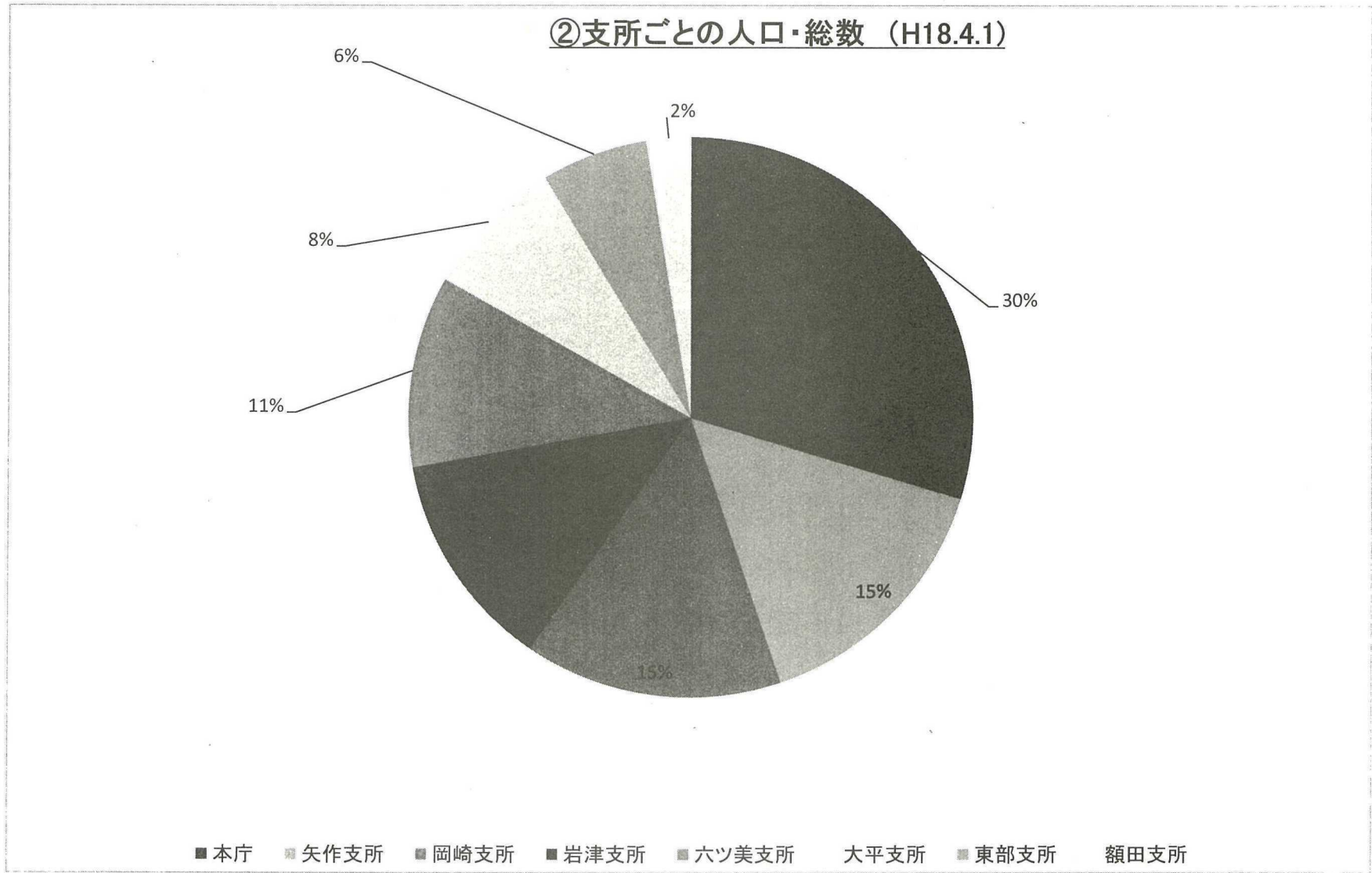
- ① 商業：事業所数
- ② 人口：支所ごとの人口総数
- ③ 人口：男女比
- ④ 人口：外国人登録者数
- ⑤ 都市環境：市内主要各駅乗車数
- ⑥ 都市環境：主要交通量
- ⑦ 人口・世帯の推移
- ⑧ 外国人登録の推移
- ⑨ 都道府県別人口移動数（外国人を除く）
- ⑩ 流出入人口・昼夜間人口
- ⑪ 常住地による従業・通学先別 15歳以上就業者数及び通学者数
（市内または市外へ通勤・通学）-①
- ⑫ 常住地による従業・通学先別 15歳以上就業者数及び通学者数
（市内または市外へ通勤・通学）-②
- ⑬ 従業地・通学地による常住地別 15歳以上就業者数及び通学者数
（市内または市外からの通勤・通学）-①
- ⑭ 従業地・通学地による常住地別 15歳以上就業者数及び通学者数
（市内または市外からの通勤・通学）-②

計14個

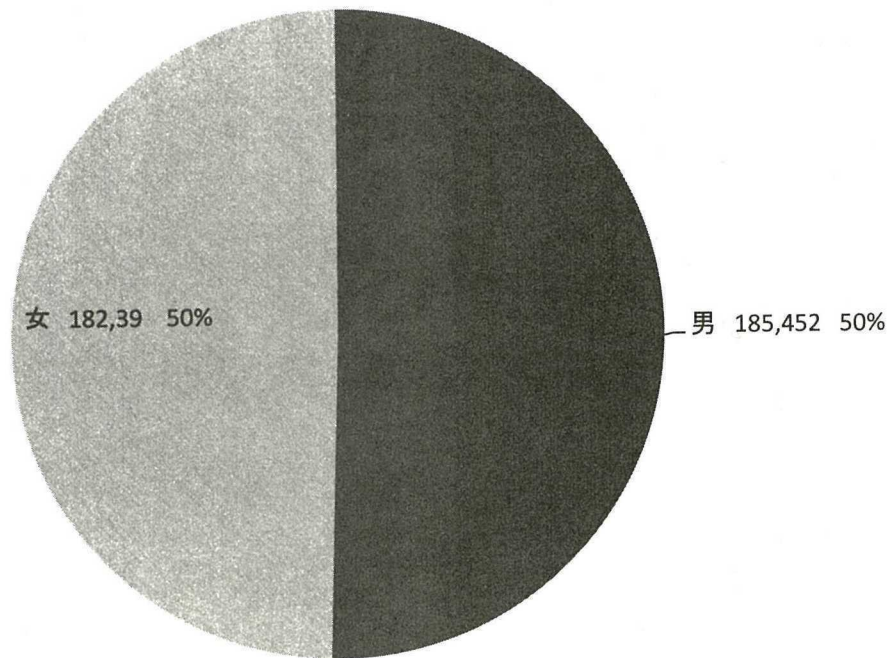
①事業所数(民営)
総数 3,893



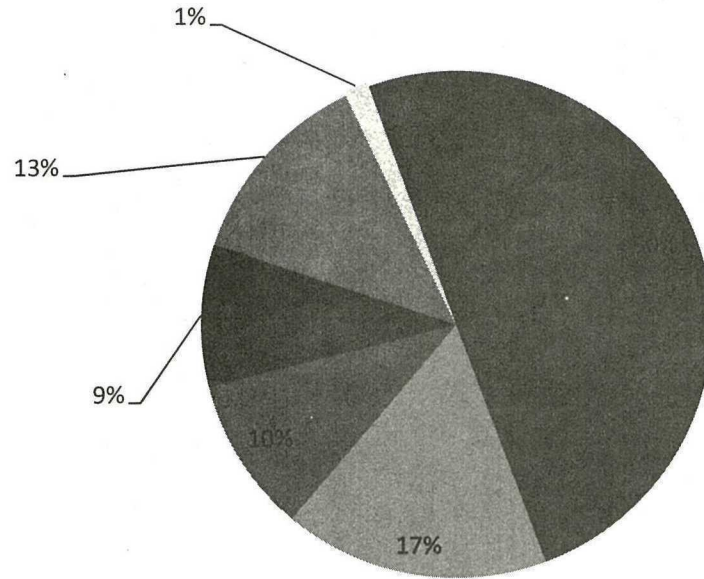
■ 小売業 ■ 飲食料品 ■ 卸売業 ■ その他 ■ 織物・衣服・身の回りの品 ■ 自動車・自転車 ■ 家具・じゅう器・機械器具 ■ 各種商品



③男女比
人口 367,850



④外国人登録者数 (H18.4.1.)
総数 10,706



■ ブラジル

■ 韓国・朝鮮

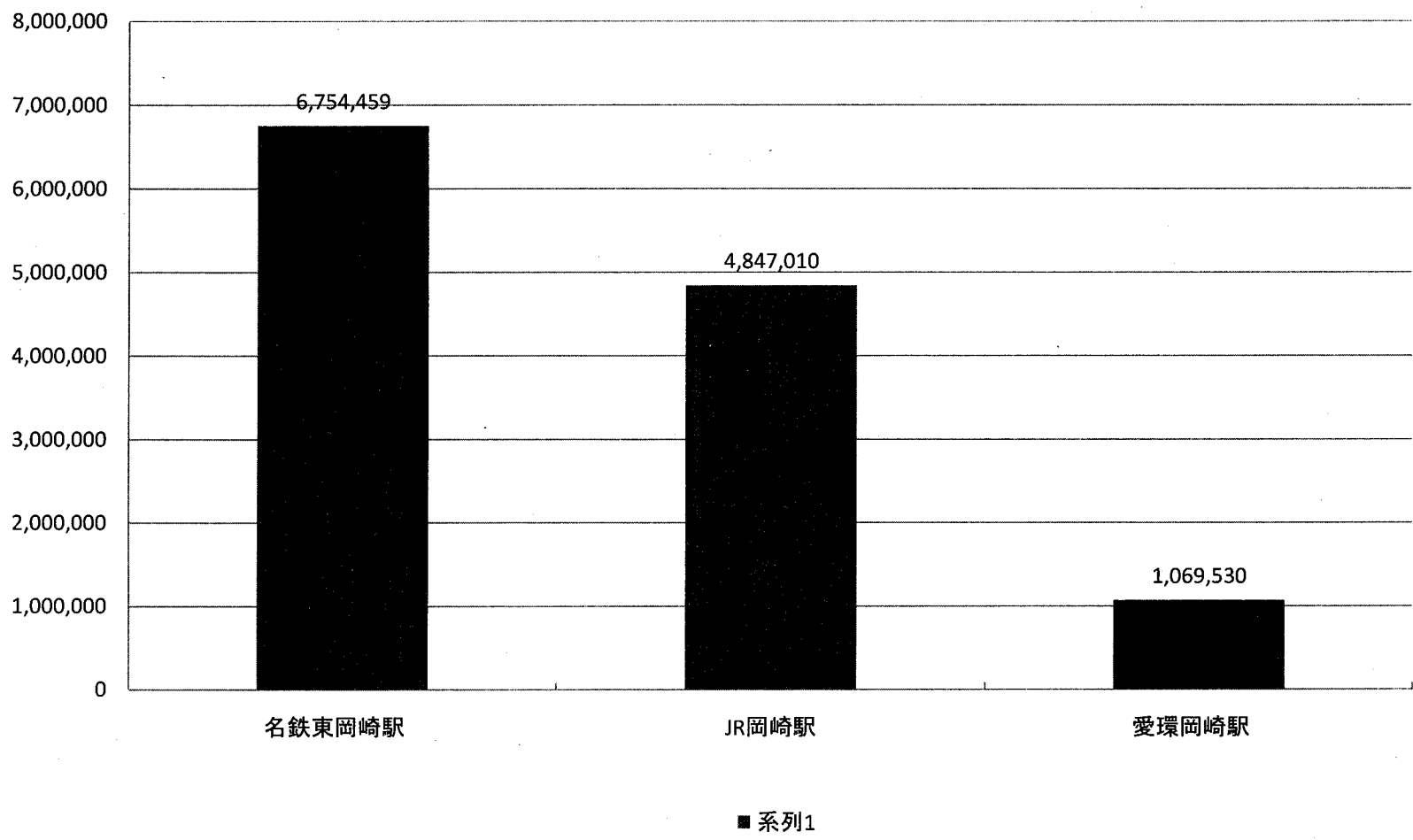
■ 中国

■ その他 1,011人 (9.4%)

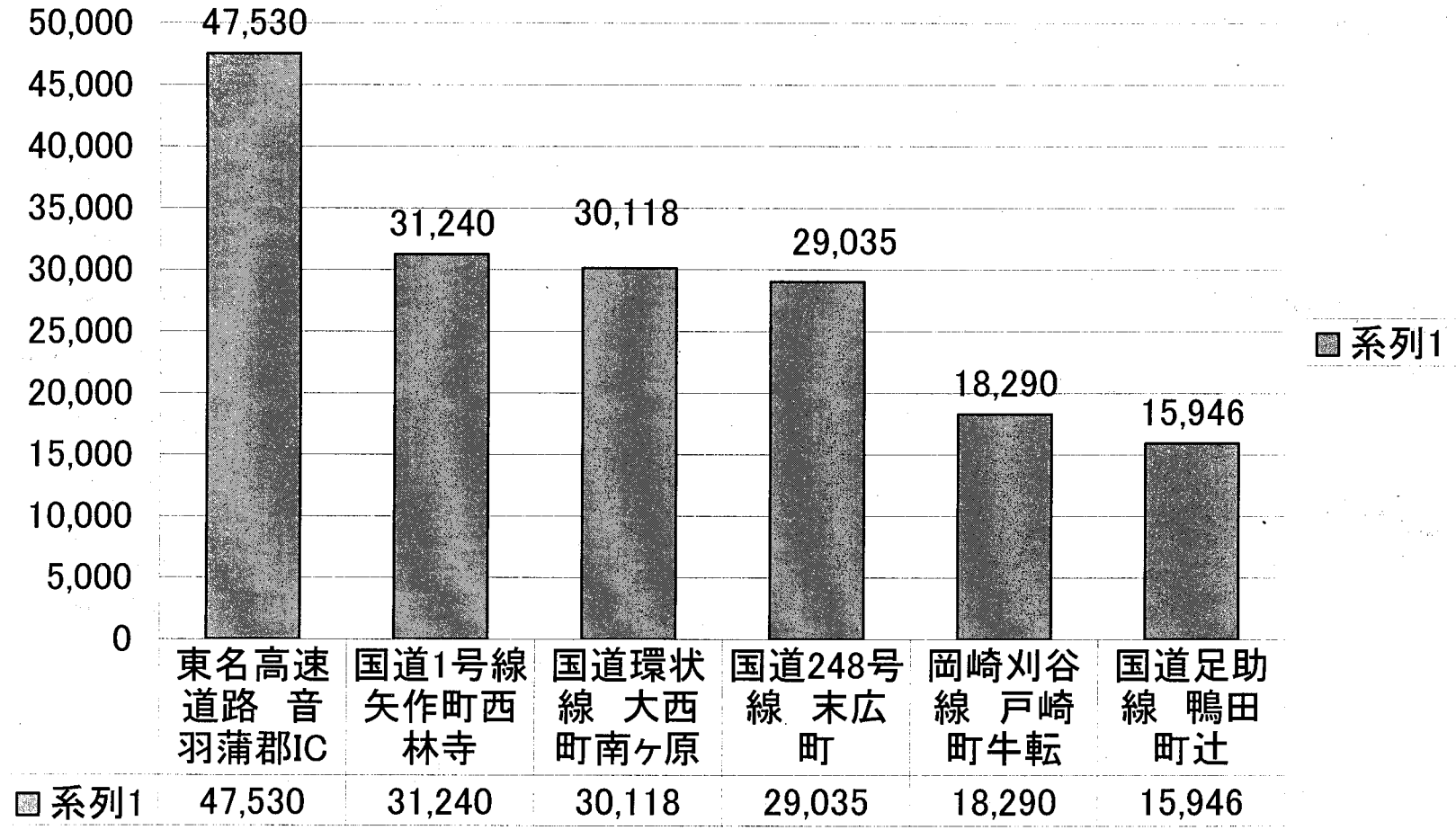
■ フィリピン

■ ペルー

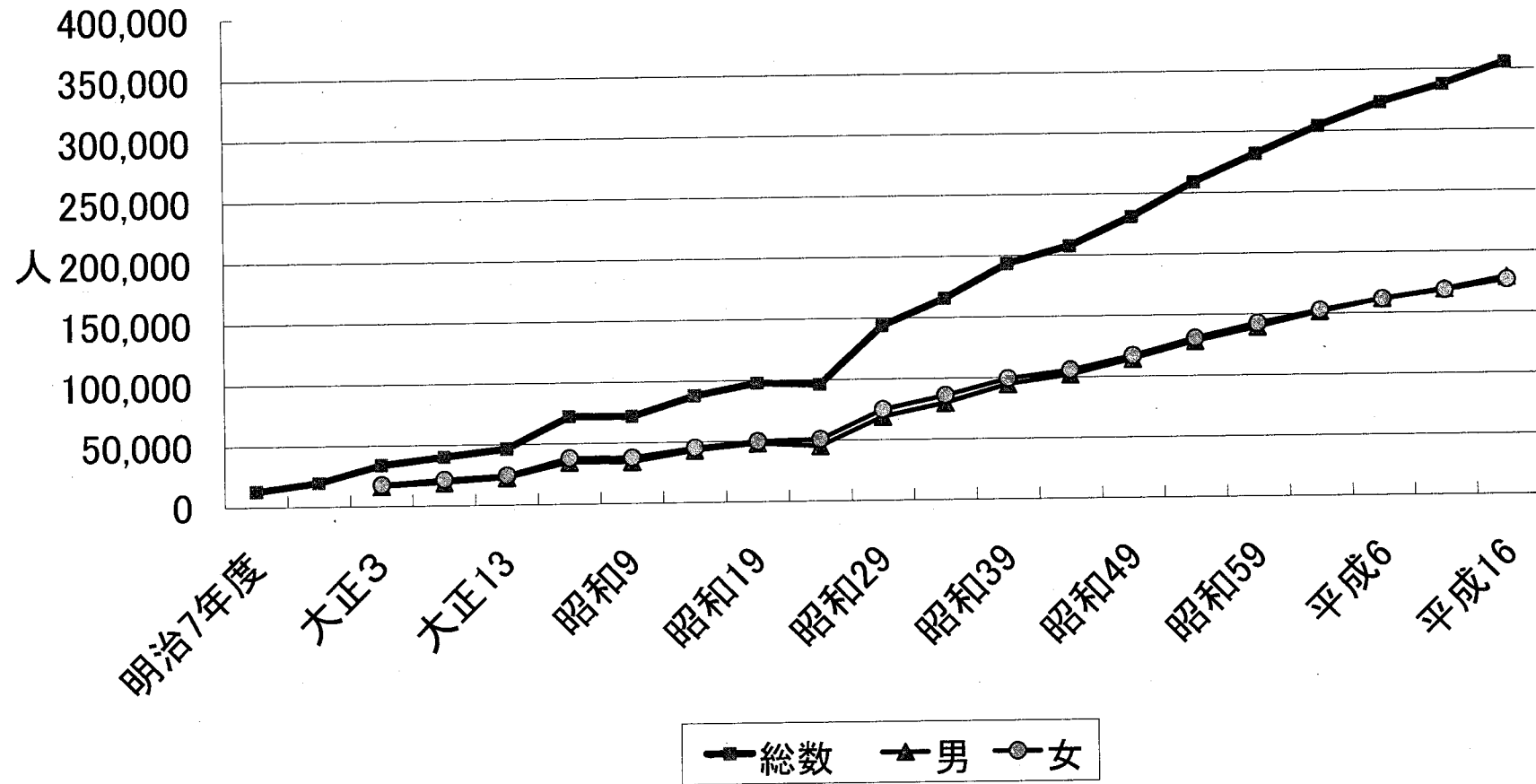
⑤市内主要各駅乗客数(H16年度)



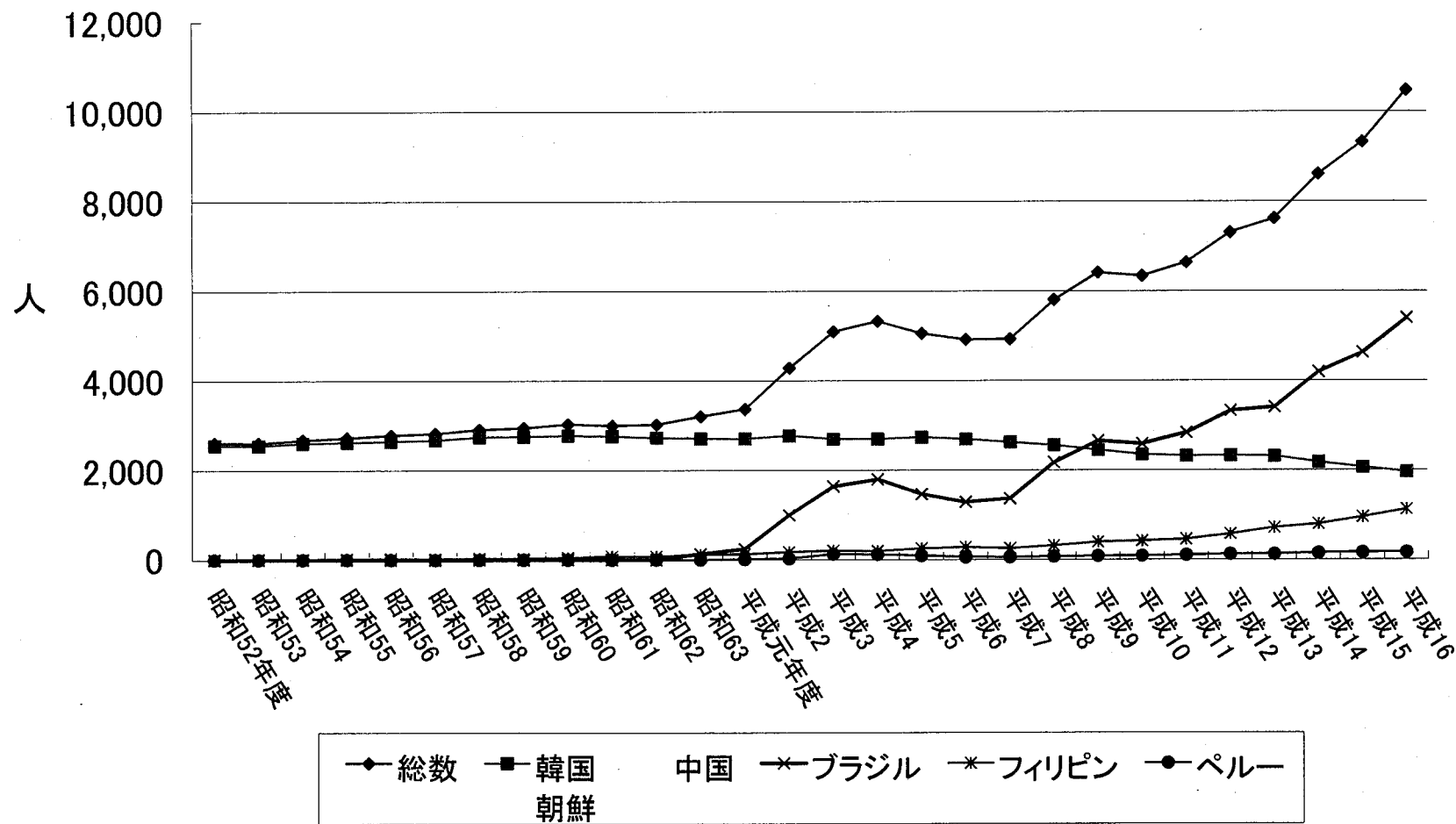
⑥主要交通量



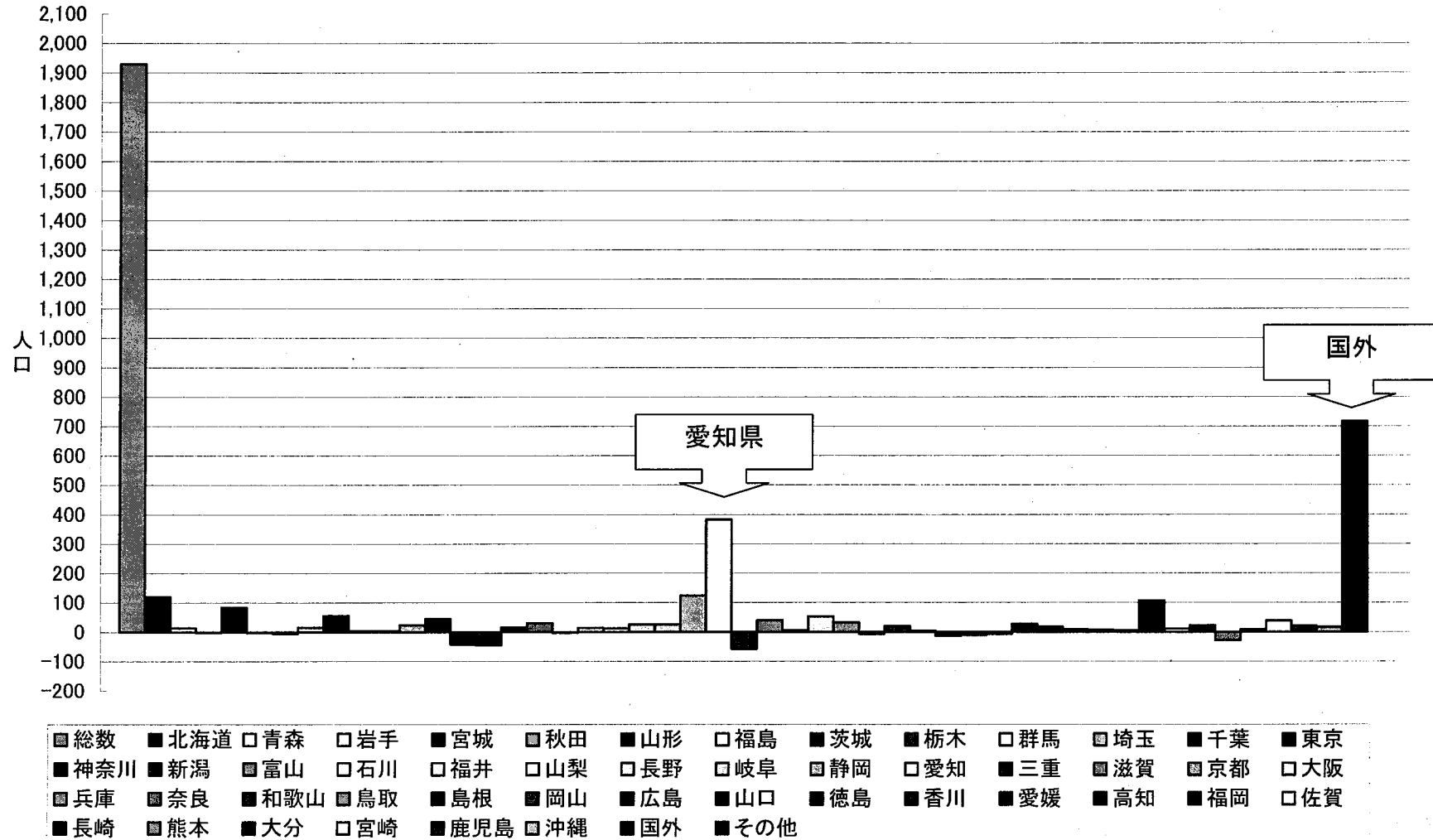
⑦人口・世帯の推移



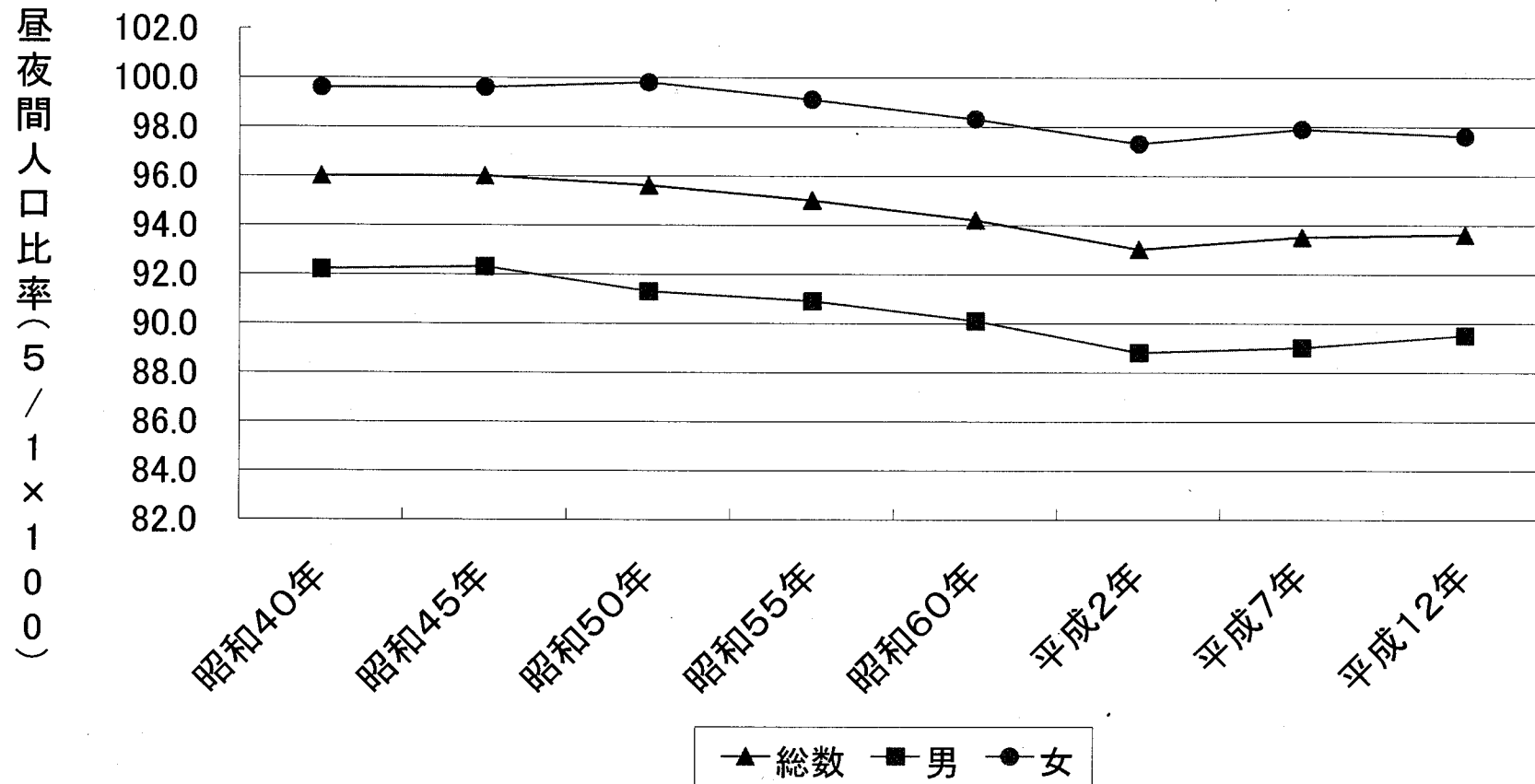
⑧外国人登録推移



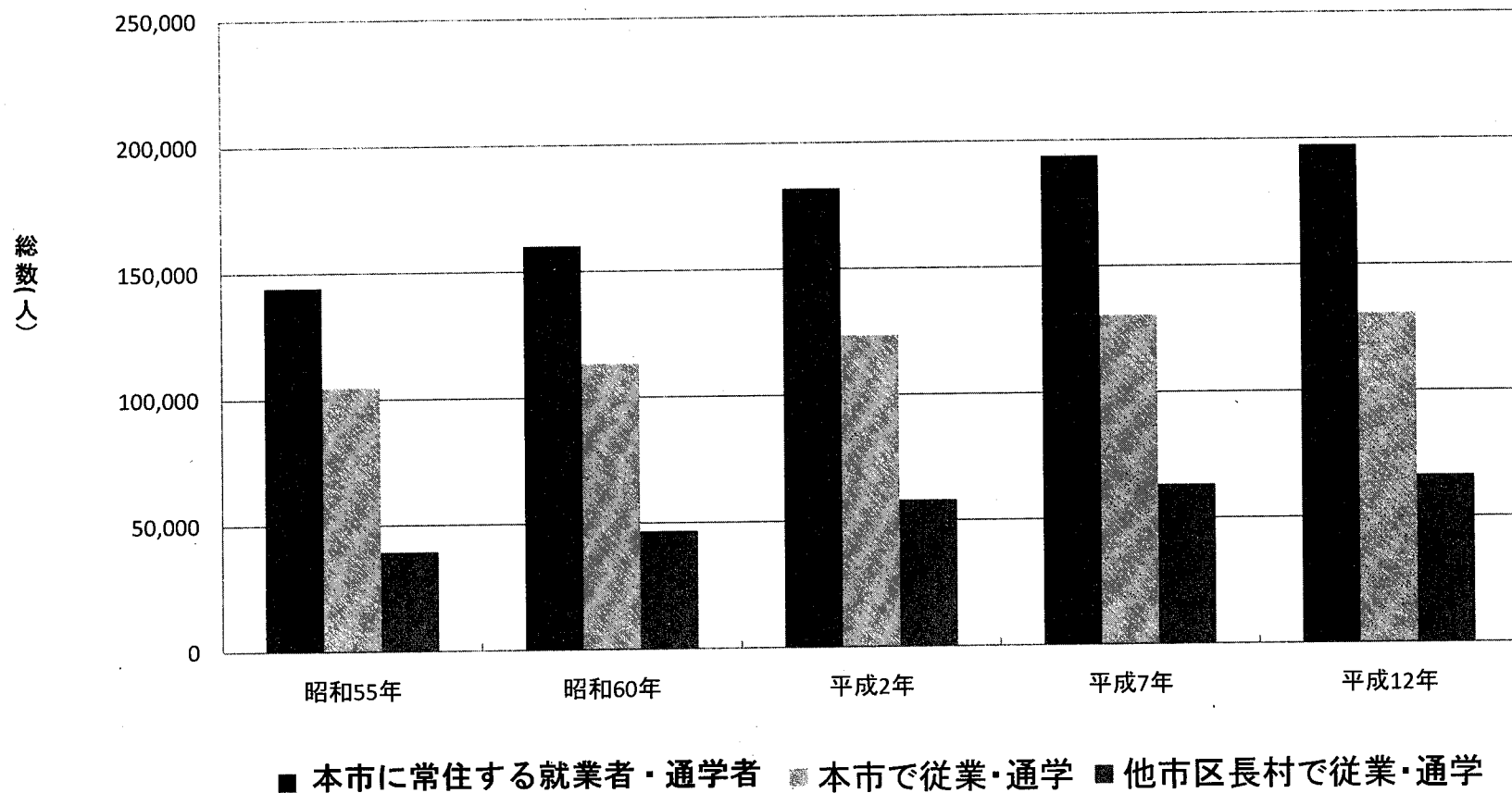
⑨都道府県別人口移動数



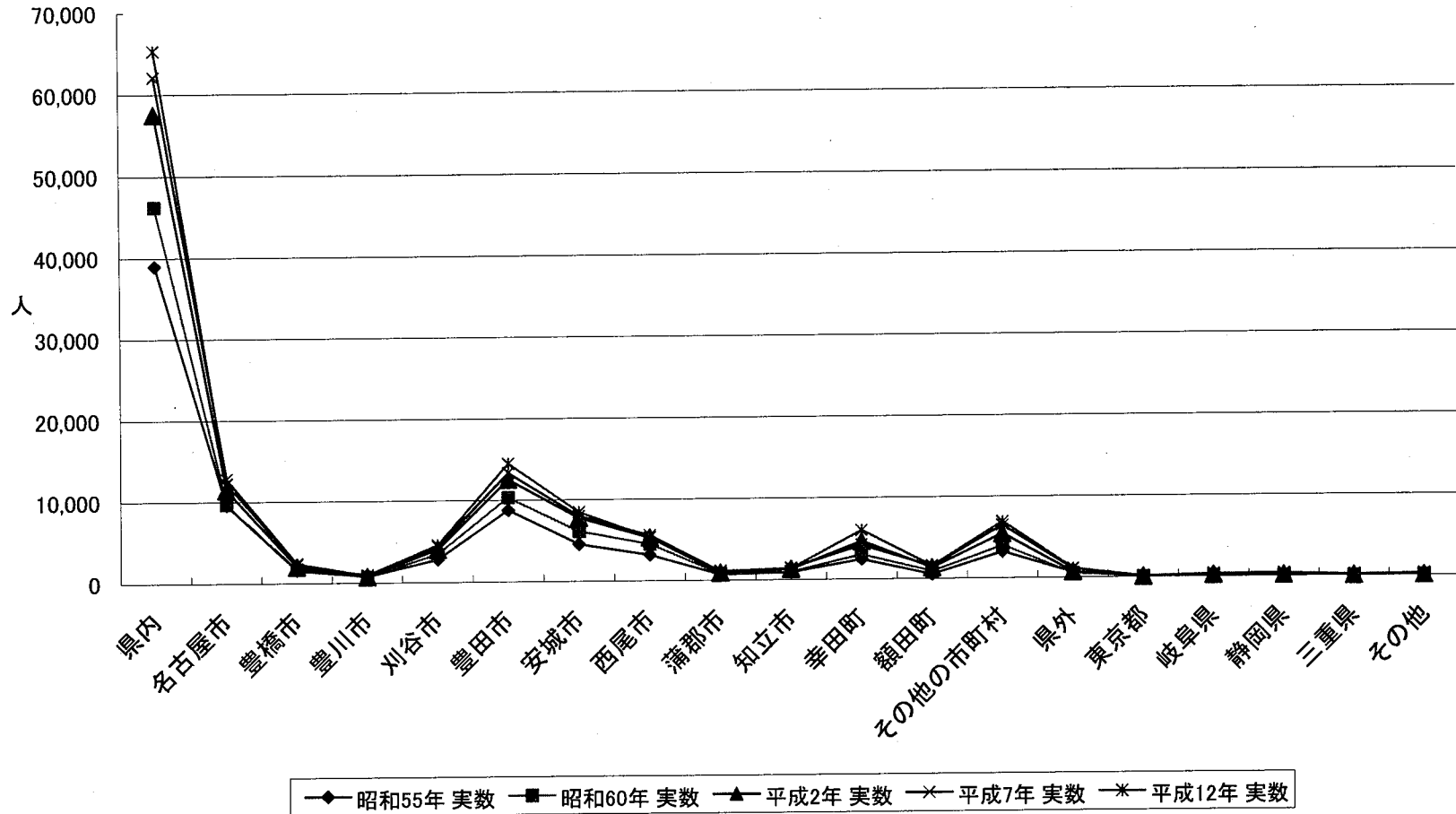
⑩流出入人口・昼夜間人口



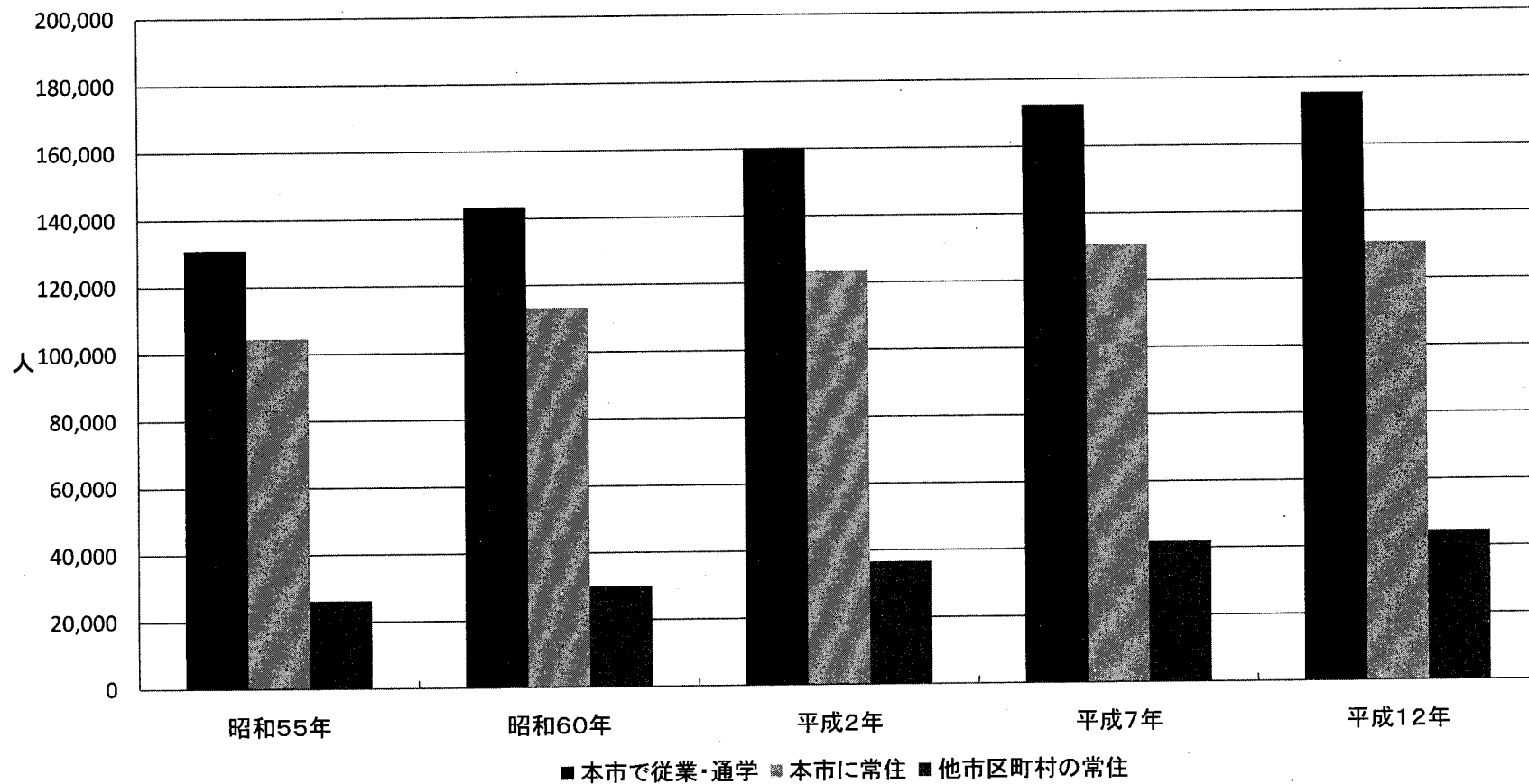
⑪ 常住地による従業・通学先別15歳以上就業者数及び通学者数
(市内または市外へ通勤・通学)－①



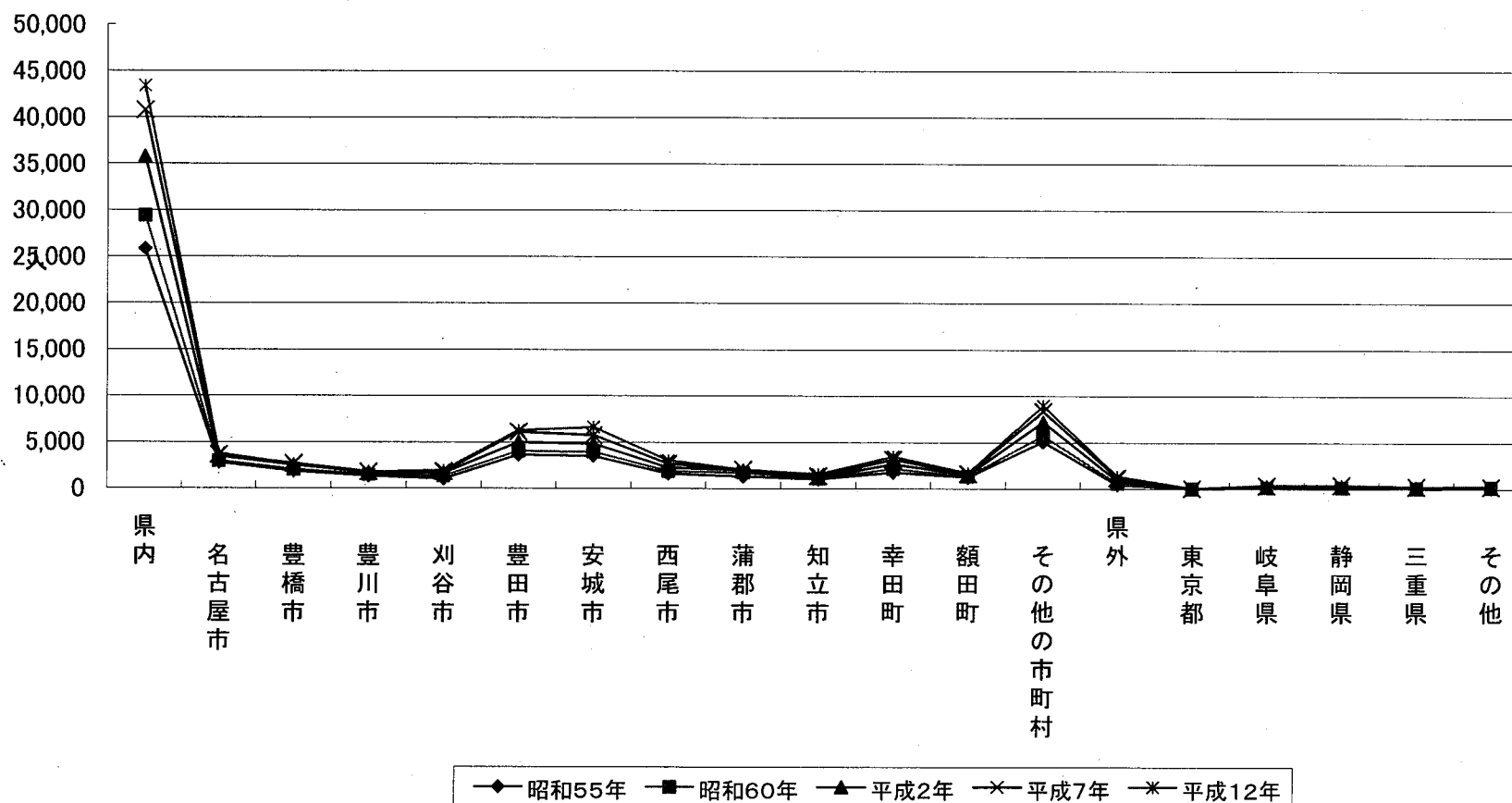
⑫ 常住地による従業・通学先別15歳以上就業者数及び通学者数
(市内または市外への通勤・通学) - ②



⑬ 従業地・通学地による常住地別15歳以上就業者数及び通学者数
(市内または市外からの通勤・通学) - ①



⑭ 従業地・通学地による常住地別15歳以上就業者数及び通学者数
 (市内または市外からの通勤・通学) - ②



岡崎在住の外国人について

○岡崎市に居住する外国人について

- ・ 人口全体の3%が外国人（外国人登録者数の割合）（文化国際課，私信）
- ・ 彼らの居住形態：鉄道沿線にある県営・市営住宅に集まって生活する
→ 近隣の工場などへのアクセスのいいところに住み着く傾向有
- ・ 多くはブラジル人（添付資料を参照）
- ・ 調査地域に居住する外国人（特にブラジル人）の情報
例：岡崎市営住宅の情報（添付資料）該当有
＝サンプリングで対象となる場合がある
愛知県営住宅の情報（調査地域に隣接する地区にある県営住宅）該当有
外国籍住民入居戸数：102
- ・ 岡崎市に関する外国人の状況について
参照：添付資料（文化国際課が作成した資料）

○外国人に対する調査について

- ・ 岡崎調査の対象となった場合，どのように対応するのか
 - (a) 日本人と同じ内容の調査を日本語で実施する
 - (b) 日本人と同じ内容の調査を外国語で実施する
 - (c) 外国人用の調査票を別途作成した上で実施する
- ・ 調査の内容について
 - ・ 日本語の敬語，敬語意識を扱うもの
 - ・ 居住者の第一言語の敬語・敬語意識を扱うもの
 - ・ 言語問題発見を目指したもの
 - ・ 言語生活を概観するもの

○調査の協力体制の構築について

- ・ 岡崎市・文化国際課
→ 外国人対象の調査の可能性については連絡済み

岡崎市国籍別登録者数

(平成19年6月末日現在)

順位	国籍	男	女	計	割合
1	ブラジル	3,271	2,727	5,998	51.44%
2	韓国および朝鮮	880	944	1,824	15.64%
3	中国	760	744	1,504	12.90%
4	フィリピン	281	858	1,139	9.77%
5	ベトナム	74	130	204	1.75%
6	ペルー	73	79	152	1.30%
7	インドネシア	71	33	104	0.89%
8	ネパール	66	32	98	0.84%
9	米国	68	26	94	0.81%
10	タイ	34	46	80	0.69%
11	インド	28	9	37	0.32%
12	カナダ	19	8	27	0.23%
12	英国	19	8	27	0.23%
12	カナダ	19	8	27	0.23%
15	オーストラリア	13	11	24	0.21%
16	アフガニスタン	22	0	22	0.19%
16	マレーシア	22	0	22	0.19%
18	ロシア	8	11	19	0.16%
19	アルゼンチン	7	8	15	0.13%
19	パラグアイ	7	8	15	0.13%
21	ボリビア	9	5	14	0.12%
	その他	129	85	214	1.84%
	合計	5,880	5,780	11,660	

登録国数 70 カ国 (無国籍含む)

サンプリングの方法について

1. 第一次調査, 第二次調査におけるサンプリングについて

<第一次調査(面接調査)>

- 社会生活調査のサンプル¹(732サンプル²)から250のサンプルを縮図作成法によって抽出(本グループ)。
- 学生を調査員とする200サンプルを同様の方法により抽出(比較グループ)。
- 上野調査のサンプリングの経験から, 年齢の上限を69歳とした。
- 調査不能率は, 上野調査が約15%, 岡崎調査が約9%である。

<第二次調査>

- 第一次調査と同一地域に居住する15歳~79歳を対象として, 等間隔単純無作為抽出法³によってサンプリング。岡崎市の協力により, 電子計算機を利用。
- 被調査者数を予め400名と設定し, 調査不能による不足分を考慮して余分にサンプリング。
- 調査不能者に対しては, 同性で年齢に近い者を差し替えて調査した(=差し替えサンプルの準備。第二次鶴岡調査の方法に従う)。
- 差し替えサンプル率は約11%。

2. 第三次調査のサンプリングに向けて(論点と提案)

① どのような手法を選ぶべきか

住民基本台帳の閲覧には制約があり, 単純無作為抽出法では十分なサンプル数をサンプリングする(=書き写す)時間的な余裕がないと考える。また, これまでの調査結果との比較を考えると, 層別抽出法や多段無作為抽出法を選択することによって, 調査対象地域における被調査者の代表性に大きな違いが出ることも避けるべきであると考え。このことから, 等間隔抽出法(乱数表を使ったランダムスタート, ○○人おきといったシステムティックサンプリング)を提案する。

¹ 社会生活調査のサンプリング方法は, それ自体も研究の対象となった経緯がある。当然のことながら, 上野調査の方法と併せて参照する必要があるが, ここでは詳細を割愛する(第一次報告書 p34-45 参照)。

² このサンプル数は, 目標の800サンプル(抽出の関係で804サンプルとなる)から調査不能者72名を除いた数である。

³ 報告書の記載通り。等間隔抽出法のことか。等間隔抽出法と単純無作為抽出法は別物であり, 「等間隔単純無作為抽出法」という方法はない。

- ② 被調査者の年齢（上限）を何歳とするか
第一次調査時には、70代以上の被調査者に調査不能者が多かったため、69歳という上限を設けた。第二次調査では、被調査者の年齢の上限を79歳までとし、調査も円滑に行われた。第三次調査では、第二次調査に合わせ、年齢の上限を79歳とする（被調査者の年齢：15～79歳）ことを提案する。
- ③ 調査の達成目標数を設定するか
第一次調査、第二次調査は、調査員数や予算の関係から、それぞれ800、400という調査達成の目標数を設定した。第一次調査、第二次調査の調査結果との比較が可能な、十分なサンプル数を確保するためには、目標数を設定することが必要だと考える。第三次調査では、第二次調査と同数の400に設定することを提案する。
- ④ 差し替えサンプルを設定するか
前述のように、第一次調査、第二次調査の調査結果と比較可能な十分なサンプル数を確保する必要がある。社会調査が困難となりつつある時代背景を考慮して、差し替えサンプルを準備することが妥当か。
- ⑤ サンプルングでいくつを抽出するか
第二次調査と比較し、差し替えサンプルに頼る率が高まると予想する。仮に目標数を400とした場合、2倍の800サンプルを準備することが妥当だと考える。
- ⑥ 誰がサンプルングするか
岡崎市における住民基本台帳の閲覧には、（1）同一人物は一月に2日まで、（2）同一事業所から一月に最大2名まで、という規則がある（＝4日人）。朝日、阿部の2名が200サンプル/日を目標として2日間に渡りサンプルングすることを提案する。

サンプリングの方法について (案)

1. 調査方法について (案)

6月17日(火)の統計数理研究所における、鈴木達三氏、吉野氏、松本氏との打合せから、下図の手順が有効であると考えられる。

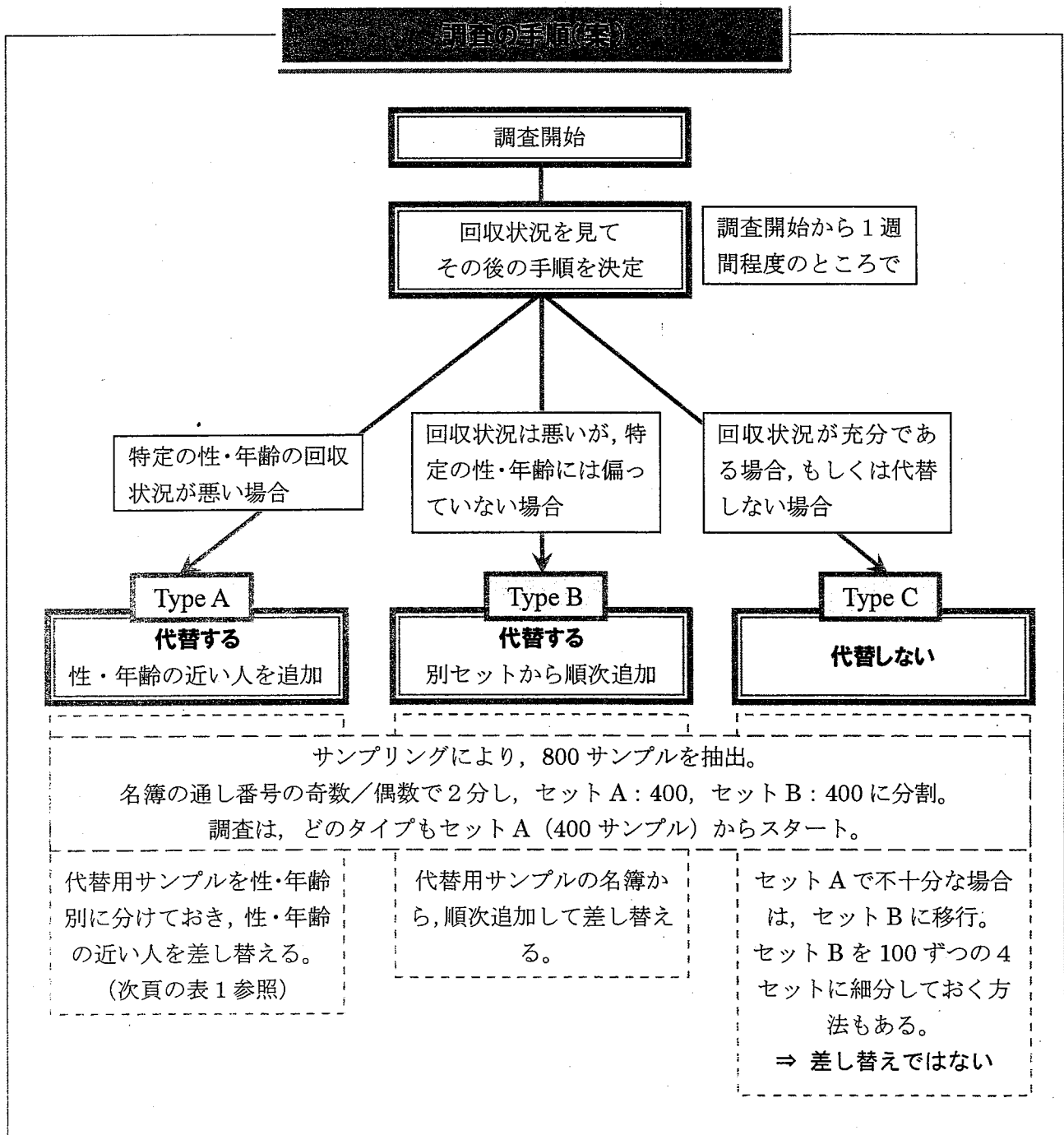


表1 代替用サンプルの分割

	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79
M	20	30	30	30	30	30	30
F	20	30	30	30	30	30	30

ある特定の年齢層や性別（例えば若年層・男性）の回収率が極端に悪い場合、データの分析（他の年齢層・性別との比較）を優先すると、この代替方法は有効。ただし、どの程度の回収率だったときに差し替えると判断するか（＝代替の基準を決めること）は非常に難しい。

2. サンプルングおよび調査手順について

サンプルングおよび調査手順について、事前に確認・決定しておくべきことを列挙する。

- (1) 事前にサンプルングしておく数は800で良いか。
⇒ 次の(2)次第か。
- (2) サンプルングに先立ち、事前に住民基本台帳を実際に見ておき、台帳の並び方等を確認しておく。実際に見ておかなければ分からないことも多い。
⇒ このことは、サンプルングの方法や(1)のサンプルング数(いくつまでサンプルング可能か)にも影響する。閲覧と同時に、台帳を2セット用意してもらえるのか、記入用紙はどのようなものか等、サンプルングに先立って必要な情報も確認しておく。
- (3) 現地での方針決定にあたり、誰がどのような基準で判断するかを決めておく。
⇒ 報告書等でその基準を明示できるようにしておく。
- (4) 調査不能と判断する基準を決めておく(接触回数、訪問回数などが考えられる)。
⇒ 基準の内容は回収率に影響する。また、報告書等でその基準を明示できるようにしておく必要もある。
- (5) 上記のいずれのタイプを採用する場合でも、調査員記録簿、調査本部記録簿には工夫が必要。代替/代替なしの両方に対応できるように準備するべきか。
⇒ 調査員に混乱が起きないように、マニュアルの内容も工夫する。

サンプリングについて（報告）

朝日、阿部の2名が、下記の日程で住民基本台帳を閲覧・転記し、800 サンプルの抽出を完了した。

- 1回目 9月18日（木）朝日200名、阿部202名 計402名
- 2回目 10月7日（火）朝日200名、阿部198名 計398名 合計800名
- 朝日、阿部のそれぞれが、乱数表によりスタート位置を決定（朝日：83、阿部32）。
- 最新の人口統計を基にした計算から、サンプリングの間隔を77とした。

※ 検討事項・情報

- (1) 岡崎市役所より、水害により倒壊した住宅の住所情報の提供を受けた。
重なりがある場合は、調査の実施あるいは調査の実施場所について要検討。
なお、倒壊した住宅の住民の、現在の居住先については、市も把握していないとのこと。
- (2) 外国人登録者は住民基本台帳には記載されないが、帰化（簡易帰化を含む）した方については記載あり。お名前から判断して帰化したと思われるサンプルは2名。
調査実施／内容についての方針は要検討。
- (3) 集合住宅が多い地区あり。集合住宅の割合は、全体（800名）の3割程度。

【サンプリング後の作業について】

- 転記した個人の情報を電子化。 済
- 調査員記録簿に情報を反映させる。 済
- 連番を付し、奇数400名、偶数400名に分割。
- 水害により倒壊した住居との重なりをチェック。
- パネルサンプルとの重なりをチェック。
- 各サンプルについて、住宅地図で場所を特定し、地図を印刷（調査員記録簿に添付）。
- 調査員の割り当て

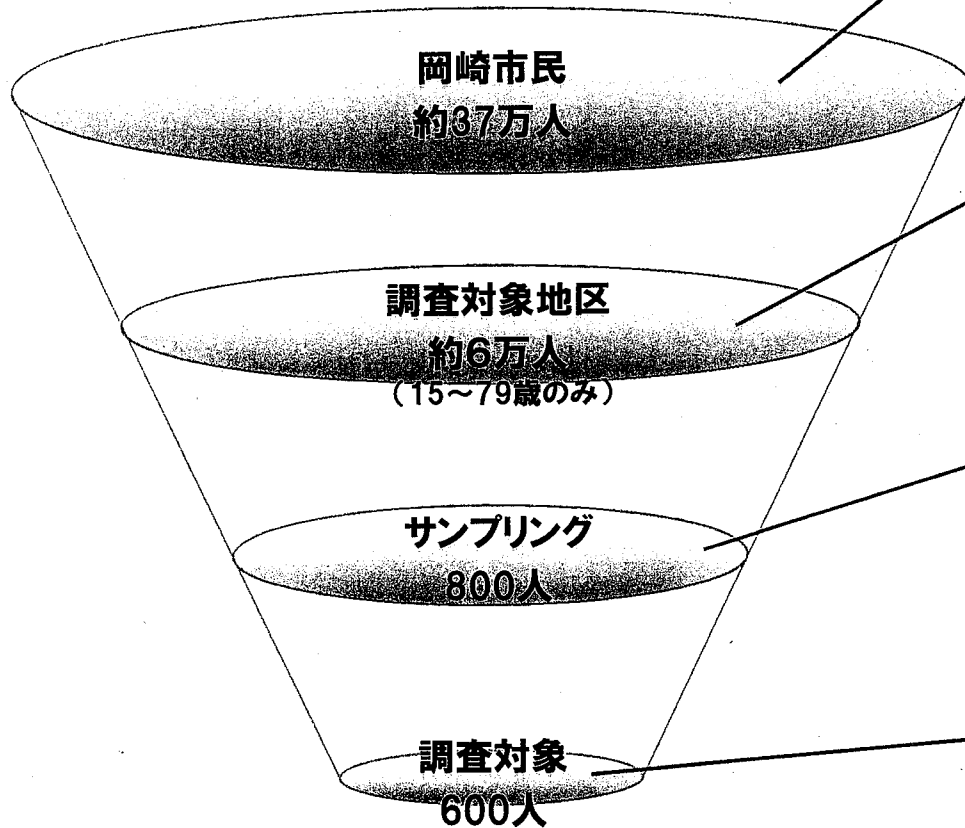
【関連事項】

- (1) パネルサンプルの転居者については、住民票の交付対象者のリストを整備し（済）、岡崎市役所市民課に提出する。住民票は郵送により受け取る。

以上

継続調査の調査対象者

継続調査は、社会調査で用いられる サンプルング という方法で御協力いただく方を選びました。
この方法は、無作為に選ぶ、クジ引きのような方法です。
15歳～79歳の男女という条件以外は、特に設けていません。



岡崎市の人口の推移

第一次調査当時(昭和28年):約10万人
第二次調査当時(昭和47年):約21万人



調査対象地区の人口の推移

※ 調査対象外の年齢(0-14歳, 80歳以上)を含みます
第一次調査当時(昭和28年):約6万9千人
第二次調査当時(昭和47年):約7万7千人
第三次調査(平成20年) :約8万人



サンプリング方法

単純無作為抽出法(等間隔)という方法を使いました。
岡崎市の御協力により、住民基本台帳を基にしています。



調査対象者の抽出

今回新たにお願いした方です。
サンプリングで抽出した800名から、さらに600名を抽出しました。

パネルサンプルの追跡結果

① 調査地域内に居住 145名 (そのうち第二次と同じ住所に居住は 110名)

② 調査地域外の岡崎市に居住 55名

③ 岡崎市外に居住 18名

内訳) 愛知県 名古屋市 4名

豊田市 3名

田原市, 小牧市, 豊川市, 蒲郡市, 尾張旭市, 安城市, 御津町,

一色町 各1名

三重県津市, 岐阜県岐阜市, 埼玉県熊谷市 各1名

合計 218名

5. 本調査の実施

第三次調査のランダムサンプルおよびパネルサンプルに対する面接調査・アンケート調査の本調査は、平成19年11月12日から25日までの期間に実施した。

本章には、この本調査に用いた以下の各種資料を収録し、併せて、本調査の達成状況の一覧も掲げる。

<調査依頼>

- 岡崎市長名義の調査協力依頼状 ……………105
 - ・ 平成20年11月吉日付
 - ・ 調査を企画・実施するすべての段階で、岡崎市からは調査への理解と多面的な支援を得ることができた。第一次調査，第二次調査と同様，今回調査でも岡崎市長名義の調査協力依頼状を作成していただくことができ，回答者に予め郵送する調査依頼説明文書に同封した。
- 国立国語研究所長名義の調査協力依頼状 ……………107
 - ・ 平成20年11月付
 - ・ 「ことばの調査のお願い」「お願いの内容」という標題の文面で作成して，回答者に予め郵送する調査依頼説明文書として用いた。
- 「調査のガイドライン」……………109
 - ・ 回答者に予め郵送する調査依頼説明文書に同封したものの。
 - ・ 前項の所長名義の依頼文書を受けて，その調査の進め方，回答データの扱い方，個人情報の扱い方などについて回答者や家族等関係者に説明する文書。

<調査票・提示物>

- 「アンケート 暮らしの中のことば」……………111
 - ・ 岡調08-032 アンケート
 - ・ 回答者に予め郵送する調査依頼説明文書に同封したものの。回答者自身に回答を記入してもらっておき，面接調査のために訪問・面会した際に回収する方法（留置き方式）による質問回答用紙である。
 - ・ 第一次調査・第二次調査では「社会生活調査」の標題で用いられていた。第一次調査では面接調査，スライド調査，集合調査，対話の実験的調査，場面録音調査，引き回し調査，パーソナリティ調査など多種類の調査が行われた。「社会生活調査」という名称は，その並びの中で他と区別する働きの強いものと思われる。第三次調査で経年的に実施する調査は面接調査とアンケート調査の2種類であること，また，「社会生活調査」が専門用語的な名称であることを考慮して，一般市民である回答者に親しみやすい「アンケート

暮らしの中のことば」という標題に変更した。

○ 「面接調査票」……………115

- ・ 岡調08-031 (ランダム/パネル)
- ・ 調査員が持参して回答者に直接面接し、この調査票の中の順序に沿って質問を進めながら回答を書き取るための質問記録用紙。
- ・ 第一次調査・第二次調査では「サーヴェイ調査票」の標題で用いられていた。その名称は、前項の「社会生活調査」と同じように他の調査名称との並びの中で、調査員が実際に調査地を回り回答者を訪問面接して行う調査をサーヴェイと呼ぶことのある社会調査の領域での用語を採用したと推測される。その意味での「サーヴェイ」用の調査票という命名である（第一次・第二次調査の報告書等で明示的な説明は確認できていない）。

一方で「サーヴェイ」は広義で「調査」を意味する語として一般的には理解されることが多い。また、第一次調査・第二次調査でも、調査そのものは「面接調査」と呼んでいる（各報告書）ことも踏まえ、第三次調査では「面接調査票」という標題に変更した。

○ 提示刺激図 選択肢リスト……………129

- ・ 提示刺激図 14 枚と選択肢リスト 10 枚からなる。1 枚ずつ透明ファイルに入れた冊子として調査員が持ち歩き、面接調査で回答者に提示する。
- ・ 提示刺激図は、第一次調査・第二次調査で用いたものから全体を書き換えた。調査場面や提示刺激図については、現在の目で見えた適切性が事前の検討課題であった。場面自体の設定内容と同時に、提示する刺激図が、現代の日常生活と乖離していないかどうか、図中人物に想定される年齢等に調査意図とのずれはないかなどである。これを確認するために経年調査プリテスト（本報告書 3 章）を実施し、その結果を基にして刺激図を書き換えることとした。図柄の具体的な変化については、成果報告書第 2 分冊（調査項目一覧）に詳しく説明した。

<記録簿・マニュアル>

○ 「調査員記録簿」……………141

- ・ 個々の回答者について、あらかじめ氏名・性別・住所・電話番号を記入した上で面接を担当する調査員に配布し、回答者との連絡・接触の日時や状況を記録したり、アンケート回収や面接調査の成否を記録したりするための用紙。ランダム回答者用とパネル回答者用とを用紙の色で区別したり、裏面に回答者宅近くの地図を書き込んだりして作成した。調査期間途中で担当調査員が交代する際の引継ぎ用としても、調査の達成・不達成の記録としても活用できる。

- 「調査マニュアル」……………143
 - ・ 岡調08-033
 - ・ 参加する調査員に配布した。調査の手順や調査方法について周知し共通理解を図るために、詳細なことがらまで具体的に記した。資料自体の「目次」を参照されたい。

- 「調査本部マニュアル」……………165
 - ・ 岡調08-034
 - ・ 調査期間中、岡崎市内ホテルに設置した調査本部の要員に配布した。調査本部の用務、回答者からの問い合わせへの対応、調査員への指示や連絡、回収データの受け取りなどについて具体的に記した。

<本調査の達成状況>

- 「調査結果(本調査終了時点)」……………175
 - ・ 2008年12月10日付
 - ・ 本調査での調査達成状況の、調査地区別一覧表。
 - ・ パネル回答者は145名中75名(51.7%)、ランダムサンプル回答者は600名中277名(48.9%)に調査することができた。この結果をふまえて、次章で扱う補充調査を実施した。

謹啓 秋冷の候 時下ますます御清栄のこととお喜び申し上げます。

市政の推進につきまして、平素から格別の御理解、御協力を賜り、感謝いたしております。

さて、このたび、国立国語研究所が「ことばの調査」を岡崎市で行うこととなりました。これは日本人の「暮らしの中のことば」を調べることを目的としたものです。

実は、国立国語研究所は昭和 28 年、昭和 47 年にも同じように岡崎市で調査を実施いたしました。その際も岡崎市として調査にできるだけの協力をいたしました。今回はそれ以後の社会の激変の中で、ことばの使い方がどのように変わったかを調査してみたいとのことです。

今回も岡崎市として、有意義な結果が得られるよう協力したいと考えておりますので、市民の皆様の御支援を賜りますよう、よろしく願いいたします。

敬具

平成 20 年 11 月 吉日

関 係 各 位

岡崎市長 柴田 紘一

担当

岡崎市役所市民文化部市民課 窓口班

追伸

なお、本調査に関するお問い合わせにつきましては、下記連絡先へお願いいたします。

※連絡先

独立行政法人 国立国語研究所岡崎調査事務局
〒190-8561 東京都立川市緑町 10-2
電話 042-540-4451 (直通)

調査期間中 (11月12日～11月25日) は
岡崎サンホテル内「岡崎調査本部」
〒444-0038 岡崎市伝馬通 2 丁目 22 番地
電話 0564-65-6000 (代表)

岡崎市民各位

ことばの調査のお願い

突然お手紙をさしあげます。

私ども国立国語研究所では、これまで永年にわたり全国各地でことばの実態調査を行ってまいりました。当岡崎市でも、昭和28年と昭和47年の2回にわたり多くの市民の方々にご協力いただき、貴重な成果をあげることができました。

このたび、その後35年のことばの変化をあとづける目標をかかげて、再度、岡崎市で調査することを企画いたしました。今回は、市民の皆様の中から600人の方にお目にかかり、ことばについておうかがいしたいと存じます。

このほど市役所のご協力を得て、お会いする方を統計学的方法で公平に選びましたところ、あなたがその対象となりました。何かとお忙しいところ勝手なお願いを申上げて恐縮ですが、どうぞご協力くださいますようよろしく願いいたします。

ご協力いただきたいことは、つぎの二つです。

- (1) 同封のアンケート用紙(『アンケート-暮らしの中のことば-』)にご記入いただくこと。
- (2) お宅に直接お訪ねする当研究所の所員(または、当研究所の委嘱した研究者)にお会いくださった上、簡単な質問に答えていただくこと。

調査結果は性別、年齢別、出身地別などのようにグループにまとめて集計します。お名前やお答えの内容など個人的な事柄は決して公表することはありませんので、安心してふだんのままをお答えください。また、ご家族の方を代人とするのではなく、あなた自身でお答えいただきたく存じます。

以上突然ですが、上記趣旨をご理解のうえ、なにとぞご協力くださいますよう重ねてお願い申し上げます。

平成20年11月

独立行政法人
国立国語研究所
所長 杉戸清樹

お 願 い の 内 容

- (1) 同封のアンケート（『アンケート - 暮らしの中のことば - 』）に、**あなた自身**でお答えください。
- (2) きたる、**11月12日（水）～11月25日（火）**までのうち、ご都合のよいときに、私どもの調査員がお訪ねします。
- (3) そのときに、ご記入済みのアンケート用紙をお渡しく下さい。
- (4) お尋ねするのにご都合のよい日時については、調査員が直接連絡してうかがいます。
- (5) 調査員がお聞きする質問にお答えください。質問は、ふだんお使いのことばについての簡単な内容です。30分ほどで終わりますので、どうぞご協力くださいますようお願いいたします。
- (6) なお、お礼の粗品を用意しておりますので、調査員からお受け取りください。

【連絡先】

国立国語研究所 岡崎調査事務局
〒190-8561 東京都立川市緑町 10-2
電話（直通） 042-540-4451

【岡崎での連絡先】

11月12日～11月25日の調査期間中は、下記にご連絡ください。
岡崎サンホテル
〒444-0038 岡崎市伝馬通 2丁目 22番地
電話（代表） 0564-65-6000

調査のガイドライン

私たちは、科学研究費補助金（基盤研究A）の交付を受けて、敬語の使用とその意識について研究しています。研究課題名は「敬語と敬語意識－岡崎市における第三次調査－」です。研究代表者は杉戸清樹（国立国語研究所）です。

研究倫理を遵守し、人権の擁護、個人情報の保護につとめるために、以下のとおり、調査のガイドラインを設けました。

- (1) 調査、データ収録、情報収集にあたっては研究倫理を遵守し、ご提供いただいた情報、音声データは学術研究目的以外には利用しないことをお約束します。
- (2) 個人情報の保護につとめ、お名前・ご住所などの個人情報は公開しません。
- (3) 不都合な情報について訂正・削除のお求めがあった場合は、データ収録後も対応します。
- (4) ご提供いただいた情報、録音した音声データなどの調査資料は、利用について承諾を得た範囲の、特定できる研究者・専門家に限って公開します。
- (5) ご提供いただいた情報、録音した音声データの分析、および、それに基づいた成果の公表にあたっては、内容や発言者について個人を特定して論ずることはしません。

お問い合わせ先：

〒190-8561 東京都立川市緑町10-2 独立行政法人 国立国語研究所 岡崎調査事務局
電話：042-540-4451（事務局直通）

アンケート

暮らしの中のことば

1. きのう1日にしたことについてお聞きします。あてはまるものすべてに○印を付けてください。

- 1. 家で話しましたか

- 1 相談 2 言い争い 3 家人に注意や小言 4 用事の話 5 指図した 6 指図された
7 客との応対 8 朝食どきの雑談 9 昼食どきの雑談 10 夕食どきの雑談
11 夕食後のお茶や夜食どきの雑談 12 食事どき以外の雑談 13 配偶者との雑談 14 親との雑談
15 自分の子どもの雑談 16 電話をかけた 17 電話を受けた

- 2. 親しい人と話しましたか

- 1 相談 2 知人などのうわさ話 3 私的な相談・打ち合わせ 4 町内会・自治会などの連絡
5 交渉・話し合い 6 相手の家で話した 7 自分の家で話した 8 路上やその他の場所で話した
9 物を貸した 10 物を借りた 11 朝のあいさつ 12 昼のあいさつ 13 夜のあいさつ
14 電話をかけた 15 電話を受けた

- 3. あまり親しくない人と話しましたか

- 1 相談 2 知人などのうわさ話 3 私的な相談・打ち合わせ 4 町内会・自治会などの連絡
5 交渉・話し合い 6 相手の家で話した 7 自分の家で話した 8 路上やその他の場所で話した
9 物を貸した 10 物を借りた 11 朝のあいさつ 12 昼のあいさつ 13 夜のあいさつ
14 電話をかけた 15 電話を受けた 16 コンビニで店員と

- 4. 職場や学校、会合で話しましたか ※「職場」にはアルバイト・パート先も含まれます。

- 1 先生や上役と 2 先輩や上級生と 3 友だちや同僚と 4 部下や下級生と 5 客と
6 出入り業者と 7 あまり心安くない人と 8 はじめての人と 9 サークル・クラブの人と
10 質問 11 私的な相談・打ち合わせ 12 公的な相談・打ち合わせ 13 交渉・話し合い
14 会議 15 指図した 16 指図された 17 雑談 18 電話をかけた 19 電話を受けた

- 5. 聞きましたか

- 1 ラジオの音声 2 テレビの音声 3 宣伝カーの放送 4 街頭放送 5 外国語 6 演説
7 講義・訓話・説教 8 駅などの音声案内やお知らせ 9 ニュース 10 注意や小言

- 6. 読みましたか

- 1 新聞 2 週刊誌 3 その他の雑誌 4 教科書・参考書 5 辞書 6 外国語 7 小説
8 漫画 9 その他の本 10 テレビの字幕 11 はがき・手紙 12 書類 13 タウン誌
14 掲示 15 電車やバスの電光掲示板 16 回覧版 17 広告のちらし 18 ポスター
19 看板 20 Eメール 21 インターネットのホームページ 22 インターネットのニュース

- 7. 書きましたか

- 1 日記 2 はがき 3 手紙 4 Eメール 5 ポスター・掲示板 6 職場での書き物
7 署名 8 その他の文章 9 伝票 10 帳簿 11 家計簿 12 メモ 13 ノート
14 届、申し込みその他の書類 15 ブログ
16 万年筆で 17 ボールペンで 18 シャープペンシルで 19 鉛筆で
20 毛筆で 21 ワードプロで 22 パソコンで 23 携帯電話で

-8 携帯電話で

<話しましたか>

- 1 電話をかけた 2 電話を受けた 3 相談した 4 言い争いをした
 5 家人に注意や小言を言った 6 用事の話をした 7 知人などのうわさ話をした
 8 私的な相談・打ち合わせをした 9 公的な相談・打ち合わせをした
 10 町内会・自治会などの連絡をした 11 交渉・話し合いをした 12 質問した

<どこで話しましたか>

- 13 自分の家で話した 14 会社で話した 15 学校で話した 16 路上やその他の場所で話した

<だれと話しましたか>

- 17 家族と話した 18 先生や上役と話した 19 先輩や上級生と話した 20 友だちや同僚と話した
 21 部下や下級生と話した 22 客と話した 23 出入り業者と話した
 24 あまり心安くない人と話した 25 はじめての人と話した 26 サークル・クラブの人と話した

<話す以外に何をしましたか>

- 27 E メールを書いた 28 E メールを読んだ 29 音楽を聞いた
 30 ニュースを読んだ 31 ラジオを聞いた 32 辞書機能を利用した
 33 小説を読んだ 34 漫画を読んだ 35 テレビを見た 36 テレビの字幕を読んだ
 37 インターネットのホームページを見た 38 日記を書いた 39 家計簿をつけた
 40 メモした 41 ブログを読んだ 42 ブログを書いた
 43 その他 ()

2. あなたは、自分が正しいと思えば世間のしきたりに反しても、それをおし通すべきだ
 と思いますか。それとも世間のしきたりに従った方がまちがいないと思いますか。

- 1 おし通すべきだ 2 従った方がよい

3. 「昔やかましく言われた、親孝行とか、目上の者を尊敬する習慣が、戦後はすたれて
 きましたが、こういう日本古来の良い習慣を大いにもり立ててゆかねばならない。」こ
 ういう意見がありますが、あなたはこれに賛成ですか。それとも反対ですか。

- 1 賛成 2 反対

4. 仮に日本中どこでも好きな所に住んでいいということになったら、あなたはどこに住
 んでみたいと思いますか。

- 1 岡崎市 2 その他

県	市町村
---	-----

5. あなたはこの一年、名古屋にはどのくらい行きましたか。

- 1 ほとんど毎日行った 2 () 回ぐらい 3 ほとんど行かない

6. あなたはこの一年、愛知県外へどのくらい行きましたか。どちらへ、何度くらい行きましたか。主な用事は私的、公的のどちらですか。

場所	回数	用事
		私的・公的
		私的・公的
		私的・公的
		私的・公的
		私的・公的

7. あなたは新聞をどのくらい読みますか。また、あなたが読んでいるのは、次のうちの新聞ですか。

1 毎日読む 2 ときどき読む 3 全然読まない

1 全国紙 (朝日新聞, 読売新聞, 毎日新聞など) 2 ブロック紙 (中日新聞など)
3 地方紙 (東海愛知新聞など) 4 その他 ()

8. 他人との交際について、8-1 から 8-4 までの質問に答えてください。それぞれ下のどれかに○印をつけてください。

8-1 あなたは町内の行事や仕事の関係で、公的な会合によく出席するほうですか。

1 よく出席するほう 2 ふつう 3 出席しないほう

8-2 あなたは近所の人や勤め先の人などと宴会、旅行をいっしょにするのが好きですか。

1 好き 2 ふつう 3 きらい

8-3 あなたがひとりで長距離列車に乗っているとき、あなたは前や隣りに腰掛けている見知らない人にあなたのほうから話しかけますか。それとも黙っていますか。

1 話しかける 2 黙っている

8-4 あなたは自分が交際の広いほうだと思いますか。それとも狭いほうだと思いますか。

1 広いほう 2 ふつう 3 狭いほう

9. いま、かりに自分を現在の岡崎の中で、上流、中流、下流に分けるとすれば、あなたはどれに属すると思いますか。

1 上流 2 中流の上 3 中流の中 4 中流の下 5 下流

10. あなたは、ふだん、どんな人と多く話しますか。それぞれについて1～5のどれかを選んでください。なお、「仕事」にはアルバイトやパートも含まれます。

	よく話す	少し話す	あまり話さない	全く話さない	該当者なし
親，年の離れた兄弟など	1	2	3	4	5
配偶者，同じ年ごろの兄弟など	1	2	3	4	5
子供，年の離れた弟妹など	1	2	3	4	5
仕事の上で目上の人	1	2	3	4	5
仕事の上で同じくらいの人（同僚）	1	2	3	4	5
仕事の上で目下の人	1	2	3	4	5
仕事の上で知っているお客さん（おとくい，取引先など）	1	2	3	4	5
仕事の上でよく知らないお客さん（窓口など）	1	2	3	4	5
近所の人	1	2	3	4	5
友人	1	2	3	4	5

11. このアンケートに記入したのはいつですか。

_____月_____日（_____曜日）の朝・昼・夕方・夜

12. このアンケートを記入するのにかけた時間はどのくらいですか。

何度かに分けて記入した場合は、合計の時間を書いてください。

_____分

ご協力ありがとうございました。

このアンケート用紙は調査員がお訪ねしたときにお渡してください。なお、御礼の粗品を用意しておりますので、調査員からお受け取りください。

国立国語研究所

面接調査票

(旧「サーヴェイ調査票」)

被調査者 No.

調査員名

01. 氏名

フリガナ

生年月日

明 大 昭 平	年	月	日
---------	---	---	---

名前確認 生年月日確認

02. 【「アンケート 暮らしの中のことば」の回収後】どうもありがとうございました。これはあなたが自分で書きましたか。それとも、ほかの人に書いてもらいましたか。

1 自身

2 他人

3 調査員

4 回収できなかった

(理由

)

調査票記入確認

03. 調査期日 200____年____月____日

開始時刻 午前

____時____分

午後

先日お送りした「調査のガイドライン」でもお伝えしましたが、録音させていただきます。

電池チェック 録音開始

11月〇日、〇〇〇〇番(被調査者番号)、〇〇〇〇(姓名)さん、調査員〇〇です。

被調査者 No.	性別	生年	P/K
----------	----	----	-----

これから、〇〇さんがふだんどんなことばをお使いになっているかをお聞きしたいと思います。何も岡崎弁でなければいけないとか、標準語でなければならぬとかいうわけではありません。

いまから、いろんな場合をひとつひとつお聞きしますから、そういうとき、実際〇〇さんの話していらっしゃるとおりおっしゃってください。

では、こんな場合はどうですか。

101. わたしのような旅行で来た者が、東岡崎駅の北口で、明代橋（みょうだいばし）はどちらかということをおあなたにたずねました。何と言って教えますか。

ココオ マッサグ イッタラ スグデス

これからは、絵をお見せして、絵に書いてある人に〇〇さんが何と言って話しかけるか、それをお聞きしたいと思います。ふだん話していらっしゃるようにおっしゃってください。たとえば……………

102. あなたが振込をしなければならなかったとします。郵便局で振込用紙をもらうのに、絵 この人に、何と言って頼みますか。

スミマセンガ、フリコミヨーシ クダサイ

103. これはあなたの買いつけの店です。この店で買物をしましたが、ちょっとよそへ廻るので、この荷物をあずかっておいてもらう場合、店のこの人に、何と言って頼みますか。絵

チョット、スミマセンケド、コノニモツ アズカットイテクダサイ

104. あなたがバスに乗っていると、この人がかさを忘れて降りて行きかけました。この人は、あなたの知らない人です。何と言って、この人にかさを忘れたことを注意しますか。

絵

アナタ コノカサ ワスレマシタヨ

105. この子はあなたのお宅のお子さん<弟さん、お孫さん etc. >です。このお子さんをつれて歩いていると、この人に会いました。この人は、昔あなたが小学校で習った先生です。先生に、「この子は？」とお子さんのことを聞かれたら、何と答えますか。

絵

ワタシノ コドモデス

106. この人は新聞代の集金人です。この人が先月の料金を取りに来ました。ところが、先月の分はもう払ってあるので、受け取りを見せながら、もう一度調べるように頼むのには、何と言いますか。

絵

センゲツノ ブンワ モー オハライシテアリマスケド、
ナニカノ オマチガイデショー
モーイチド シラベテクダサイ

107. 絵 ここは東京の町角です。あなたは国会議事堂を見物しようと思っ
ていますが、道がわかりません。そこで、こういう通りがかりの人に議事堂に行く道をたずねる
場合、何と言って聞きますか。

チョット オソレイリマスガ、ギジドーワ ドーイッタラ イーデショーカ

108. 絵 あなたの家の近所の人
が急病になりました。あなたが頼まれて、近所のお医者さんの家に行くと、お医者さんが玄関へ出て
来ました。この近所のお医者さんに、すぐ来てもらうのには何と言って頼みますか。

アノー、ウチノ トナリノ オクサンガ キュービョーニ ナリマシタノデ、
センセー スグ キテイタダケマセンカ

109. 絵 この子はあなたのお宅のお子さん<妹さん、お孫さん etc.>です。このお子さんと
バスに乗っていると、この学生が席をゆずってくれようとしてしました。ところが、あ
なたはすぐ次で降りるので、断るとします。そのとき、何と言いますか。

アリガトーゴザイマスガ、ツギデ オリマスカラ ケッコードス

110. この店はあなたの買いつけの店です。この店で買いものをして、おつりをもらった
絵ら、おつりが足りません。あなたは何と言いますか。

チョット オツリガ タリマセンケド、モーイチド シラベテクダサイ

111. にわか雨が降ってきました。家の前を、少し知っているこういう人がぬれて歩いて
絵います。気の毒なので、この人にあなたの家のかさを貸すとしたら、あなたは何と言いますか。

ドーズ コノカサ モッテイッテクダサイ

112. 小学校3～4年ぐらいの見知らぬ男の子が1人で魚を釣っています。散歩の途中で
絵その子に釣れるかどうか聞くとしたら、どう言って聞きますか。

アンタ サカナ ツレルノ

113. あなたがお父さんの用事で道を歩いていたら、こういう目上の人に会いました。この人があなたにどこに行くのかをたずねました。あなたは、父親が市役所に行けと言ったので、今行くところだということを答えるとしたら、この人に何と言いますか。

絵

チチガ シヤクショニ イケト イーマシタ

114. 尊敬している先生にむかっていう時のことばについておたずねします。「この絵は先生がかいたのか」とたずねる時、ふつう何と言いますか。

コノエワ センセーガ カイタノデスカ

115. あなたが40代の中学校の先生、鈴木先生に会って「校長先生は今学校にいるか」
絵 ということを聞くとします。そんな時には「いるか」ということをどう言いますか。

116. 逆に校長先生に会って「鈴木先生は今学校にいるか」を聞くとすると「いるか」は
絵 どう言いますか。

117. では、友人に「鈴木先生は今学校にいるか」を聞くとすると「いるか」はどう言いますか。

118. この土地の目上の方が訪ねてきました。その人にむかって、非常に丁寧に「私の父はすぐ来ますから、ちょっと待ってください」と言うとき、「すぐ来ますから」のところをどう言いますか。

開始時刻
午前
 時 分
午後

では、こんどは敬語についての意見をうかがいます。

201. はじめに、これからわたしが言うことばの中に、敬語があるでしょうか。

あつたらどれが敬語かおっしゃってください。〈下線をつける〉

- 1 「あの人は駅へ行かれた」 ⁰なし ⁸DK ⁹NR
この中に敬語がありますか。
- 2 では、「一つお持ち下さい」の中には。 ⁰なし ⁸DK ⁹NR
- 3 では、「きょうはお野菜が安い」の中には。 ⁰なし ⁸DK ⁹NR
- 4 では、「ここにあります」の中には。 ⁰なし ⁸DK ⁹NR
- 5 では、「これはいただいたものだ」の中には。 ⁰なし ⁸DK ⁹NR
- 6 では、「知事のお車はもう駅を出発した」の中には。 ⁰なし ⁸DK ⁹NR

202. あなたは目上の人と話をするとき、うまく敬語が使えますか。

リスト

- ¹うまく使える ²大体うまく使える ³あまりうまく使えない ⁴うまく使えない
⁸DK ⁹NR

203. では、昔の敬語の使いかたと、今の敬語の使いかたとでは、どちらがいいと思いますか。

リスト

- ¹昔 ²昔のほうがいいものも、今のほうがいいものもある ³今のほうがいい
- ⁴昔の敬語は知らない ⁸DK ⁹NR

204. お宅では家族の方の間で、敬語を使うことがありますか、それとも家族どうしでは、敬語は使いませんか。

リスト

- ¹使う ²ときに使う ³使わない ⁸DK ⁹NR

205. 敬語を使うと、どうしても話が長くなりがちです。しかし、世の中はこれからますます忙しくなっていくと思います。そこで敬語を使うことを、だんだん少なくしていったほうがいいと思いますが、どうでしょうか。

リスト

¹へらしたほうがいい ²一概には言えない ³今のままでいい

⁴この意見はおかしい

⁸DK ⁹NR

206. 首都圏のほうでは、何にでもオをつけるようです。たとえば、人参のことをオ人参、眼鏡のことをオ眼鏡と言っています。岡崎でもこのようにオをつけるほうがいいでしょうか。それともこのようにオをつけるのはよくないでしょうか。

リスト

¹つけたほうがいい ²ものによる ³つけないほうがいい ⁴どちらでもいい

⁸DK ⁹NR

207. 家の中でも、年長の人や目上の人には敬語を使わなければならないでしょうか。それとも家の中では使わなくてもいいでしょうか。

リスト

¹使うべきだ ²時や場合や相手による ³使わなくてもいい ⁸DK ⁹NR

208. 敬語を使って話すと、上品に聞こえますし、また、話し相手によっては敬語を使うのがあたりまえです。そこで、だれもが敬語をさかんに使ったほうがいいと思いますが、どうでしょうか。

リスト

¹さかんに使ったほうがいい ²一概に言えない ³今のままでいい

⁴この意見はおかしい

⁸DK ⁹NR

209. 日本語では、場合によって、自分のことを、「わたくし」とか「わたし」「ぼく」などと言います。また相手の人のことは「あなた」「あんた」「君」などと使いわけます。しかし、英語ではどんな場合でも自分は I、相手の人のことは you と言えいいそうです。あなたは日本語も場合や相手によって使いわけないですむほうがいいと思いますか。それとも、場合や相手によって使いわけたほうがいいと思いますか。

リスト

¹使いわけたほうがいい ²使いわけないほうがいい ³どちらでもいい

⁸DK ⁹NR

最後に、あなた自身のことについてお尋ねします。ことばとの関連でお尋ねするのですが、差し支えない範囲でお答えください。

301. お生まれの場所は、どちらですか。

- 1 岡崎市
- 2 岡崎市以外

県	市
	町村

302. そこにお生まれになってから、住まいの場所を変えたことはありませんか。

- 1 ずっとここ
- 2 変えたことがある



-1. いくつの時から、いくつの時まで、その場所に住みましたか。
(1年以下の場合は記入せず)

何歳から何歳まで	場所	備考

303. お父さんとお母さんはどこの御出身ですか。

- 父
- 1 岡崎市
 - 2 岡崎市以外

県	市
	町村

- 3 DK
- 4 NR

- 母
- 1 岡崎市
 - 2 岡崎市以外

県	市
	町村

- 3 DK
- 4 NR

304. それでは御主人／奥さんはどこの御出身ですか。

1 岡崎市

2 岡崎市以外

県	市郡
---	----

3 なし 4 DK 5 NR

305. 一番最後の学校はどこですか。
その学校は卒業，中途退学，在学中のどれですか。

1 小 2 旧高小・新中

3 旧中・新高 4 旧高専・大学

5 わからない

6 その他()

1 卒業 2 中途退学 3 在学中

306. あなたは役員をしたことがありますか。
<町内役員・お宮やお寺の総代・P.T.A.委員・婦人会役員・民生委員・公安委員・労働組合の役員・生徒会の役員など>

役名 1 はい 2 いいえ

1 ()

2 ()

3 ()

307. お仕事についてお尋ねします。

-1. お仕事をなさっていますか。

1 はい

2 いいえ

-2., -3.へ

-4.へ

-2. あなたの仕事の内容を具体的に教えてください。

【仕事の内容】

-3. 事業の種類をこの中から選んでください。

リスト

- 1 農業 2 林業 3 漁業
- 4 鉱業 5 建設 6 製造
- 7 電気・ガス・熱供給・水道業
- 8 情報通信 9 運輸
- 10 卸売・小売業 11 金融保険
- 12 不動産 13 飲食店・宿泊
- 14 医療・福祉 15 教育・学習支援
- 16 サービス 17 公務

-4. では、次のうちどれになりますか。

- 1 学生 2 主婦 3 無職

308. ご家族はどなたがいますか。

リスト

現在あなたと同居している人を教えてください。

- 1 父親 2 母親 3 配偶者
- 4 子 5 子の配偶者
- 6 配偶者の父母 7 孫
- 8 祖父母 9 兄弟姉妹
- 10 他の親族 11 住み込みの雇人
- 12 その他

309. 【パネル調査のみ】35年前、55年前の調査を覚えていますか。

- 35年前：1 覚えている 2 覚えていない
- 55年前：1 覚えている 2 覚えていない

終了時間

午前

時 分

午後

所要時間＝ _____ 分

調査員記入項目

401. 全体を見て

- 1 調査に対して

協					非協
5	4	3	2		1

- 2 反応までの時間 ¹長いほう ²普通 ³短いほう- 3 反応語数 ¹多いほう ²普通 ³少ないほう- 4 言いよどみ, ¹多いほう ²普通 ³少ないほう
言いなおし- 5 質問に対する問 ¹多いほう ²普通 ³少ないほう
いかえし

402. 敬語の度合

敬					非敬
5	4	3	2		1

403. 共通語の度合

共					方
5	4	3	2		1

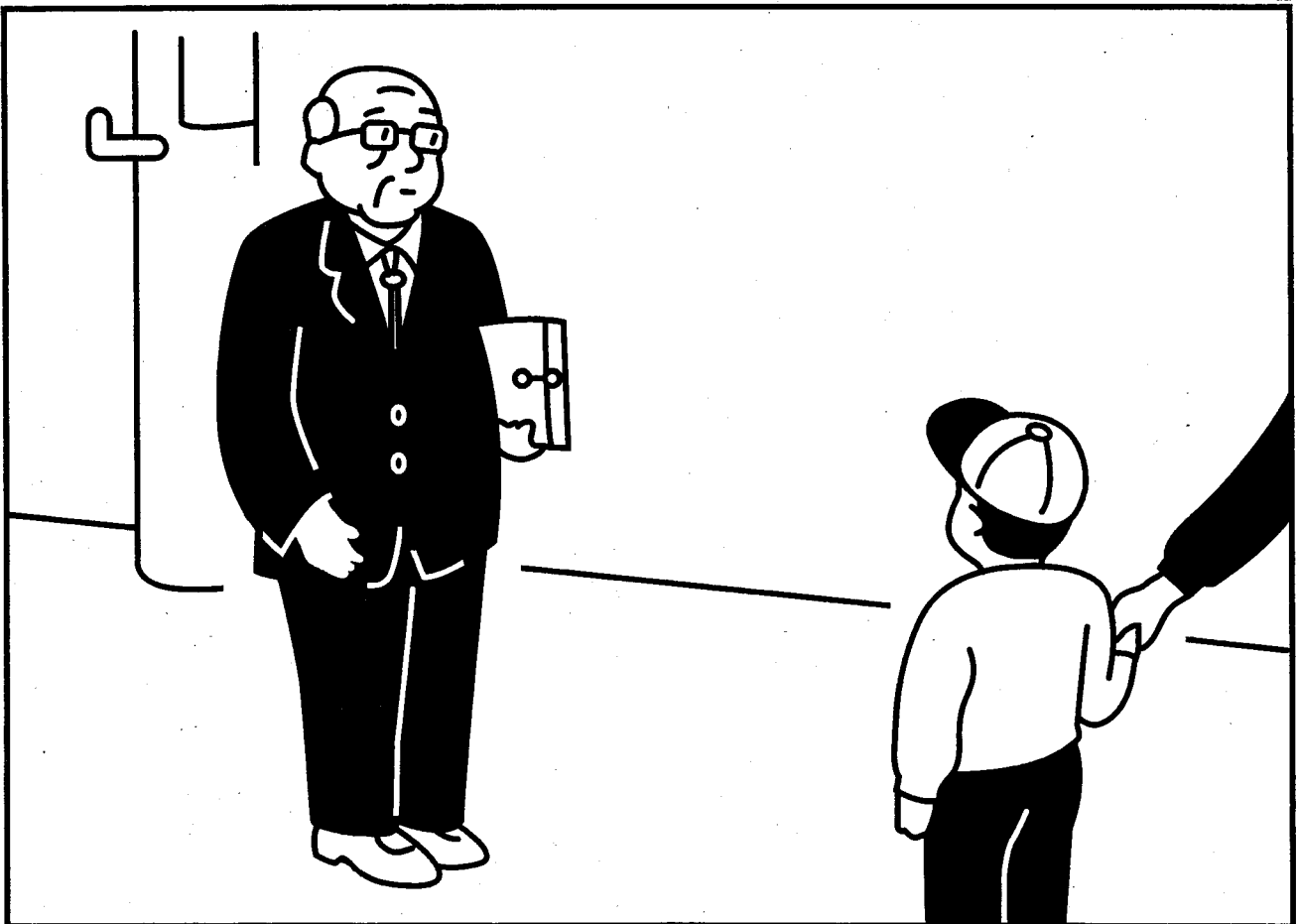
404. その他

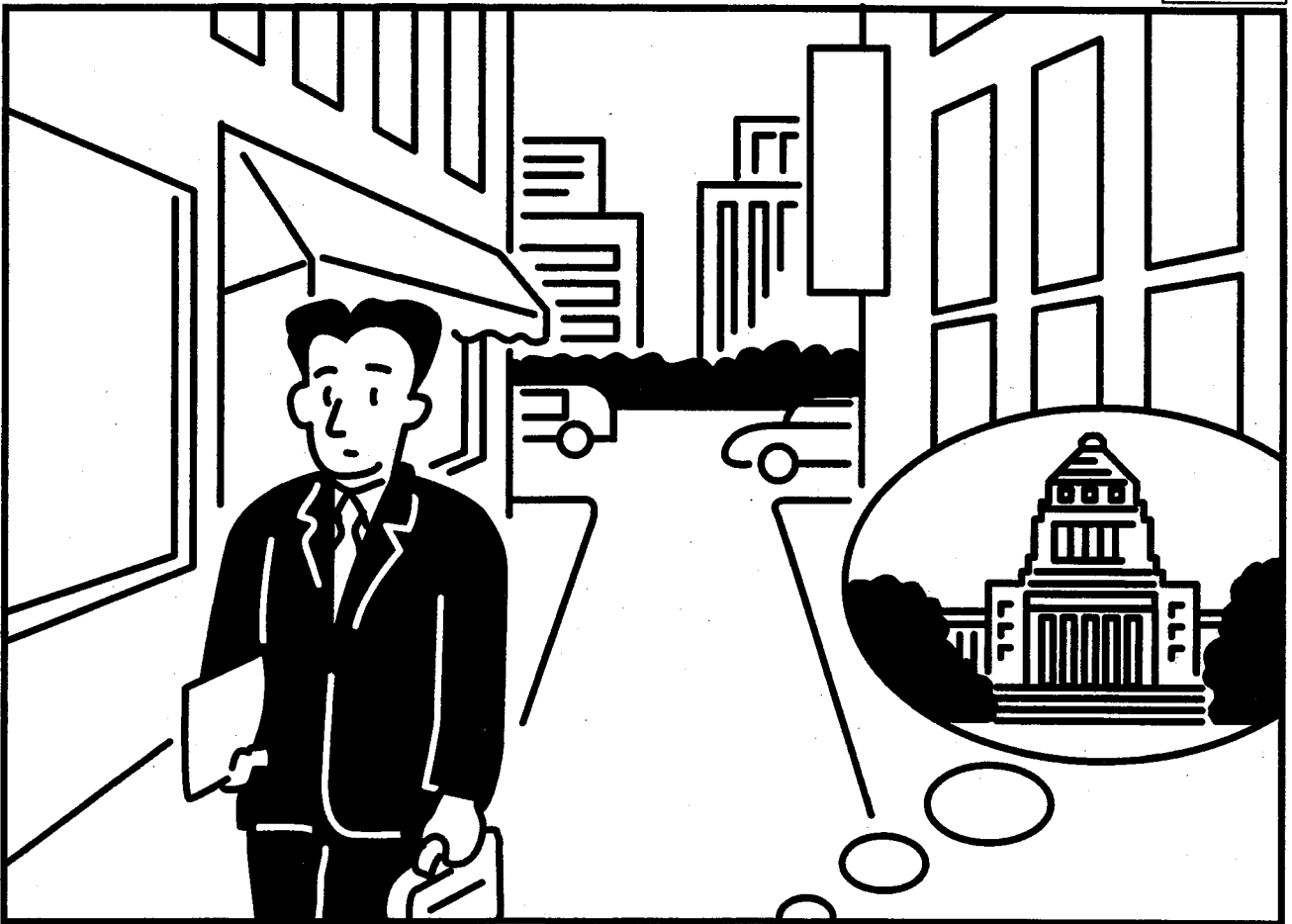
- 1 調査した場所 ¹自宅 ²勤務先 ³ ()- 2 " ¹部屋の中 ²玄関先 ³店先- 3 同席者 ¹本人のみ ²配偶者 ³ ()

- 4 録音状況 ()

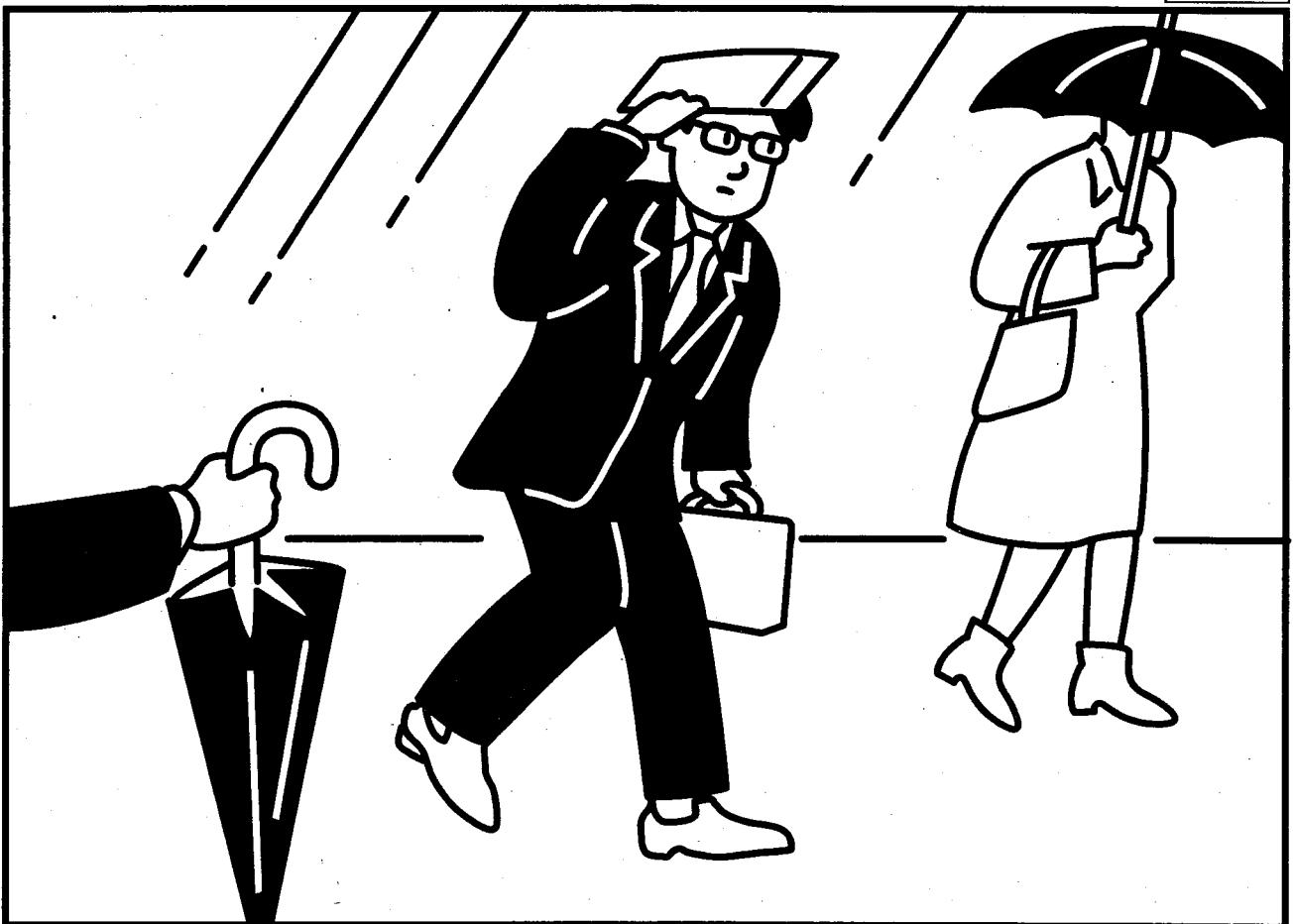
405. その他気づいた点 ()

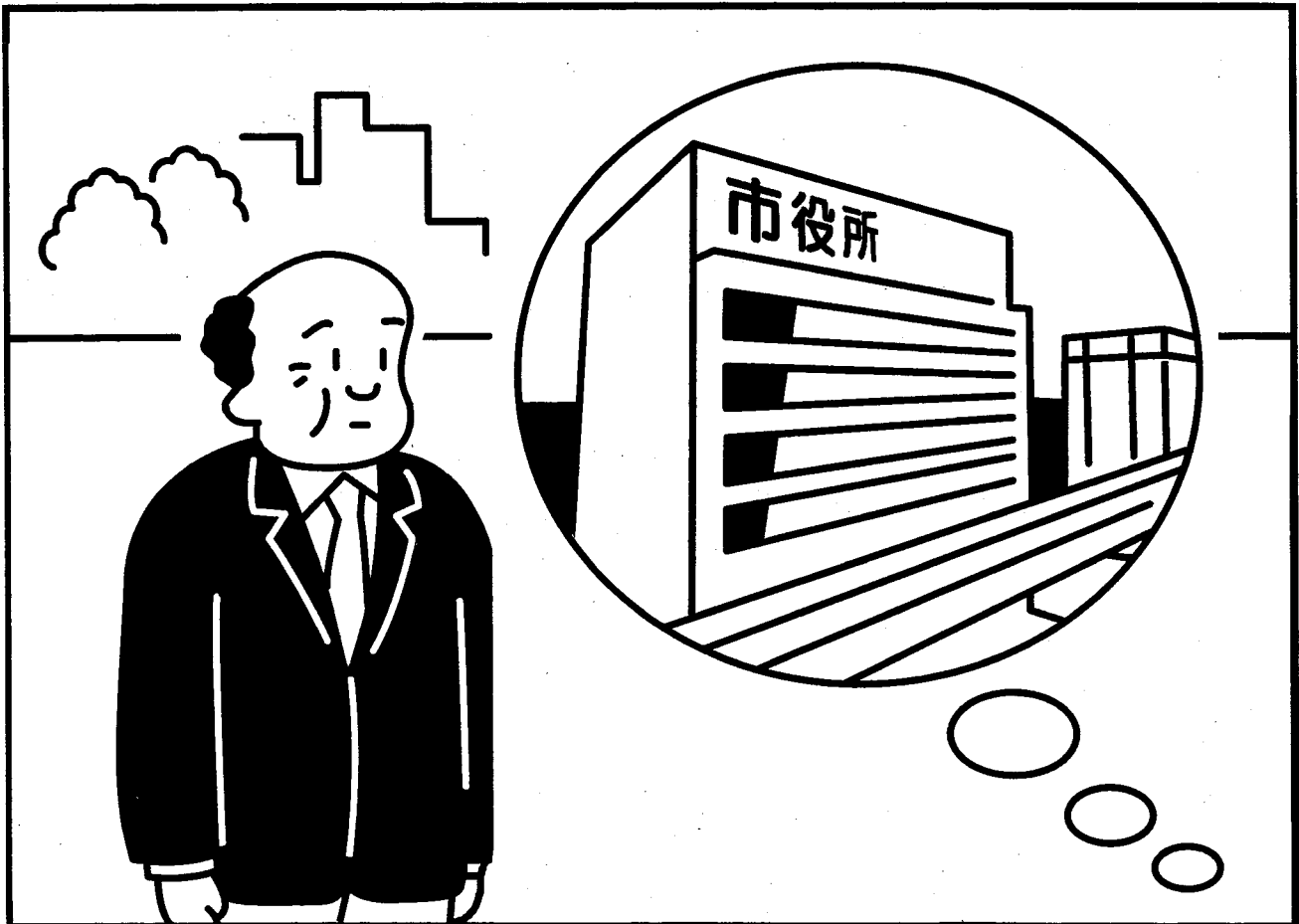
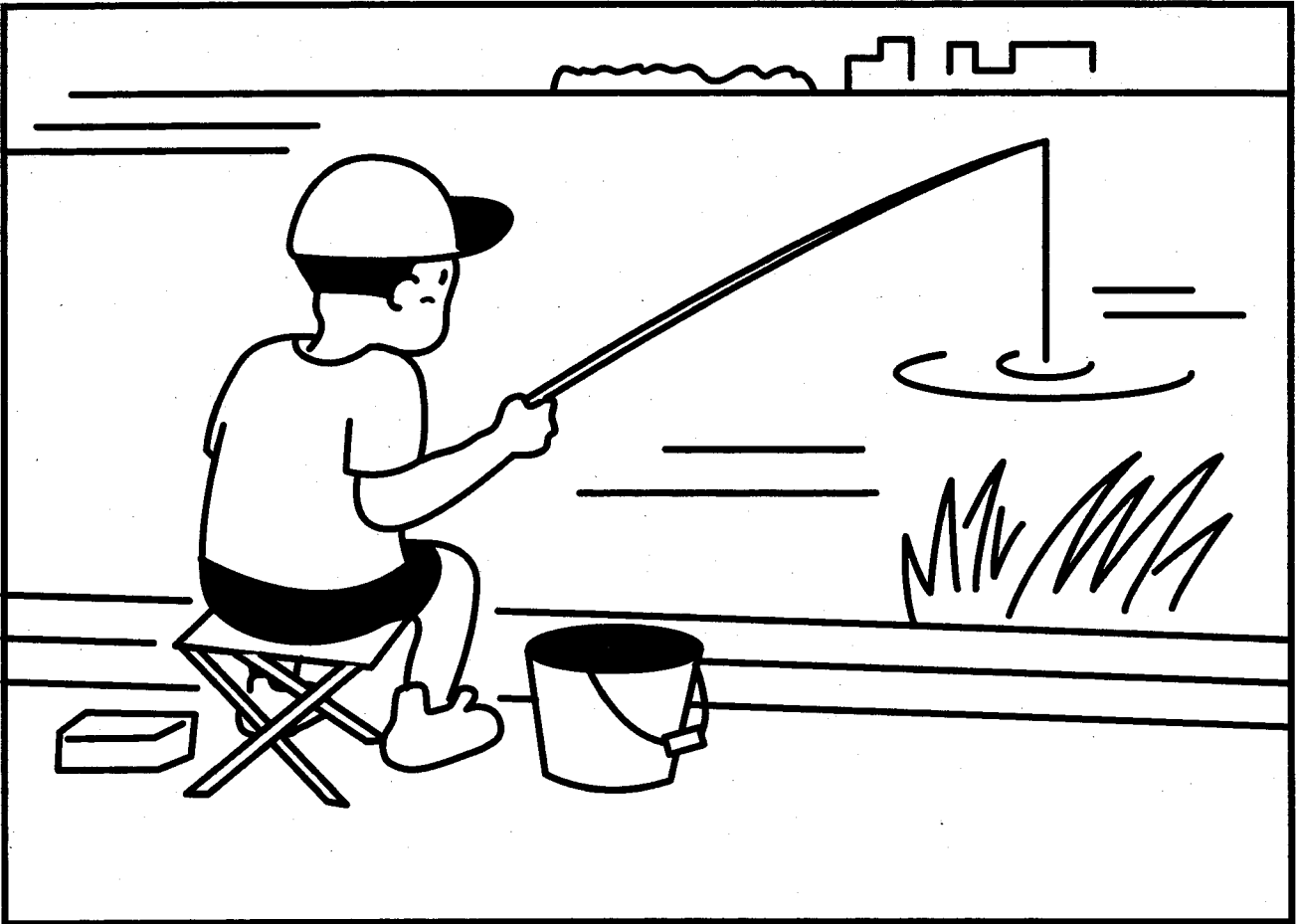


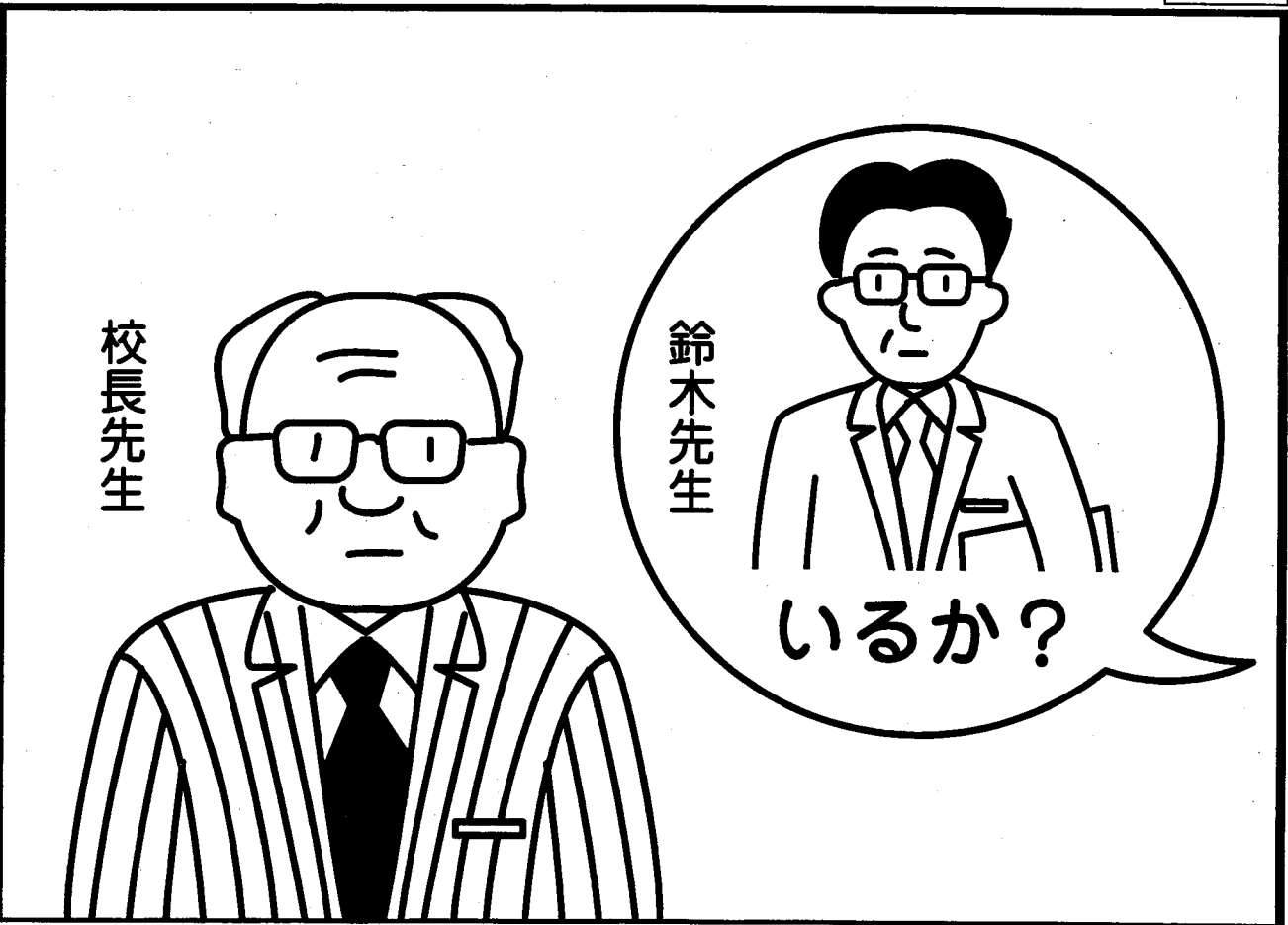












- 1 うまく使える
- 2 大体うまく使える
- 3 あまりうまく使えない
- 4 うまく使えない

- 1 昔
- 2 昔のほうがいいものも、
今のほうがいいものもある
- 3 今のほうがいい
- 4 昔の敬語は知らない

- 1 使う
- 2 ときに使う
- 3 使わない

- 1 へらしたほうがいい
- 2 一概には言えない
- 3 今のままでいい
- 4 この意見はおかしい

- 1 つけたほうがいい
- 2 ものによる
- 3 つけないほうがいい
- 4 どちらでもいい

- 1 使うべきだ
- 2 時や場合や相手による
- 3 使わなくていい

- 1 さかんに使ったほうがいい
- 2 一概に言えない
- 3 今のままでいい
- 4 この意見はおかしい

- 1 使いわけたほうがいい
- 2 使いわけないほうがいい
- 3 どちらでもいい

- | | |
|---------------------|------------|
| 1 農業 | 9 運輸 |
| 2 林業 | 10 卸売・小売業 |
| 3 漁業 | 11 金融保険 |
| 4 鉱業 | 12 不動産 |
| 5 建設 | 13 飲食店・宿泊 |
| 6 製造 | 14 医療・福祉 |
| 7 電気・ガス・
熱供給・水道業 | 15 教育・学習支援 |
| 8 情報通信 | 16 サービス |
| | 17 公務 |

- | | |
|----------|------------|
| 1 父親 | 10 他の親族 |
| 2 母親 | 11 住み込みの雇人 |
| 3 配偶者 | 12 その他 |
| 4 子 | |
| 5 子の配偶者 | |
| 6 配偶者の父母 | |
| 7 孫 | |
| 8 祖父母 | |
| 9 兄弟姉妹 | |

[取り扱い注意]

08岡崎調査

調査員記録簿

No. 0025

ランダム

氏名:		男	Tel.
住所:			

訪問状況

日	曜日	時刻	接触の相手	調査員	備考
1		前・後 時 分	本人・家族・他 () / 不在		
2		前・後 時 分	本人・家族・他 () / 不在		
3		前・後 時 分	本人・家族・他 () / 不在		
4		前・後 時 分	本人・家族・他 () / 不在		
5		前・後 時 分	本人・家族・他 () / 不在		
6		前・後 時 分	本人・家族・他 () / 不在		

居住形態 1 一戸建て 2 集合住宅 3その他()

調査票回収状況

A. アンケート イ 回収(月 日)

ロ 回収予定日(月 日)

ハ 回収不能

理由(拒否, その他) 具体的に _____

B. 面接調査票 イ 回収(月 日)

ロ 調査不能と決定した日(月 日)

▶ 転出・転居 → 転出先 _____

▶ 長期不在・期間中一度も接触できず・病気・障害・難聴

▶ 拒否, その他

→具体的に _____

調査本部記入欄

アンケート	面接			
提出日	調査終了	録データ	貸出日	返却日

◆ 調査完了・差し替え(→被調査者No. _____ と差し替え)

[取り扱い注意]

08岡崎調査

調査員記録簿

No. 0901

パネル

過去の調査員	氏名：		女	Tel.
	住所：			

訪問状況

日	曜日	時刻	接触の相手	調査員	備考
1		前・後 時 分	本人・家族・他() / 不在		
2		前・後 時 分	本人・家族・他() / 不在		
3		前・後 時 分	本人・家族・他() / 不在		
4		前・後 時 分	本人・家族・他() / 不在		
5		前・後 時 分	本人・家族・他() / 不在		
6		前・後 時 分	本人・家族・他() / 不在		

居住形態 1 一戸建て 2 集合住宅 3 その他()

調査票回収状況

A. アンケート イ 回収(月 日)

ロ 回収予定日(月 日)

ハ 回収不能

理由(拒否, その他) 具体的に _____

B. 面接調査票 イ 回収(月 日)

ロ 調査不能と決定した日(月 日)

▶ 転出・転居 → 転出先 _____

▶ 長期不在・期間中一度も接触できず・病気・障害・難聴

▶ 拒否, その他

→具体的に _____

調査本部記入欄

アンケート	面接			
提出日	調査終了	録データ	貸出日	返却日

◆ 調査完了・差し替え(→被調査者No. と差し替え)

敬語と敬語意識の半世紀

—— 愛知県岡崎市における第三次調査 ——

科学研究費補助金 基盤研究 (A)

(代表者：杉戸 清樹)

調査マニュアル

平成 20 年 11 月 12 日 (水) ～25 日 (火)

調査本部：岡崎サンホテル

〒444-0038 愛知県岡崎市伝馬通 2 丁目 22 番地

TEL (ホテル・代表) 0564-65-6000

TEL (本部・1006 号室) 内線 1006

080-6922-8020

独立行政法人国立国語研究所

目 次

1. 調査の目的.....	3
2. 調査員.....	3
3. 第三次調査の概要.....	4
3.1. 調査票の種類.....	4
3.2. 現地における調査の流れ.....	5
3.3. 調査実施上の注意事項.....	7
3.4. インフォーマントとの接触・交渉.....	7
3.5. 『アンケート』票の回収.....	8
3.6. 面接調査の実施について.....	9
3.7. 『調査員記録簿』の取り扱い.....	10
3.8. 調査本部との連絡.....	11
4. 『面接調査票』の説明, および記入上の注意.....	11
5. 録音機材について.....	14
5.1. メインレコーダ.....	14
5.2. サブレコーダ.....	15
6. その他.....	16
関連資料.....	17
調査員滞在日程表.....	18
調査地域一覧(五十音順).....	19
反応文の表記規則.....	20
調査地区と担当調査員.....	21

1. 調査の目的

本研究は、敬語と敬語意識について、昭和 28 年 (1953) と昭和 47 年 (1972) に文部省科学研究費補助金を受けて愛知県岡崎市で 2 度実施された、国立国語研究所による調査の 3 回目の経年調査を企画・実施するものである。人口動態の活発化にともなう地域社会の変容と言葉との関係、特に、敬語使用基準の変化や多様化の把握は、第一次調査からの研究課題である。これまでの調査から、社会の変化によって敬語の使い分けの幅が広がったり、敬語意識に変化が生じたりしていることが示されている。

第二次調査以降の日本社会も大きく変化している。現在における敬語と敬語意識の姿を明らかにし、第一次調査が行われてから半世紀の間における敬語使用と敬語意識の変遷を解明するためには、これまでの調査を踏まえた経年調査を行うことが不可欠である。なお、敬語と敬語意識について同一地点で継続して大規模な調査研究を行うという点では、国内外の研究においても他に事例はない。

さらに、敬語と敬語意識は、日本語の社会言語学的な状況を記述する上で、絶えず目配りをする必要のある言語事象である。その意味でも、敬語の将来像を占う可能性を持つ本経年調査を継続する必要性は高い。このような問題意識から調査を企画・実施することが本研究の目的である。〔平成 19 年度交付申請書より抜粋〕

2. 調査員

- 水野 義道 (京都工芸繊維大学)
- 片岡 邦好 (愛知大学)
- 松田謙次郎 (神戸松蔭女子学院大学)
- 村上 敬一 (神戸松蔭女子学院大学)
- 西尾 純二 (大阪府立大学)
- 辻 加代子 (神戸学院大学)
- 松丸 真大 (滋賀大学)
- 久木田 恵 (愛知教育大学)
- 杉戸 清樹 (国語研・所長)
- 吉岡 泰夫 (国語研・研究開発部門)
- 米田 正人 (国語研・情報資料部門)
- 熊谷 康雄 (国語研・情報資料部門)
- 横山 詔一 (国語研・研究開発部門)
- 尾崎 喜光 (国語研・研究開発部門)
- 大西拓一郎 (国語研・研究開発部門)
- 井上 文子 (国語研・情報資料部門)
- 高田 智和 (国語研・研究開発部門)

鎌水 兼貴 (国語研・研究開発部門)
 白岩 広行 (大阪大学大学院)
 平塚 雄亮 (大阪大学大学院)
 竹村亜紀子 (神戸大学大学院)
 新井 文人 (神戸松蔭女子学院大学大学院)
 折田 奈甫 (神戸松蔭女子学院大学大学院)
 中野 陽 (大阪府立大学大学院)
 松本 直樹 (大阪府立大学大学院)

現地本部 朝日 祥之 (国語研・研究開発部門) 調査員兼任
 齋藤 達哉 (国語研・研究開発部門) 調査員兼任
 阿部 貴人 (国語研・研究開発部門) 調査員兼任
 塚田実知代 (国語研・情報資料部門)
 米田 純子 (国語研・研究開発部門)
 東京本部 磯部よし子 (国語研・情報資料部門)
 中澤 香映 (国語研・研究開発部門)

なお、江川清 (広島国際大学)、井上史雄 (明海大学)、真田信治 (大阪大学)、吉野諒三 (統計数理研究所)、松本渉 (統計数理研究所)、熊谷智子 (国語研・研究開発部門) は、都合により今回の調査には不参加。

3. 第三次調査の概要

調査対象

- (1) 前回、前々回のインフォーマント 148名
(以下ではパネルサンプルと呼ぶ)
- (2) 岡崎市旧市内在住の15~79歳(平成20年10月末現在)の市民を母集団として、住民基本台帳をもとに等間隔抽出法で選んだインフォーマント 800名(以下ではランダムサンプルと呼ぶ)

3.1. 調査票の種類

(1) 【アンケート】

郵送留置法による調査。『アンケート 暮らしの中のことば』(以下、「アンケート」と称す。A4判4ページ)の調査票に、インフォーマント自身に記入してもらう。

(2) 【面接調査票】(旧「サーヴェイ調査票」)

個別面接による調査。調査員がインフォーマントに『面接調査票』(A4判13ページ)に沿って質問し調査する。また、一部の質問については、刺激図や選択肢のリストを

まとめた『選択肢リスト』(A5判ファイル)を使用する。原則として全項目を調査する。

録音機材として2台のICレコーダを同時に使用して調査を記録する(使用方法については§5. 参照)。

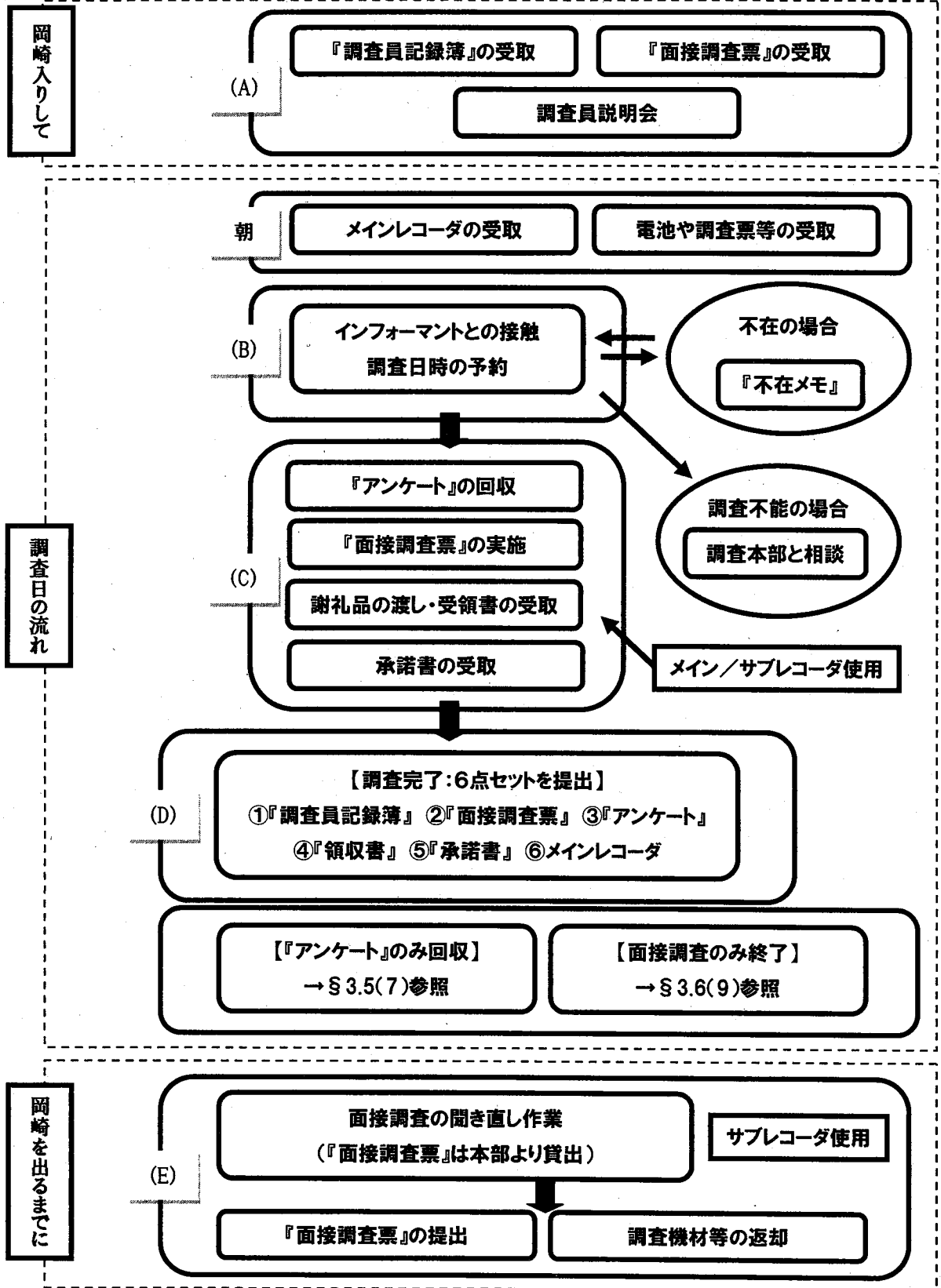
- ❖ 保存用のデータを録音するための機材(以下、メインレコーダと称す)
 - メディア(SDカード)に録音する。その日の調査が終了するごとに、メインレコーダを調査本部に提出する。
- ❖ 聞き直しのための機材(以下、サブレコーダと称す)
 - 機材内蔵のメモリに記憶する。調査後、調査票整理のための聞き直しに利用する。

3.2. 現地における調査の流れ

現地での流れについて概略を記す。詳細については、§3.3.~3.8を参照のこと。次頁に、現地での流れを表す概略図も示す。下記の(A)~(E)は図のそれと対応する。

- (A) 『調査台帳』により、調査員へインフォーマントの割り振りを行う。調査地区(本マニュアル「関連資料」の「調査地区と担当調査員」参照)毎に、『調査員記録簿』を配布する。
- (B) 各調査員がインフォーマントに接触し、面接調査の依頼、都合の問い合わせを行う。
- (C) インフォーマント宅、または指定された場所を訪問し、以下のことを行う。
 - ① 『アンケート』を回収する。
 - ② 録音を開始し、面接調査を行う。
 - ③ 調査終了後、謝礼の図書カードを手渡し、『受領書』に住所・氏名を記入してもらう。
 - ④ 事前に郵送してある『調査のガイドライン』の控えを示しながら、データ使用について説明し、データの『承諾書』にも住所・氏名を記入してもらう。
- (D) インフォーマントごとに、『調査員記録簿』を調査本部へ提出する。同時に、『アンケート』とメインレコーダも提出する。
- (E) 面接調査票の内容の点検を済ませ、調査票を調査本部へ提出する。また、調査機材等も本部へ返却する。

現地での流れ (概略)



3.3. 調査実施上の注意事項

- (1) ランダムサンプル、パネルサンプルとも、代理の人の回答では意味をなさない。インフォーマントにはその旨を理解してもらい、必ず本人から情報を得るよう努力すること。
本人かどうかの確認は、氏名、住所、性、生年月日等で行えるはずであるが、同姓同名の別人や家族などを調査しないよう充分注意をすること。
- (2) 『調査員記録簿』に誤りを見つけた場合、確実に調査本部に連絡すること。
- (3) インフォーマントとの接触や交渉、調査にあたっては、調査本部配布の調査員証を携帯すること。

3.4. インフォーマントとの接触・交渉

- (1) 各インフォーマントには、岡崎市長および国立国語研究所長から調査協力依頼（「ことばの調査のお願い」）、データ使用に関する『調査のガイドライン』が郵送されている（11月7日（金）発送）。
- (2) 市の広報に調査協力依頼の記事が掲載された（10月15日号）。対象地域に調査協力依頼の回覧板も回っている。
その他、東海愛知新聞（10月12日）、中日新聞（10月18日）でも取り上げられている（クリアファイルのコピーを参照のこと）。
また、岡崎調査のホームページも2008年4月1日に開設されている（「ことばの調査のお願い」には、岡崎調査HPのURLも掲示している）。
- (3) 以上のことを踏まえたうえで、インフォーマントに対して調査への協力を依頼する。
インフォーマントが記事やホームページを見ていない可能性も充分にある。
- (4) インフォーマントへの第一接触は電話によらない方がよい。電話の使用は、何回かの訪問の後、インフォーマントが電話番号を教えてくれた場合のみとする。調査員用の携帯電話を用意する。携帯電話は、各自充電しておくこと。
- (5) 調査実施期間の早いうちに、できるだけ多くのインフォーマントへの第一接触を済ませ、面接日時の予約をとりつけたほうがよい。その際、別の者が調査員として訪問する可能性があることも伝える。
第一接触を遅らせることは、依頼状に調査期間が明記されているので、インフォーマントに「もう来ないのか」といった、無用のイライラを与えかねず、調査にとってマイナスである。
- (6) インフォーマントや家人が不在で会えない場合は、時間帯や曜日を変えて、粘り強く訪問を重ねること。この際、『不在メモ』を適宜利用すること。
- (7) 調査に対して拒否的・批判的な人など、調査が困難なインフォーマントについては、最終的に拒否される前に調査本部に連絡すること。時間の経過や調査員が交替するだ

けで態度を変えてくれる場合があるので、話がこじれるまで深追いしないこと。

- (8) インフォーマントには、突然一方的なお願いをして協力を仰いでいるのだから、終始丁寧な態度でのぞむことを肝に銘じ、感情的な対応は極力慎むべきである。万一、後にしこりを残すような事態になった場合は、調査本部にできるだけ早く、気軽にその旨を伝えてほしい。いっしょに、善後策を講じよう。
- (9) 調査員に対して背広・ネクタイの着用は強制しないが、節度のある身なりを心掛けること。インフォーマントへは、はっきりとした明るい声で、にこやかに接すること。

3.5. 『アンケート』票の回収

予め『アンケート』が郵送されている。これを、面接調査の開始に先立って回収する。その際、以下の点に注意する。

- (1) 事前に送ってある『アンケート』には、インフォーマント番号が印刷されている。『面接調査票』に記入したインフォーマント番号との照合を行うこと（1ページ右上，四角欄）。
- (2) インフォーマントが『アンケート』を紛失した等の理由で、予備の『アンケート』を渡すときには、『アンケート』にインフォーマント番号を記入して渡すこと（1ページ右上，四角欄）。
- (3) 記入漏れがないかどうか確かめる（『面接調査票』にチェック欄あり）。
記入漏れを発見した場合は、その場で記入してもらう。調査員が読み上げて質問し、記入してもよい。
- (4) 『アンケート』への記入が済んでいない場合は、後日回収に来る旨を伝え、それまでに記入しておいてもらう。回収日時の約束、方法をしっかりと確認すること。調査員記録簿の回収予定日への記入も忘れずに。インフォーマントが郵送を希望した場合には、返信用の封筒を渡すこと。もし可能と判断される場合には、その場で記入してもらってもよい。
- (5) できるだけ避けたいことであるが、『アンケート』への回答だけをしてきて、面接調査には応じてもらえないようなケースも考えられる。そのような場合でも確認事項のチェックし、お礼の図書カードを渡し、『受領書』に住所、氏名を記入してもらう。
- (6) また、『アンケート』への回答だけをしてきて、面接調査には応じてもらえないようなケースでも、『承諾書』に氏名、住所を記入してもらうこと。

3.6. 面接調査の実施について

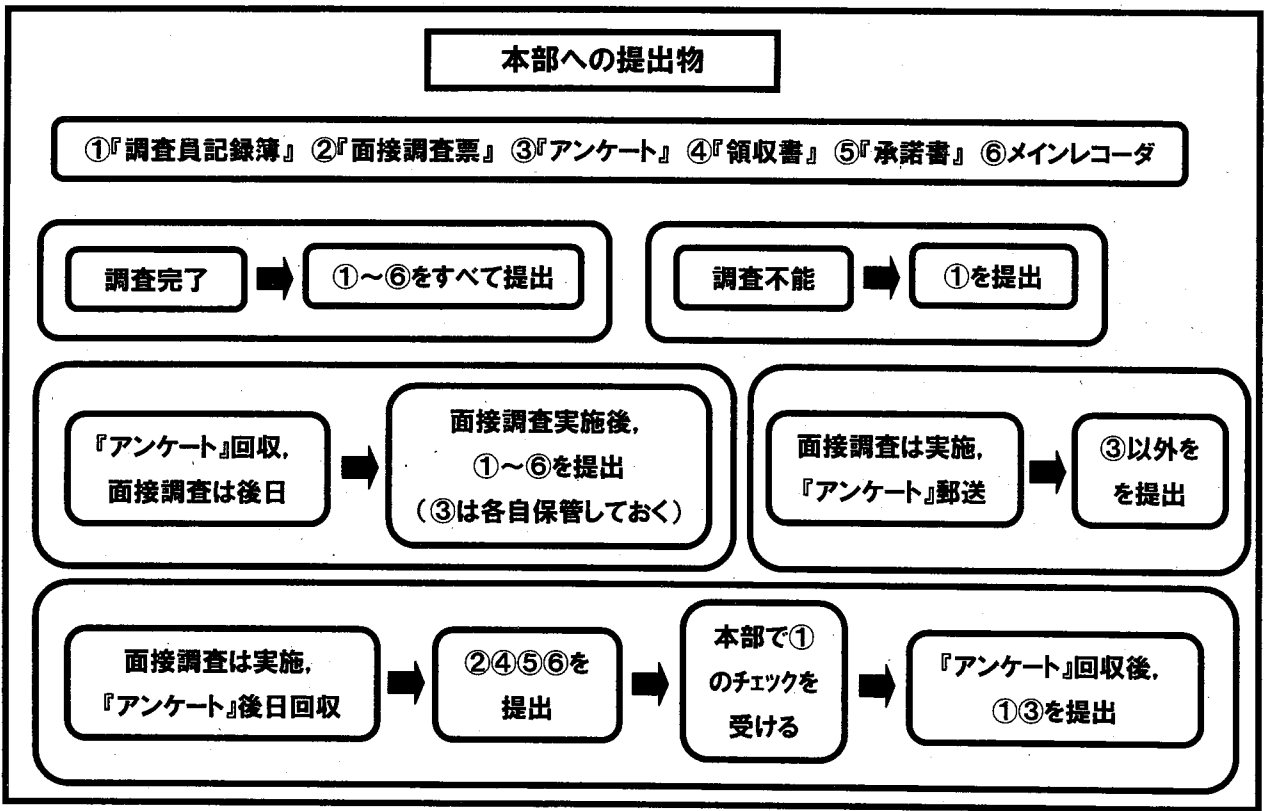
- (1) 面接調査には実質 30 分かかかる見込みである（調査への協力依頼文の中には 30 分程度と書いてある）。予定時間を過ぎたら相手の都合を確認し、できるだけ調査を続行する。
- (2) 調査に際しては、必ず調査員証を首から下げる。また、携帯電話の電源は切ること。
- (3) 録音を撮る旨、あらかじめ断る。ただし、インフォーマントに無用な緊張を与えないよう配慮すること。録音については以下のことに注意すること。
 - ① 録音は調査の開始時点（『面接調査票』1 ページ、「録音開始」のチェックの後）から取り始め、調査終了（質問番号 300 番台の終わり）まで取り続ける。
 - ② 調査済みのメインレコーダは、その日の調査が終了次第、本部へすみやかに提出する。万一、メインレコーダの調子が悪く、録音できなかった場合は、サブレコーダを調査本部に提出すること。
- (4) 面接調査の各設問については、§ 4.『面接調査票の説明、および記入上の注意』を参照されたい。
- (5) 調査が終了したら、持参した図書カードを手渡す。また、必ず『受領書』に住所・氏名を書いてもらうこと。『アンケート』だけ、あるいは『面接調査票』だけにしか応じてもらえなかったインフォーマントにも同様にする。
- (6) 持参した『調査のガイドライン』を示しながら、謝礼品の『受領書』と一緒に必ず『承諾書』にも住所・氏名を書いてもらうこと。インフォーマントが『調査のガイドライン』を紛失することもある。その場合は、予備で持参した『調査のガイドライン』を渡すこと。
- (7) インフォーマントには後日、国立国語研究所長の名で、お礼の葉書を郵送する予定である。
- (8) 調査に際し、次の持ち物を事前にチェックしておくこと（18 品）。A4 サイズのクリアファイルと、クリアケースを配布する。紙資料はクリアファイル、機材等はクリアケースに入れてある。調査に際しては、クリアファイルとクリアケースを必ず携帯すること。

- | | | | |
|-----|------------------------------------|---|-------------------------------------|
| 接触： | <input type="checkbox"/> 調査員記録簿 | <input type="checkbox"/> 調査員証 | <input type="checkbox"/> 調査員用携帯電話 |
| | <input type="checkbox"/> 不在メモ | | |
| 調査： | <input type="checkbox"/> 面接調査票 | <input type="checkbox"/> 選択肢リスト | <input type="checkbox"/> ICレコーダ（2台） |
| | <input type="checkbox"/> クリップボード | <input type="checkbox"/> 筆記用具（鉛筆・ボールペン） | |
| | <input type="checkbox"/> イヤホン | <input type="checkbox"/> 謝礼の図書カード | <input type="checkbox"/> 受領書 |
| | <input type="checkbox"/> 調査のガイドライン | <input type="checkbox"/> 承諾書 | |
| 予備： | <input type="checkbox"/> 予備の電池 | <input type="checkbox"/> 返信用封筒 | <input type="checkbox"/> アンケートの予備 |
| | <input type="checkbox"/> 調査マニュアル | | |

- (9) 面接調査は実施できたが、『アンケート』は後日回収することになった場合でも、調査本部に『調査員記録簿』を一時的に提出し、チェックを受けること。

3.7. 『調査員記録簿』の取り扱い

- (1) 『調査員記録簿』は、一人一人のインフォーマントへの調査の進行状況を調査員が記録し、その提出によって調査本部が調査全体の進行状況を把握するためのもので、非常に大切なものである。また、個人情報も記載されている。この取り扱いには細心の注意を払うこと。汚損、紛失の場合は、速やかに本部へ。
- (2) 『調査員記録簿』は、一人のインフォーマントに一枚用意されている。
 緑色の『調査員記録簿』は、ランダムサンプル用、
 黄色の『調査員記録簿』は、パネルサンプル用である。
- (3) インフォーマントの電話番号欄は、接触・交渉の過程で教えてもらった場合に記入することを考えて設けてある。すべてのインフォーマントに尋ねる必要はない。
- (4) 当該のインフォーマントについて、記入漏れがないかどうかチェックした後、調査本部に提出する。原則として、一日の調査が終わったら、その日の完了分を提出すること。
 『アンケート』、『面接調査票』はしかるべき整理を済ませてから本部へ提出すればよい。ただし、『アンケート』、『面接調査票』を整理や聞き直しのために岡崎市外（自宅や大学）へ持ち出すことは厳禁とする。岡崎を離れる前に本部へ提出すること。



3.8. 調査本部との連絡

- (1) 調査本部を岡崎サンホテルの10階1006号室に置く。調査期間内は国立国語研究所の朝日、齋藤、阿部、塚田、米田（純）が交代で本部に詰め、調査全体の運営、および諸々の連絡にあたる。調査本部（1006号室）は、基本的に午前8時～午後10時まで開けている。
- (2) 調査員は、宿舎を出るとき、戻ったとき、必ず本部に連絡すること。インフォーマントからの連絡、調査員間の連絡など、本部を通じて行うことが多いので、小まめに本部に出入りしてほしい。
- (3) 調査の予約が重なったとき、調査を拒否されそうなどとき、その他調査全般にわたる悩み事、分からない点、気がついた点など、遠慮しないでどんどん本部に申しでるようにしてほしい。

4. 『面接調査票』の説明、および記入上の注意

面接調査は、質問に対するインフォーマントの反応をそのまま記録することに主眼を置く。このような方針をとるのは、次の二点のためである。

- (1) 過去2回の調査と同様に、刺激-反応型の調査方法を踏襲するため
 - ⇒ 質問意図から多少外れる反応であっても、それを「回答」とする。例えば、101「道聞き」で「明代橋は知らない」という反応があったら、それが回答である。あるいは、明代橋ではなく殿橋への道順を答えたとしても、言い直してもらう必要はない。質問意図にあった反応が出るまで深追いしない。
- (2) 調査者が異なることによる調査結果の異なりを小さくするため
 - ⇒ インフォーマントから出た質問に対して、それぞれの調査員が異なった情報を与え、それが調査結果に影響することを避けたい。調査票に記載のないことについての判断は、基本的にインフォーマントに委ねる。

この二点を面接調査実施にあたっての大原則とする。ただし、いくつかの想定問答については予め設定するものもある（下記の注意書き参照）。本マニュアルに記載のない質問がインフォーマントから出た場合は、上記の大原則にしたがって対処すること。なお、その質問内容については、調査本部に報告してほしい。

<1 ページ>

ランダム/パネ

サンプルの種類にしたがって、右上のランダム/パネルのどちらかに○をつけること。

被調査者 No.

『インフォーマント名簿』に記載された4ケタのコードをの中に記入すること。

調査の結果、被調査者が昭和28年および昭和47年のサンプルであることが判明した場合は、4ケタのコードの末尾にPを付け加えること。

調査員記号

調査員名(名字)を□の中に記入すること。

01. 氏名

調査前に記入しておくこと。

生年月日

名前、生年月日による本人確認を忘れずに(調査票にチェック欄あり)。生年月日は、本人に言ってもらうようにすること。

02. アンケート

§3.5.参照

03. 開始時刻

1分刻みで記入すること。

電池・録音の確認

電池の残量チェック、録音開始のチェックを忘れずに(調査票にチェック欄あり)。

<調査全般>

調査票の質問は、ワーディング通りに行うこと。

100番台の質問は、基本的に録音し、後から文字化するようにする。なお、インフォーマントの回答の妨げにならない範囲で、調査の場で、述部などを書くことがあってもよい。

200番台以降は、調査の場で、調査票に回答を記入すること。

100番台の反応文の記入はIPAかカナ表記を用いること。カナ表記の基準は、本マニュアルの資料に添付してある。

NR(回答なし)、DK(分からない)はその旨を記入すること。

2つ以上反応があった場合は、回答された順に①、②のように番号を添え書きすること。

調査票の質問文の()は説明を示し、< >は想定問答を示している。

<2～6 ページ>

101.～118.

場面設定項目

- 101.～118.については、設定された場面を経験したことがない、対象となる話し相手がいないといった場合でも、その場面を想像してもらって回答を引き出すこと。

<2 ページ>

被調査者 No., 性別,
生年, P/K

- 左上の4つの欄は、調査員は記入しなくてよい。

〇〇さん

- 調査票の「〇〇さん」は、インフォーマントの名前に置き換えること。ただし、調査票の「〇〇さん」の部分にインフォーマントの名前を書かないこと。

<10～12 ページ>

301.～308.

フェイス項目

- 差し支えない範囲で答えてもらうこと。

<12 ページ>

307-2.仕事の内容

- 被調査者自身の仕事の内容について、できるだけ詳しく聞くこと。

例) 〇〇銀行に勤務 → 〇〇銀行の窓口勤務,
〇〇銀行の事務職, などを区別して書く。

〇〇高校に勤務 → 〇〇高校の教諭,
〇〇高校の事務, などを区別。

307-3.事業の種類

- 被調査者が選択肢の選択に迷った場合は、事業について尋ね、その内容を調査票の余白に書き込むこと。

<12 ページ>

308.家族構成

- 「同居」の範囲は、被調査者の判断に委ねること。

309.

前回調査の記憶

- パネル調査のみの項目である。

- 終了時間 1分刻みで記入すること。
 所要時間は1ページの開始時刻との差を記入。

<13 ページ>

- 401.~404. 必ず調査の後で記入すること(インフォーマントの前では書かない)。
 調査員の(主観的)判断によって記入すること。

5. 録音機材について

メインレコーダおよびサブレコーダの使用方法を簡単に説明する。使用方法の詳細については、別添資料を参照すること。

5.1. メインレコーダ

- (1) Roland 社の IC レコーダ (R-09) をメインレコーダとして使用する。
- (2) システムのアップデートや、録音に関する各種の設定は作業済みである。設定を変更しないこと。
- (3) 電池の挿入を確認し、下記①~④にしたがって録音・データ保存を行うこと。
 - ※ 電池は、1日分のデータを録音できる容量がある。メディアや電池を調査毎に取り換える必要はない。
 - ※ 電池(予備の電池)は、調査前日の夜もしくは調査当日の朝、本部より配布する。

<録音方法>

- ① Power ボタンを押して、電源を入れる。
- ② [REC] ボタンを1回押し、スタンバイ状態にする。
 - ※液晶画面の左下に「REC」と「STANBY」が交互に点滅していることを確認すること。
- ③ 再生ボタン(▶)を1回押すと、録音が始まる。
 - ※録音が始まると、液晶画面左下の表示が「REC」だけになる。
 - ※再生ボタンの代わりに[REC]ボタンをもう一度押しても、同様に録音が始まる。
- ④ 録音を停止する場合は、停止ボタン(■)を押す。
 - ※停止ボタンを押すと、自動的に1つのファイルが生成される。データの保存作業等は必要ない。
 - ※別の録音を開始したいときは、①~④を繰り返せば良い。自動的に別ファイルが作

成され、保存されるので、前の録音データが上書きされることはない。

本体背面の4つのつまみは常に以下のように設定しておくこと！

- 左上 AGC (Auto Gain Control) : OFF
 - 左下 LOW CUT : OFF
 - 右上 EXT MIC TYPE : STEREO
 - 右下 MIC GAIN : HIGH
- ※すべてのつまみが外を向いている状態になる

5.2. サブレコーダ

- (1) OLYMPUS 社の IC レコーダ (Voice-Trek DS-60) をサブレコーダとして使用する。
- (2) システムのアップデートや、録音に関する各種の設定は作業済みである。設定を変更しないこと。
- (3) 内蔵のメモリに記憶するタイプの機材である。したがって、メディアは使用しない。
- (4) 電池の挿入を確認し、下記①～③にしたがって録音・データ保存を行うこと。

※ 電池は1日分のデータを録音できる容量がある。電池を調査毎に取り換える必要はない。

<録音方法>

- ① 側面にある「電源」つまみをスライドさせて、電源を入れる。
- ② 側面の録音ボタンを押すと録音が始まる。
- ③ 録音を停止する場合は、側面の停止ボタンを押す。

※停止ボタンを押すと、自動的に1つのファイルが生成される。データの保存作業等は必要ない。

※ 別の録音を開始したいときは、①～③を繰り返せば良い。自動的に別ファイルが作成され、保存されるので、前の録音データが上書きされることはない。

本体側面のつまみは常に以下のように設定しておくこと！

- マイク感度：高感度

サブレコーダのデータの消去について

サブレコーダの内蔵メモリには、20時間以上の音声データを録音できる容量がある。各調査員がデータを削除する必要はない。機材返却時には、データが保存された状態で調査本部に返却すること。

メインレコーダとサブレコーダの録音設定は、調査本部で済ませてある。万一、設定を変更してしまった場合は、速やかに本部に申し出ること。参考までに、メインレコーダとサブレコーダの設定を記す。

<メインレコーダ>

- ファイル形式：WAV-16bit
- サンプル Rate：44.1KHz (PCM)

<サブレコーダ>

- ファイル形式：WMA
サンプル Rate：ステレオ HQ (44.1KHz)

メインレコーダ用の単3電池，サブレコーダ用の単4電池は，充電式のものを使用する。本部より充電器を貸し出すので，各自で充電しておくこと。

6. その他

- 食事：朝食（1階サクラルーム）7：00から9：30まで
パン，スープ，ゼリー，コーヒー，紅茶，など。
- コインランドリー：8F（洗濯機2台，乾燥機2台），24：00まで使用可。
- 自転車は，決められた場所（ホテル前の駐車場）に駐輪すること。
- 長時間，自転車を使わないときは，本部に鍵を返すこと。

関 連 資 料

調査員滞在日程表

(2008年11月5日現在)

【調査員】

▼は移動日

11月	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	備考
	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	
杉戸清樹			▼	○	○	▼					▼	○	▼		
松田謙次郎			▼	○	○	○	○	○	○	○	○	▼			
西尾純二				▼	▼							▼	▼		
松丸真大	▼	○	○	○	○	○	○	▼							
辻加代子		▼	○	○	▼					▼	○	▼			
吉岡泰夫				▼	○	○	○	▼							
米田正人	▼	○	○	▼					▼	○	○	○	○	▼	
横山詔一						▼	○	○	○	▼					
尾崎喜光							▼	○	○	▼					
大西拓一郎			▼	○	○	○	○	▼							
高田智和											▼	○	○	▼	
水野義道	▼	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	▼	
村上敬一	▼	○	○	▼						▼	○	○	▼		
熊谷康雄	▼	○	○	▼											
井上文子				▼	○	▼					▼	○	○	▼	
鎌水兼貴				▼	○	○	○	○	▼						
白岩広行	▼	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	▼	
平塚雄亮	▼	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	▼	
松本直樹	▼	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	▼	
中野陽							▼	○	○	○	○	○	○	▼	
新井文人					▼	○	○	○	○	○	○	▼			
折田奈甫			▼	○	▼										
竹村亜紀子			▼	○	○	○	○	○	○	○	▼				

【調査本部】

▼は移動日

11月	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	備考
	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	
朝日祥之	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
齋藤達哉	▼	○	○	○	○	○	○	▼							
阿部貴人	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
塚田実知代	▼	○	○	○	▼				▼	○	○	○	○	▼	
米田純子			▼	○	○	○	○	○	▼						

調査地域一覧 (五十音順)

町名	フリガナ
葵町	アオイチョウ
曙町	アケボノチョウ
朝日町	アサヒチョウ
伊賀新町	イガシンマチ
伊賀町	イガチョウ
石神町	イシガミチョウ
井田新町	イダシンマチ
井田町	イダチョウ
井田西町	イダニシマチ
井田南町	イダミナミマチ
板屋町	イタヤチョウ
稲熊町	イナグマチョウ
魚町	ウオマチ
梅園町	ウメゾノチョウ
柿田町	カキタチョウ
欠町	カケマチ
籠田町	カゴダチョウ
上明大寺町	カミミョウダイジチョウ
上六名1丁目	カミムツナ1チョウメ
上六名2丁目	カミムツナ2チョウメ
上六名3丁目	カミムツナ3チョウメ
上六名4丁目	カミムツナ4チョウメ
上六名町	カミムツナチョウ
亀井町	カメイチョウ
唐沢町	カラサワチョウ
久右エ門町	キュウエモンチョウ
久後崎町	クゴサキチョウ
康生町	コウセイチョウ
康生通	コウセイドオリ
材木町	ザイモクチョウ
栄町	サカエマチ
島町	シマチョウ
十王町	ジュウオウチョウ
城北町	ジョウホクチョウ
真宮町	シングウチョウ
末広町	スエヒロチョウ
菅生町	スゴウチョウ
田町	タマチ
天白町	テンパクチョウ
伝馬通	テンマドオリ
中岡崎町	ナカオカザキチョウ
中町	ナカマチ
西魚町	ニシウオマチ

町名	フリガナ
錦町	ニシキマチ
西中町	ニシナカマチ
根石町	ネイシチョウ
能見町	ノミチョウ
能見通	ノミドオリ
八幡町	ハチマンチョウ
八帖北町	ハッチョウキタマチ
八帖町	ハッチョウチョウ
八帖南町	ハッチョウミナミマチ
東能見町	ヒガシノミチョウ
東明大寺町	ヒガシミョウダイジチョウ
日名北町	ヒナキタマチ
日名中町	ヒナナカマチ
日名西町	ヒナニシマチ
日名本町	ヒナホンマチ
日名南町	ヒナミナミマチ
広幡町	ヒロハタチョウ
吹矢町	フキヤチョウ
福寿町	フクジュチョウ
蓬萊町	ホウライチョウ
本町通	ホンマチドオリ
松本町	マツモトチョウ
花崗町	ミカゲチョウ
南明大寺町	ミナミミョウダイジチョウ
明大寺町	ミョウダイジチョウ
明大寺本町	ミョウダイジホンマチ
六名1丁目	ムツナ1チョウメ
六名2丁目	ムツナ2チョウメ
六名3丁目	ムツナ3チョウメ
六名新町	ムツナシンマチ
六名町	ムツナチョウ
六名東町	ムツナヒガシマチ
六名本町	ムツナホンマチ
元欠町	モトカケチョウ
元能見町	モトノミチョウ
門前町	モンゼンチョウ
祐金町	ユウキンチョウ
両町	リョウマチ
連尺通	レンジャクドオリ
六地藏町	ロクジゾウチョウ
六供町	ロククチョウ
六供本町	ロククホンマチ
若宮町	ワカミヤチョウ

反応文の表記規則

- (a) 表記は IPA もしくはカタカナ表記とする。

カタカナで表記する場合、以下の規則に従うこと。

- (b) 助詞の「は」、「を」は、それぞれ「ワ」「オ」と表記する。

例) ×コノコハ ワタシノコデス ○コノコワ ワタシノコデス
 ×カサラ ワスレマシタヨ ○カサオ ワスレマシタヨ

- (c) 長音は長音記号「ー」で表す。

例) ×センセイ ○センセー
 ×オトウト ○オトート

- (d) 文節ごとに分かち書きする。分かち書きの際には以下の基準を参考にする事。

- 「～ノ」による名詞修飾節は「～ノ」の後で空ける

例) ワタシノ □ コドモデス。

- ただし、「コノ」「ソノ」「アノ」「ドノ」などの指示詞は分かち書きしない

例) コノ ミチオ マッスグ イクト…

- フィラーの「ソノ」「アノ」などの後には空白を入れる

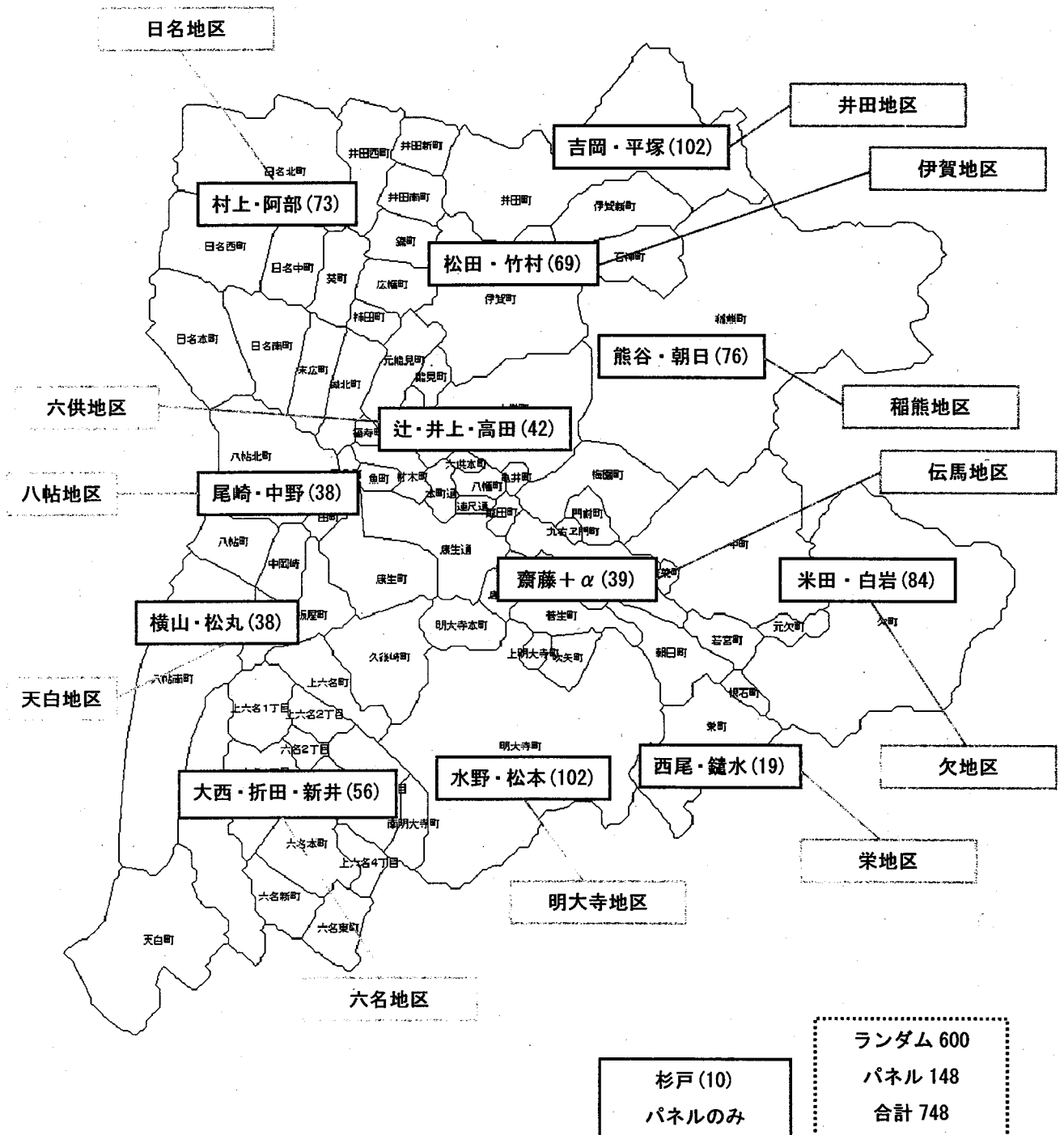
例) アノ ミョーダイバシワ ワカリマセン。

- 名詞述語の後の「ダ」「デス」などは、名詞とくっつける

例) ガクセーデス, ガクセーダカラ… など

メインレコーダ/サブレコーダの録音データを、各自のパソコン等にコピーすることは禁止とする！

調査地区と担当調査員



※ () 内はランダムサンプル+パネルサンプルのインフォーマント数

敬語と敬語意識の半世紀

—— 愛知県岡崎市における第三次調査 ——

科学研究費補助金 基盤研究 (A)

(代表者：杉戸 清樹)

調査本部マニュアル

平成 20 年 11 月 12 日 (水) ~ 25 日 (火)

調査本部：岡崎サンホテル

〒444-0038 愛知県岡崎市伝馬通 2 丁目 22 番地

TEL (本部・1006 号室) 内線 1006

本部 080-6922-8020

okazakichosa@gmail.com

独立行政法人国立国語研究所

目 次

1. 調査本部担当者	3
2. 調査本部の業務	3
2.1. 調査全体の運営	3
2.2. 滞在中の庶務一般	3
2.3. スケジュールの把握等	4
2.4. 調査用品の配布・補充	4
2.5. 連絡・対応	4
2.5.1. インフォーマントからの問い合わせへの対応	4
2.5.2. 直接に宿舎を訪ねてきたインフォーマントへの対応	5
2.5.3. 調査員への連絡, 調査員間の連絡	5
2.5.4. 研究所との定期および臨時の連絡	5
2.6. 「調査員記録簿」や調査票 等の受け取りと調査進行状況の把握	6
2.7. 調査票・録音データ等の保管と調査用具の整備・補充	6
3. 調査本部備品・資料等	7
3.1. 使用機材	7
3.2. 資料類	7
3.3. 文房具など	8
4. 録音データの取り込み (SD カード→PC) と保存	8

1. 調査本部担当者

朝日祥之 阿部貴人 齋藤達哉 塚田実知代 米田純子

		齋藤	米田純	塚田	朝日	阿部
11月12日	水	▼		▼	○	○
11月13日	木	○		○	○	○
11月14日	金	○	▼	○	○	○
11月15日	土	○	○	○	○	○
11月16日	日	○	○	▼	○	○
11月17日	月	○	○		○	○
11月18日	火	○	○		○	○
11月19日	水	▼	○		○	○
11月20日	木		▼	▼	○	○
11月21日	金			○	○	○
11月22日	土			○	○	○
11月23日	日			○	○	○
11月24日	月			○	○	○
11月25日	火			▼	○	○

- ・本部室には、必ず担当者が常駐する。
- ・原則 朝8時～ 夜10時（施錠） *場合により随時対応
- ・交代要員を確認して適宜食事や休憩時間をとる。

2. 調査本部の業務

2.1. 調査全体の運営

- ・岡崎入りする調査員への対応（朝日・阿部）
- ・全体会議・作戦会議の設定（朝日・阿部）
- ・インフォーマントの割振り（朝日・阿部）

2.2. 滞在中の庶務一般

- ・宿泊に関する変更等のホテルへの連絡・確認（塚田）
- ・報道への対応（朝日・阿部）

2.3. スケジュールの把握等

- ・調査員は、28名（所内13名・所外15名）、本部要員2名 計30名。
- ・各調査員の岡崎滞在のスケジュールを把握する。（スケジュール表を参照）
- ・朝、ICレコーダーを渡すときに、各調査員からおよその予定を聞く。
（急に予約が入った時などのため。情報整理にホワイトボードを利用）

2.4. 調査用品の配布・補充

- ・調査員に調査用品を配布する。クリヤーケース、クリヤーブック

接触： 調査員記録簿 調査員証 携帯電話 不在メモ
 調査担当地域地図

調査： 面接調査票 選択肢リスト ICレコーダ（2台） イヤホン
 クリップボード 筆記用具（鉛筆・ボールペン）
 謝礼の図書カード 受領書 ガイドライン 承諾書

予備： 予備の電池 返信用封筒 アンケートの予備
 調査マニュアル 電池用充電器 携帯電話用充電器

- ・調査票、調査用消耗品は、一定の場所に用意し、調査員の補充に備える。
面接調査票、アンケート、謝礼の図書カード、受領書、ガイドライン、承諾書、不在メモ、予備の電池、筆記用具（鉛筆・ボールペン）等文房具
- ・岡崎をはなれる調査員から調査用具一式と宿泊費を受け取る。

2.5. 連絡・対応

2.5.1. インフォーマントからの問い合わせへの対応

- ・スケジュールについての連絡があった場合、原則として先方の都合を最優先して、その場で予約を確保する。
担当調査員にすみやかに伝える。その調査員が無理なら、都合のつく調査員に依頼する。調整がつかないときには、連絡等対処する。
- ・調査そのものへの質問には、できるだけわかりやすく丁寧に応じ、協力してもらえるように説明する。

「こちらは、国立国語研究所の岡崎調査本部です。

ふだん、使っていることばをうかがう調査です。

代わりの方ではなく、〇〇さんをお願いしたいのです。

調査は30分くらいで終わります。

市役所にご協力いただき、「市政だより おかざき」10月15日号で紹介されました。

町会の回覧板でもお知らせしました。

10月12日の東海愛知新聞, 10月18日の中日新聞にも紹介されました。
先月, 市民会館でことばフォーラムをやりました。

お忙しいところすみませんが, よろしくお願ひします。etc. 」

(11月21日朝 7:40~8:00 NHK おはよう東海 で紹介の予定)

- ・拒否的な電話, クレームや断りの電話であっても, できるだけおだやかに対応して, 理解してもらうようにつとめる。
「調査員がうかがうので……………」などとできるだけ交渉の可能性をつなぎ, 「わかりました」と一度ですぐにひきさがらないように心がける。

2.5.2. 直接に宿舎を訪ねてきたインフォーマントへの対応

- ・待機している調査員がいれば, 連絡して調査をしてもらう。10:00以降は1階のサクラルームが使用できる。サクラルームが使用できない場合は, ロビーを使うようにする。
- ・調査員不在の場合は, お詫びをして次の予定を聞くなど, 必要な措置をとる。

2.5.3. 調査員への連絡, 調査員間の連絡

- ・調査員への連絡・通知は, 確実に行う。連絡メモを活用すること(カーボン紙を使ってコピーを残す)。
調査内容や調査方法について調査員から質問や意見が出た場合は, 朝日・阿部に確認をとってから, 統一的な回答や指示を全調査員に出す。
- ・調査員から緊急に調査実施の依頼があったら, 都合のつきそうな調査員に連絡し, 予定の時間に調査ができるよう努力する。

2.5.4. 研究所との定期および臨時の連絡

- ・返送された依頼状についての連絡等にはメールを利用する。
アドレス : okazakichosa@gmail.com
ログインPW : okahonbu
※適宜, カレンダーやドキュメント(ファイルサーバ)も利用する。
- ・毎日 10:00, 16:00 に東京本部から岡崎の調査本部に電話連絡をする。

2.6. 「調査員記録簿」や調査票等の受け取りと調査進行状況の把握

(1) 調査が完了したものについて、「調査員記録簿」等6点セットを受け取る。

- 1 調査員記録簿
- 2 面接調査票
- 3 アンケート
- 4 領収書
- 5 承諾書
- 6 ICレコーダー

「調査員記録簿」の本部記入欄に、アンケート・面接調査票・録音データの提出日を記入する。

アンケートを受け取っていない場合は、面接調査票と録音データ等のチェックを済ませて、その場で調査員に記録簿を返す。

インフォーマント番号、調査員名など必要記入事項を確認する。特に予備の「アンケート」票で調査をしたものは、インフォーマント番号を確認する。

(2) 調査完了のほかに、以下の記録簿も受け取る。

- *それ以上調査ができないもの（保留は受け取らない）
- *死亡その他で全く調査できないもの

調査不能の判断は、朝日と阿部がする。不能となったものは、『調査員記録簿』の下に赤で不能と記入する。

(3) 「調査員記録簿」をもとに「調査台帳」に以下のことを転記する。

- *アンケートの受取日
- *面接調査の調査日
- *録音データの採録日（＝面接調査の調査日）
- *承諾書 チェック
- *受領書 チェック
- *不能が決定したものは、「不能」と記入（保留中のものは記入しない）
- *台帳の誤りなどの報告があれば、備考に記し、必要な修正をする。
- *調査が完了したら○を記入する。

(4) 余力があれば、パソコン上の「調査台帳」のファイルに情報を入力する。

2.7. 調査票・録音データ等の保管と調査用具の整備・補充

- ・一度提出された面接調査票は、書き取り等の整理のために調査員が使用することがある。調査員記録簿により持ち出し・返却についての管理をする。
- ・調査員記録簿、面接調査票、アンケート、受領書・承諾書はそれぞれきめられたファイルやボックス等で適切に保管する。
- ・音声データは、ファイル名を付け、ICレコーダーのデータを移行する(§ 4. 参照)。

3. 調査本部備品・資料等

3.1. 使用機材

ノート PC (OS:WindowsXP Professional, Office Professional Plus 2007,
CPU:Core2Duo L7700 1.8GHz 4MB, HDD 容量:250GB,
メモリ容量:1GB, 駆動時間:7.5 時間, LAN:1000BASE
ドライブ規格:DVD±R/±RW/RAM)

PC 名:kokkenoka9(mac:00-1D-E0-A0-93-63)

kokkenoka10(mac:00-1D-E0-1F-4A-AF)

kokkenoka11(mac:00-1D-E0-1F-4D-4F) 以上 3 台

プリンター (A4 対応カラー) 1 台

デジタルカメラ (リコー Caplio Caplio R-4) 1 台

カードメディア読み取り機 (12 規格 20 種類カード対応) 3 機

USB HUB (4 ポート) 3 個

OA タップ [電池充電用]

延長コード 2 本

プリペイド式携帯電話 [調査本部用] 1 台

外付け HDD (BUFFALO HDD 容量 2TB) 2 台

IC レコーダ [メインレコーダ] (Roland R-09)

IC レコーダ [サブレコーダ] (OLYMPUS DS-60)

SD カード [4 GB] (SD HC)

充電式乾電池用充電器 (SONY CyclEnergy)

充電式乾電池 [単 3 (メインレコーダ用)] (SONY CyclEnergy)

充電式乾電池 [単 4 (サブレコーダ用)] (SONY CyclEnergy)

懐中電灯 (単二電池 2 本使用) 11 本

単二電池 [懐中電灯用]

3.2. 資料類

面接調査票 750 冊

アンケート (予備) 100 冊

調査員記録簿 748 枚 (ランダム 600 枚 + パネル 148 枚)

調査マニュアル 40 冊

依頼状 (ランダム), 依頼状 (パネル), 調査のガイドライン, 承諾書,

図書カード 400 枚, 受領書

不在メモ, 電話連絡メモ

インフォーマント名簿, 調査台帳

3.3. 文房具など

ボールペン, シャープペンシル, シャープペンシルの芯, 消しゴム,
カーボン, ボックスファイル, はさみ, マグネット, セロテープ, 付箋
サインペン, マーカー, ホワイトボードマーカー, 定規, 電卓, パンチ
カッター, ガムテープ, 封筒 (角), 封筒 (長), コピー用紙

4. 録音データの取り込み (SD カード→PC) と保存

- (1) 調査員からメインレコーダを受け取る。
- (2) SD カードが挿入されたままのメインレコーダと PC を USB で接続する。
- (3) PC でリムーバブルディスクが認識される。その中から, 音声データを PC にコピーする。
- (4) 音声データの名前を変更する。以下の基準にしたがって, 名前を付けること。

1_2_調査者記号_フォーマット番号_日付_1

- ① 黒字は固定。経年調査の本調査を意味している。
- ② 調査者記号は下記のリストを参照のこと。
- ③ フォーマット番号は調査員記録簿に記載された被調査者番号を入力。
- ④ 日付は, 月の2桁, 日の2桁, 西暦の下2桁を続ける。
例) 2008年11月12日の場合: 111208
- ⑤ 1人のインフォーマントに1ファイルが原則だが, 複数のファイルになってしまった場合は, 日付の次に _1 のように番号を入れて対処する。
- ⑥ 入力はすべて半角とする。

調査員記号	杉戸 : sug	真田 : san	松田 : mad
	西尾 : nis	松丸 : mam	辻 : tsj
	片岡 : kat	久木田 : kuk	吉岡 : yos
	横山 : yok	尾崎 : oza	大西 : oni
	高田 : tak	朝日 : asa	齋藤 : sai
	阿部 : abt	水野 : miz	村上 : mur
	米田正 : yon	熊谷 : kum	井上 : ino
	鐘水 : yar	白岩 : shr	平塚 : hir
	松本 : man	中野 : nak	新井 : ara
	折田 : ori	竹村 : tkm	

- (5) 名前を付けた音声データを外付け HDD (PC とは USB 接続しておく) に移動し, バックアップをとる。

※ 1台の外付けHDDに1日分のデータを移動させたら、もう1台の外付けHDDに音声データをコピーする。2台でバックアップするかたちをとるためである。

※ 音声ファイルは、ICレコーダの設定により、次のようになる。

❖ データ形式 : WAVファイル

❖ 音質・周波数など : 16bit/44.1kHz/PCM

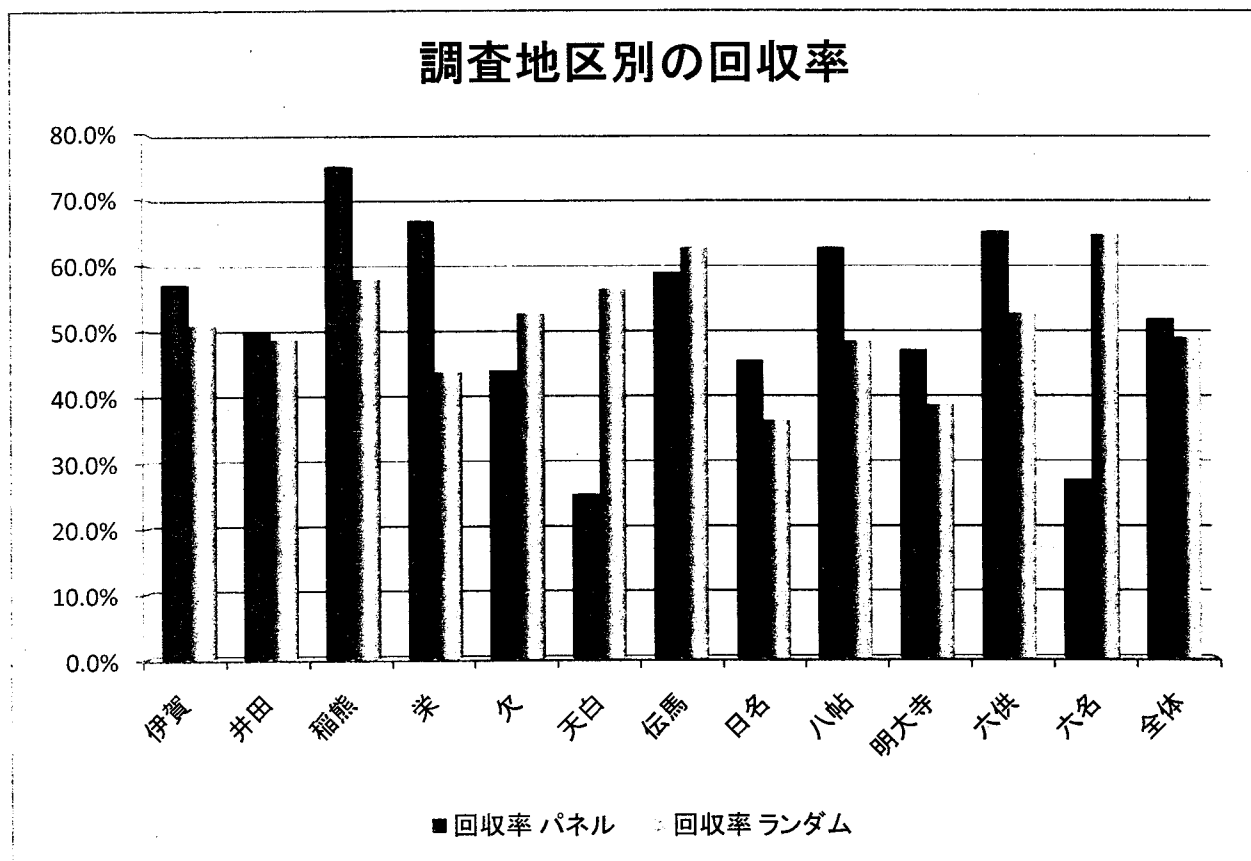
データのサイズは、おおよそ700MB~1.2GBまでと考えられるが、極端にサイズが小さい場合はICレコーダの録音設定を確認すること。

(6) メインレコーダの音声ファイルを削除する。

調査結果(本調査終了時点)

2008/12/10

地区	調査終了数			回収率	
	パネル	ランダム	合計	パネル	ランダム
伊賀	4	28	32	57.1%	50.9%
井田	7	37	44	50.0%	48.7%
稲熊	6	37	43	75.0%	57.8%
栄	2	7	9	66.7%	43.8%
欠	11	30	41	44.0%	52.6%
天白	1	18	19	25.0%	56.3%
伝馬	10	10	20	58.8%	62.5%
日名	5	20	25	45.5%	36.4%
八帖	5	15	20	62.5%	48.4%
明大寺	8	34	42	47.1%	38.6%
六供	13	10	23	65.0%	52.6%
六名	3	31	34	27.3%	64.6%
全体	75	277	352	51.7%	48.9%



6. 補充調査の実施

本調査の達成結果をふまえて、ランダムサンプルおよびパネルサンプルに対する補充調査を平成21年2月2日から16日までの期間に実施した。

本章には、この補充調査に関連する以下の各種資料を収録する。

- 「補充調査の計画について」……………179
 - ・ 2008年12月24日付
 - ・ 補充調査で対象とすべき人数やその性別や年齢の構成を検討するための打合せ資料である。
 - ・ 資料中「本調査で対象外だった33名の補填」とある。今回のランダムサンプリングで選抜対象とすべき「生まれ年」に作業上のミスがあり、33名分が本来は対象外となる高年層の方を選んでいて、「補填」とは、この33名について、当初のサンプリングであらかじめ選んでいた200名の予備サンプルから補填することを意味する。この点については、次に収める資料「サンプリングミスについて」と「補充調査マニュアル」に説明と対応の記述がある。

- 「サンプリングミスについて」……………181
 - ・ 岡調08-037
 - ・ 2009年2月27日付
 - ・ 前項で説明したランダムサンプリングの作業上のミスについての説明資料。
なお、このミスは、本調査期間中に発見できたので、対象外の回答者への調査は行わないこととして補充調査で補填等の対応をとった。

- 「補充調査マニュアル」……………183
 - ・ 岡調08-036
 - ・ 補充調査に参加する調査員に配布した。補充調査の手順や調査方法について周知し共通理解を図るための資料である。特に前半では、補充調査で対象として調査達成することが望まれる対象者の属性構成などを具体的に記している。内容については資料自体の「目次」を参照されたい。

補充調査の計画について

1. 調査の規模・インフォーマントの選定

<補充調査のインフォーマント>

- (1) 本調査で年齢が対象外だった 33 名の補填
- (2) 本調査で調査完了せずに「補充調査にまわす」としたもののうち、見込みのあるもの

上記 (1) (2) について、調査対象地区の年齢・性の構成に近づく調査完了数・率になるように、補充調査で対象とするインフォーマントの構成を示したのが表 1、表 2 である。

表 1 の矢印の左側は、その年齢・性の総数（補充調査で投入できる総数）を、右側は補充調査の対象とすべき数（投入数）を示す。したがって、「10→2」は 10 名のリストの中から、2 名を選び出し、補充調査の対象とすることになる。

表1 33名の補填

セット	性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
A 【30追加】	M		5→5	7→7	8→6	10→2		
	F		8→8					5→2
B 【3追加】	M			3→2				
	F		5→1					

表2 「補充調査」

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
M		7(2) 4	12(3) 2	13(3) 3	8(3) 3		
F	2(1) 1	8(2) 5	4(2) 3				

□ は目標数、() 内はランク A の数

「10→2」のような場合のインフォーマントの選出は、コンピュータのプログラムにより無作為に抽出する。無作為に選出しない場合の基準立てが困難（恣意的）になり、報告書等で明記しにくくなることを避けるためである（無論、これによって「ランダム」性が確保されるわけではない）。

表 1、表 2 のインフォーマントを対象とした場合に、年齢・性の構成がどのようになるかを予測する必要がある。この構成の予測について、下記 2 点についてグラフを示す。

- (1) 本調査の調査完了数+補充調査の見込み数と、調査対象地区の比較 → 図 1・2
- (2) 本調査の調査完了数+補充調査で対象とするインフォーマントの総数と、調査対象地区の比較 → 図 3・4

図1 結果の見込み (M)

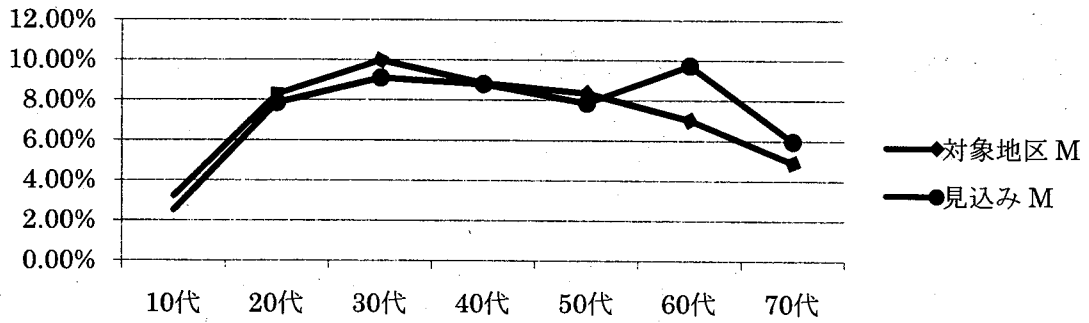


図2 結果の見込み (F)

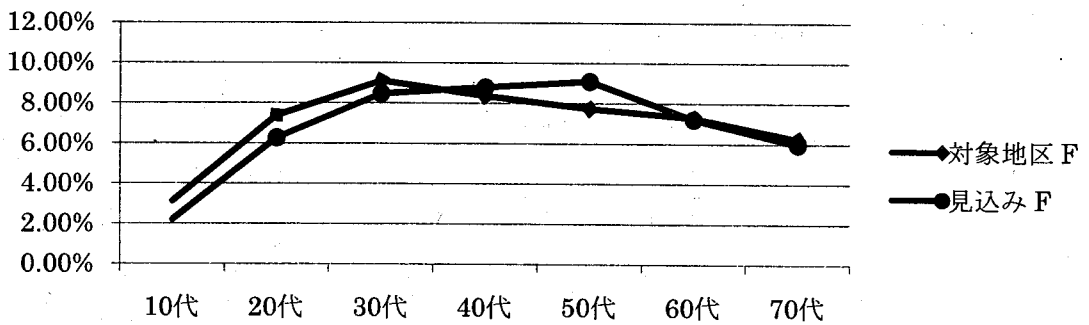


図3 補充調査すべて (M)

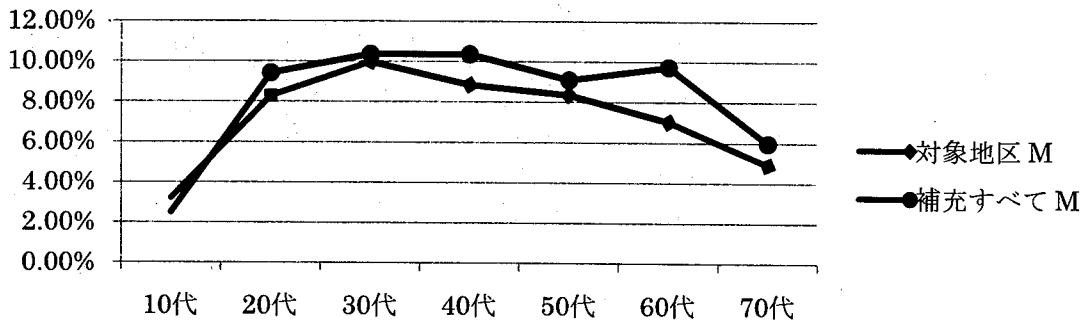
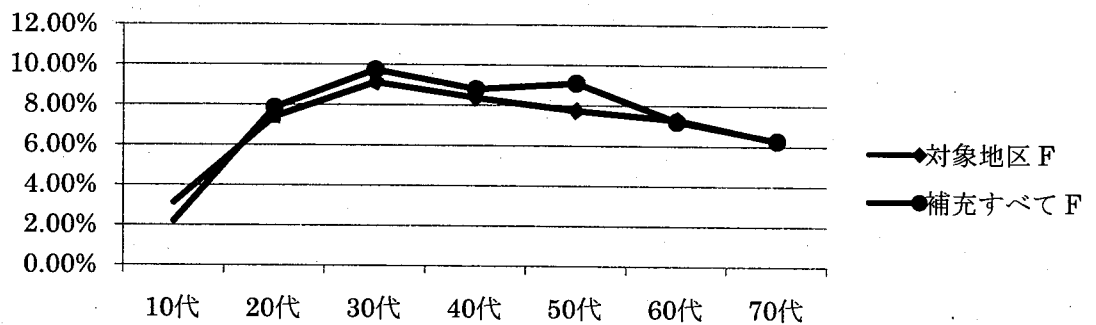


図4 補充調査すべて (F)



サンプリングミスについて

○サンプリング作業

- ・平成 19 年 10 月 31 日時点で 15 歳から 79 歳までの岡崎市民が対象となった
- ・サンプリングでは、等間隔抽出法を用い、作業を行った。800 サンプルを抽出した。
- ・サンプリングにあたっては、該当する年齢幅が記されたものを用意した。

大正 3 年 (1928) 11 月 1 日～平成 5 年 (1993) 10 月 31 日

○作業上の転記ミスについて

- ・該当する年齢幅は
「昭和 3 年 (1928 年) 11 月 1 日～平成 5 年 (1993 年) 10 月 31 日」である。
- ・作業時に用いた年齢幅は
「大正 3 年 (1928 年) 11 月 1 日～平成 5 年 (1993 年) 10 月 31 日」である。
- ・住民基本台帳に記されている住民の生年月日は元号で記されている。
 - 転記作業時に「大正 3 年」までの話者が「該当する」と判断してしまった
 - ※ 西暦を見れば「昭和 3 年」であることは明らか
 - ※ 作業開始時にミスに気づけなかったことが転記ミスの原因につながった

敬語と敬語意識の半世紀

—— 愛知県岡崎市における第三次調査 ——

科学研究費補助金 基盤研究 (A)

(代表者：杉戸 清樹)

補充調査マニュアル

平成21年2月2日(月)～16日(月)

調査本部：岡崎サンホテル

〒444-0038 愛知県岡崎市伝馬通2丁目22番地

TEL (ホテル・代表) 0564-65-6000

FAX (ホテル・代表) 0564-65-6000

TEL (本部) 080-6922-8020

独立行政法人国立国語研究所

目 次

1. 補充調査の概要	3
1.1. 本調査の結果.....	3
1.2. 年齢×性の構成のばらつき.....	4
1.3. 十分な構成比を得るための方策	5
1.4. 補充調査の全体像	6
2. 調査員.....	7
3. 第三次調査（補充調査）の流れ.....	7
3.1. 調査票の種類.....	7
3.2. 現地における調査の流れ	8
3.3. 調査実施上の注意事項	10
3.4. インフォーマントとの接触・交渉.....	10
3.5. 『アンケート』票の回収	11
3.6. 面接調査の実施について	12
3.7. 『調査員記録簿』の取り扱い	13
3.8. 調査本部との連絡	14
4. 『面接調査票』の説明, および記入上の注意.....	14
5. 録音機材について.....	17
5.1. メインレコーダ	17
5.2. サブレコーダ.....	18
6. 宿泊先について.....	18
関連資料.....	19
調査員滞在日程・調査員参加日程表.....	20
FAQ.....	20
調査地域一覧（五十音順）	22

1. 補充調査の概要

1.1. 本調査の結果

2008年11月12日～25日に実施した本調査は、ランダムサンプル600名、パネルサンプル145名を対象に調査を実施し、以下のような結果となった。

表1 ランダムサンプルの達成状況（本調査終了時）

状況		人数	
I.調査完了		277	
II.調査未完	II-i.可能性あり	II-i-1 可能性高	24
		II-i-2 可能性中	50
	II-ii.可能性薄, 調査不能		202
III.対象外の年齢だったランダムサンプル		33	
合計		600	

表2 パネルサンプルの達成状況（本調査終了時）

状況		人数	
I.調査完了		75	
II.調査未完	II-i.可能性あり	II-i-1 可能性高	5
		II-i-2 可能性中	9
	II-ii.可能性薄, 調査不能		56
合計		145	

表1のうち、「III.対象外の年齢だったランダムサンプル」は、そもそも600名のなかに入っているはずのないサンプルである。したがって、本調査では、ランダムサンプルは567名を対象として調査していたことになる。

このランダムサンプルの総数を600名にするために、予め余分にサンプリングしておいた予備サンプル200名から33名を抽出し、補充調査を実施することを計画する。この33名を追加して補完することを補填と呼ぶことにする。

この補填の33名は、もともと600名のなかに入っていたと見なすわけであるから、調査の手順等は本調査のそれと同様にする必要がある。すなわち、「ことばの調査のお願い（岡崎市長版）」「ことばの調査のお願い（国語研究所長版）」「アンケート」「調査のガイドライン」等を調査に先立って事前に郵送しておき、33名全員を訪問して調査への協力をお願いすることになる。

1.2. 年齢×性の構成のばらつき

次に、調査完了となったランダムサンプルの属性による構成比をみる。

表1に挙げたランダムサンプルの「I.調査完了」について、年齢×性による分布を示すと、表3のようになる。また併せて、回収率を図1に示す。

表3 「調査完了」の年齢×性の分布（ランダムサンプル）

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
M	8	18	21	22	21	31	19
F	6	10	23	28	29	23	18

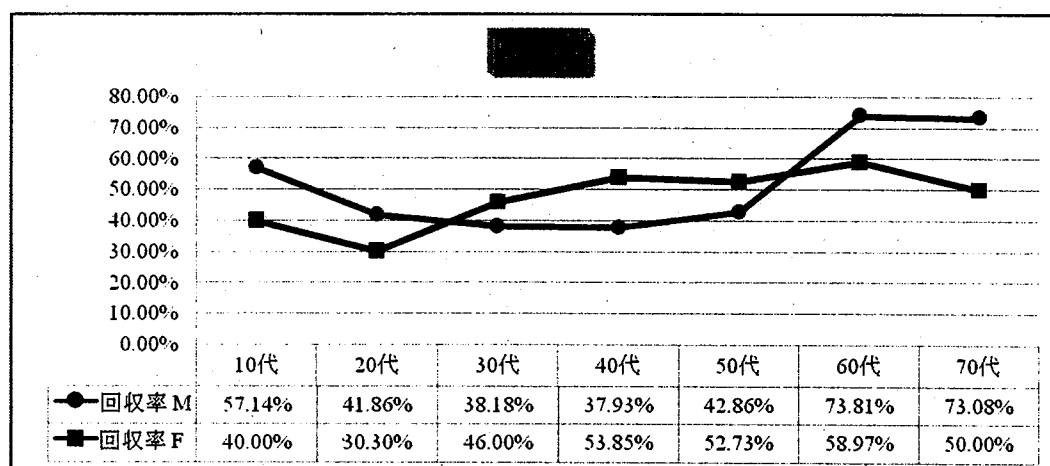


図1 「調査完了」の年齢×性による回収率（ランダムサンプル）

表3と図1から分かるように、ある特定の年代・性の回収数が少なく、回収率も低い。

岡崎調査は、敬語と敬語についての意識の実態を探る調査である。敬語の使用、敬語に対する意識に、年齢と性が大きく関わっていることは言うまでもない。第一次岡崎調査（1928年）、第二次岡崎調査（1972年）の結果においても、この二つの社会的属性と敬語・敬語意識の関連が、分析の大きな柱となっている（詳しくは国立国語研究所報告 11, 同 77 を参照のこと）。

経年調査である第三次岡崎調査は、これらの社会的属性と敬語・敬語意識の関わりがどのように変化しているか（あるいは変化していないか）をみつめることが、大きな目的のひとつになることは言を待たない。経年調査を実施するうえでの責務と言っても過言ではない。その責務を果たすべく、第三次岡崎調査にあたるものは、社会的属性と敬語の関連が十分に分析可能なデータを確保するという使命を負う。

以上のような理由から、今回の補充調査では、年齢・性の構成が分析に耐えうるデータとなるような方策をもって臨むことになる。

1.3. 十分な構成比を得るための方策

ここで重要になるのは、何を（どの程度を）もって十分な構成と見なすかである。第三次岡崎調査が考量して出した解は、調査対象地区の年齢×性の構成と、調査完了の年齢×性の構成がなるべく一致することである。

なぜなら、我々は、データを分析して出した解釈を「（調査対象地区に居住する）岡崎市民は～である／～と考えている」と表現するはずである。調査対象地区に居住する岡崎市民の代表を調べたのであるから、必然と言える（そのためにサンプリングを実施しているのだから）。そうだとすれば、母集団である調査対象地域の年齢×性の構成との間に大きな差異がないデータを確保することが望ましい。

そのためには、調査完了数の少ない層を重点的に補充する必要がある。これは、先に述べた補填 33 名に限らず、本調査で調査完了とならなかったインフォーマントに対する補充調査についても同じことが言える。

調査対象地区の年齢×性の構成に近づくように算出すると、補充調査では表 4 のような完了数が必要となる。

表 4 補充調査で目指す調査完了数（ランダムサンプル）

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
M		7	8	6	4		
F	1	10	3				1

表 4 に挙げた調査完了数を得るために、補填 33 名を表 5 のように割り当てる。

表 5 補填 33 名

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
M		5	9	6	2		
F		9					2

しかし、表 5 の割り当てでは目標に達しない層がある。また、割り当てたインフォーマント全員が調査に応じてくれるわけでないことは言うまでもない。そこで、本調査で調査完了にはならず、今回の補充調査に応じてもらえる可能性のあるインフォーマントに対し、再度調査をお願いし、目標数の達成を目指すことになる。この本調査で調査完了とならなかったインフォーマントに再度調査をお願いして目標数に近づけることを補正と呼ぶことにする。このとき、比較的調査に応じる可能性の高いインフォーマントをランク A とし、それよりもやや可能性の低いインフォーマントをランク B として区別しておく。調査完了数が必要な層について、可能性のある人数（つまり、本調査で調査完了にならなかったインフォーマント数）は、以下に挙げる表 6 のようになる。

表6 補正 54名

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
M		7 (2)	12 (3)	13 (3)	8 (3)		
F	2 (1)	8 (2)	4 (2)				

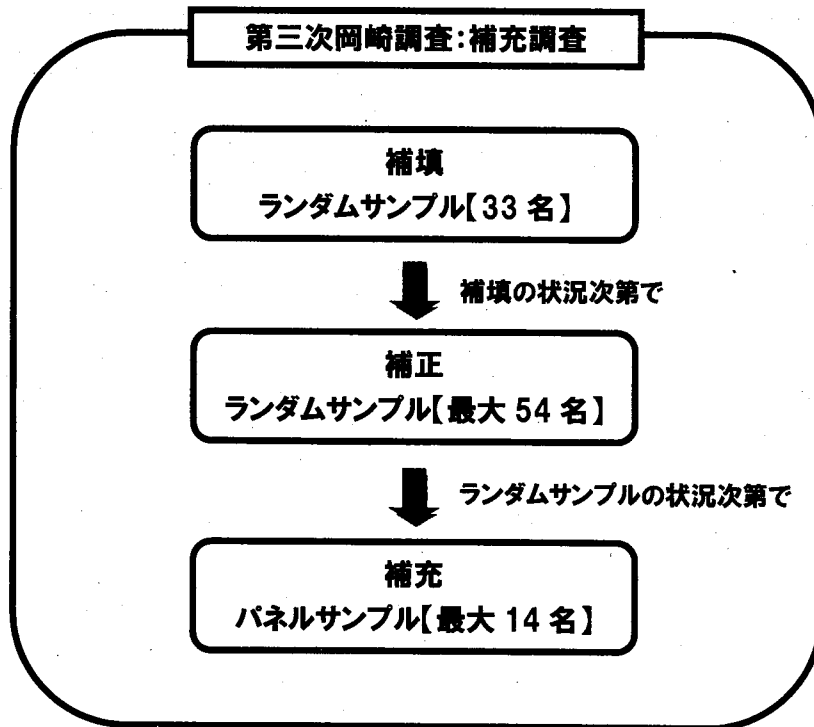
() 内はランク A の数

ここで注意しなければいけないのは、表6に挙げた総勢 54 名全員に調査を実施するわけではないということである。例えば、40 代男性は目標数が6名であるが、補填 33名で割り当てた6名が仮にすべて調査できたとしたら、補正の40代男性(13名)には調査を実施しない。つまり、補填の調査達成状況を見て、補正でどのくらい調査を実施するかが決まるのである。

1.4. 補充調査の全体像

これまで述べてきたことはランダムサンプルの補充調査についてであり、パネルサンプルについては触れてこなかった。これは、ランダムサンプルの調査達成状況を最優先に考え、補充調査を実施することを計画しているからである。パネルサンプルの調査は、ランダムサンプルの調査達成状況次第で、本調査で調査完了とならず、補充調査で調査完了となる見込みがあるランク A (5名) ないし B (9名) に進んでいくという方針をとる。

以上のことから、今回の補充調査の流れは、下記のように図示できる。



2. 調査員

水野 義道 (京都工芸繊維大学)
 片岡 邦好 (愛知大学)
 久木田 恵 (愛知教育大学)
 尾崎 喜光 (国語研・研究開発部門)
 竹村亜紀子 (神戸大学大学院)
 新井 文人 (神戸松蔭女子学院大学大学院)
 朝日 祥之 (国語研・研究開発部門) 本部要員兼任
 阿部 貴人 (国語研・研究開発部門)

東京本部 磯部よし子 (国語研・情報資料部門)
 塚田実知代 (国語研・情報資料部門)
 中澤 香映 (国語研・研究開発部門)

3. 第三次調査 (補充調査) の流れ

基本的に本調査の流れに等しい。各自一読し、再確認しておくこと。

3.1. 調査票の種類

(1) 【アンケート】

郵送留置法による調査。『アンケート 暮らしの中のことば』(以下、「アンケート」と称す。A4判4ページ)の調査票に、インフォーマント自身に記入してもらう。

(2) 【面接調査票】(旧「サーヴェイ調査票」)

個別面接による調査。調査員がインフォーマントに『面接調査票』(A4判13ページ)に沿って質問し調査する。また、一部の質問については、刺激図や選択肢のリストをまとめた『選択肢リスト』(A5判ファイル)を使用する。原則として全項目を調査する。

録音機材として2台のICレコーダを同時に使用して調査を記録する(使用方法については§5. 参照)。

- ❖ 保存用のデータを録音するための機材 (以下、メインレコーダと称す)
 - メディア (SD カード) に録音する。その日の調査が終了するごとに、メインレコーダを調査本部に提出する。
- ❖ 聞き直しのための機材 (以下、サブレコーダと称す)
 - 機材内蔵のメモリに記憶する。調査後、調査票整理のための聞き直しに利用する。

3.2. 現地における調査の流れ

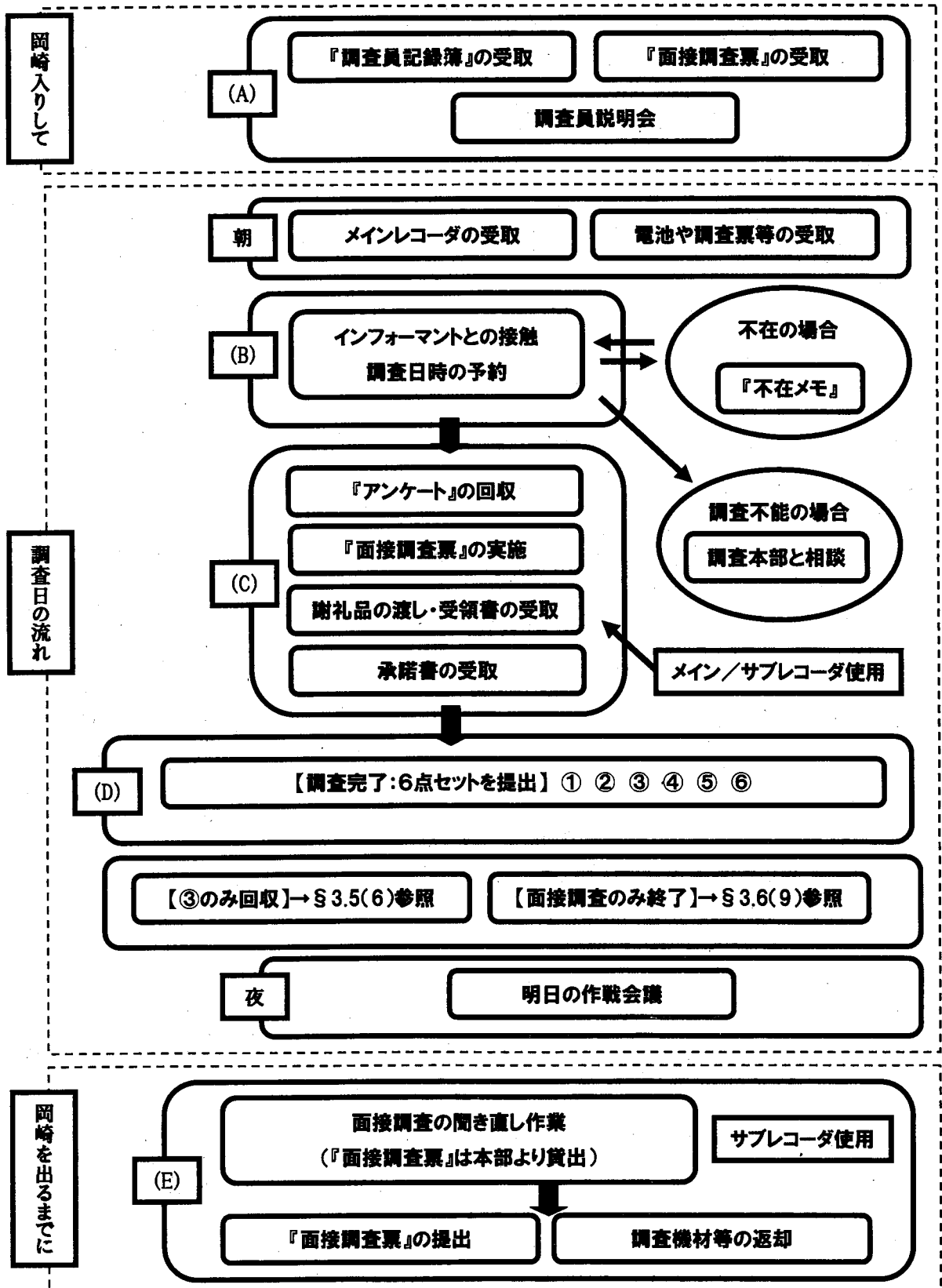
現地での流れについて概略を記す。詳細については、§3.3～3.8を参照のこと。次頁に、現地での流れを表す概略図も示す。下記の(A)～(E)は図のそれと対応する。

- (A) 『インフォーマント名簿』および『調査員記録簿』により、調査員へインフォーマントの割り振りを行う。
- (B) 各調査員がインフォーマントに接触し、サーヴェイ調査の依頼、都合の問い合わせを行う。
- (C) インフォーマント宅、または指定された場所を訪問し、以下のことを行う。
 - ① 『アンケート』の回収。記入もれの確認を忘れずに。
 - ② 録音を開始し、面接調査を行う。
 - ③ 調査終了後、謝礼の図書カードを手渡し、『受領書』に住所・氏名を記入してもらうこと。
 - ④ 事前に郵送してある『調査のガイドライン』の控えを示しながら、データ使用について説明し、データの『承諾書』にも住所・氏名を記入してもらうこと。
- (D) インフォーマントごとに、『調査員記録簿』を調査本部へ提出する。同時に、『アンケート』とメインレコーダも提出する。
- (E) 面接調査票の内容の点検を済ませ、調査票を調査本部へ提出する。また、調査機材等も本部へ返却する。

【6点セットの内訳】

- ① : 『調査員記録簿』
- ② : 『面接調査票』
- ③ : 『アンケート』
- ④ : 『領収書』
- ⑤ : 『承諾書』
- ⑥ : メインレコーダ

現地での流れ (概略)



3.3. 調査実施上の注意事項

- (1) ランダムサンプル、パネルサンプルとも、代理の人の回答では意味をなさない。インフォーマントにはその旨を理解してもらい、必ず本人から情報を得よう努力すること。
本人かどうかの確認は、氏名、住所、性、生年月日等で行えるはずであるが、同姓同名の別人や家族などを調査しないよう充分注意をすること。
- (2) 『調査員記録簿』に誤りを見つけた場合、確実に調査本部に連絡すること。
- (3) インフォーマントとの接触や交渉、調査にあたっては、調査本部配布の調査員証を携帯すること。

3.4. インフォーマントとの接触・交渉

- (1) 各インフォーマントには、岡崎市長および国立国語研究所長から調査協力依頼（「ことばの調査のお願い」）、データ使用に関する『調査のガイドライン』が郵送されている（1月29日（木）発送）。
- (2) 市の広報に調査協力依頼の記事が掲載された（2008年10月15日号）。
その他、東海愛知新聞（2008年10月12日）、中日新聞（2008年10月18日）でも取り上げられている（クリアファイルのコピーを参照のこと）。
また、岡崎調査のホームページも2008年4月1日に開設されている（「ことばの調査のお願い」には、岡崎調査HPのURLも掲示している）。
- (3) 以上のことを踏まえたうえで、インフォーマントに対して調査への協力を依頼する。
インフォーマントが記事やホームページを見ていない可能性も充分にある。
- (4) インフォーマントへの第一接触は電話によらないこと。電話の使用は、何回かの訪問の後、インフォーマントが電話番号を教えてくれた場合のみとする。調査員用の携帯電話を用意する。
- (5) 調査実施期間の早いうちに、できるだけ多くのインフォーマントへの第一接触を済ませ、面接日時の予約をとりつけたほうがよい。その際、別の者が調査員として訪問する可能性があることも伝える。
第一接触を遅らせることは、依頼状に調査期間が明記されているので、インフォーマントに「もう来ないのか」といった、無用のイライラを与えかねず、調査にとってマイナスである。
- (6) インフォーマントや家人が不在で会えない場合は、時間帯や曜日を変えて、粘り強く訪問を重ねること。この際、『不在メモ』を適宜利用すること。
- (7) 調査に対して拒否的・批判的な人など、調査が困難なインフォーマントについては、最終的に拒否される前に調査本部に連絡すること。時間の経過や調査員が交替するだけで態度を変えてくれる場合があるので、話がこじれるまで深追いしないこと。

- (8) インフォーマントには、突然一方的なお願いをして協力を仰いでいるのだから、終始丁寧な態度でのぞむことを肝に銘じ、感情的な対応は極力慎むべきである。万一、後にしこりを残すような事態になった場合は、調査本部にできるだけ早く、気軽にその旨を伝えてほしい。いっしょに、善後策を講じよう。
- (9) 調査員に対して背広・ネクタイの着用は強制しないが、節度のある身なりを心掛けること。インフォーマントへは、はっきりとした明るい声で、にこやかに接すること。

3.5. 『アンケート』票の回収

予め『アンケート』が郵送されている。これを、面接調査の開始に先立って回収する。その際、以下の点に注意する。

- (1) 事前に送ってある『アンケート』には、インフォーマント番号が印刷されている。『面接調査票』に記入したインフォーマント番号との照合を行うこと（調査票の1ページ右上、四角欄）。
- (2) インフォーマントが『アンケート』を紛失した等の理由で、予備の『アンケート』を渡すときには、『アンケート』にインフォーマント番号を記入して渡すこと（右上のNo.の欄）。
- (3) 記入漏れがないかどうか確かめる（『面接調査票』にチェック欄あり）。
記入漏れを発見した場合は、その場で記入してもらう。調査員が読み上げて質問し、記入してもよい。
- (4) 『アンケート』への記入が済んでいない場合は、後日回収に来る旨を伝え、それまでに記入しておいてもらう。回収日時の約束、方法をしっかりと確認すること。調査員記録簿の回収予定日への記入も忘れずに。インフォーマントが郵送を希望した場合には、返信用の封筒を渡すこと。その際、封筒の下にインフォーマント番号を必ず記入すること。もし可能と判断される場合には、その場で記入してもらってもよい。
- (5) できるだけ避けたいことであるが、『アンケート』への回答だけをしてきて、面接調査には応じてもらえないようなケースも考えられる。そのような場合でも確認事項のチェックし、お礼の図書カードを渡し、『受領書』に住所、氏名を記入してもらう。
- (6) また、『アンケート』への回答だけをしてきて、面接調査には応じてもらえないようなケースでも、『承諾書』に氏名、住所を記入してもらうこと。
- (7) 『アンケート』の回答だけで、面接調査は後日実施することになった場合でも、調査本部に『調査員記録簿』を一時的に提出すること。必要な情報を転記した後、調査本部より再度手渡す。

3.6. 面接調査の実施について

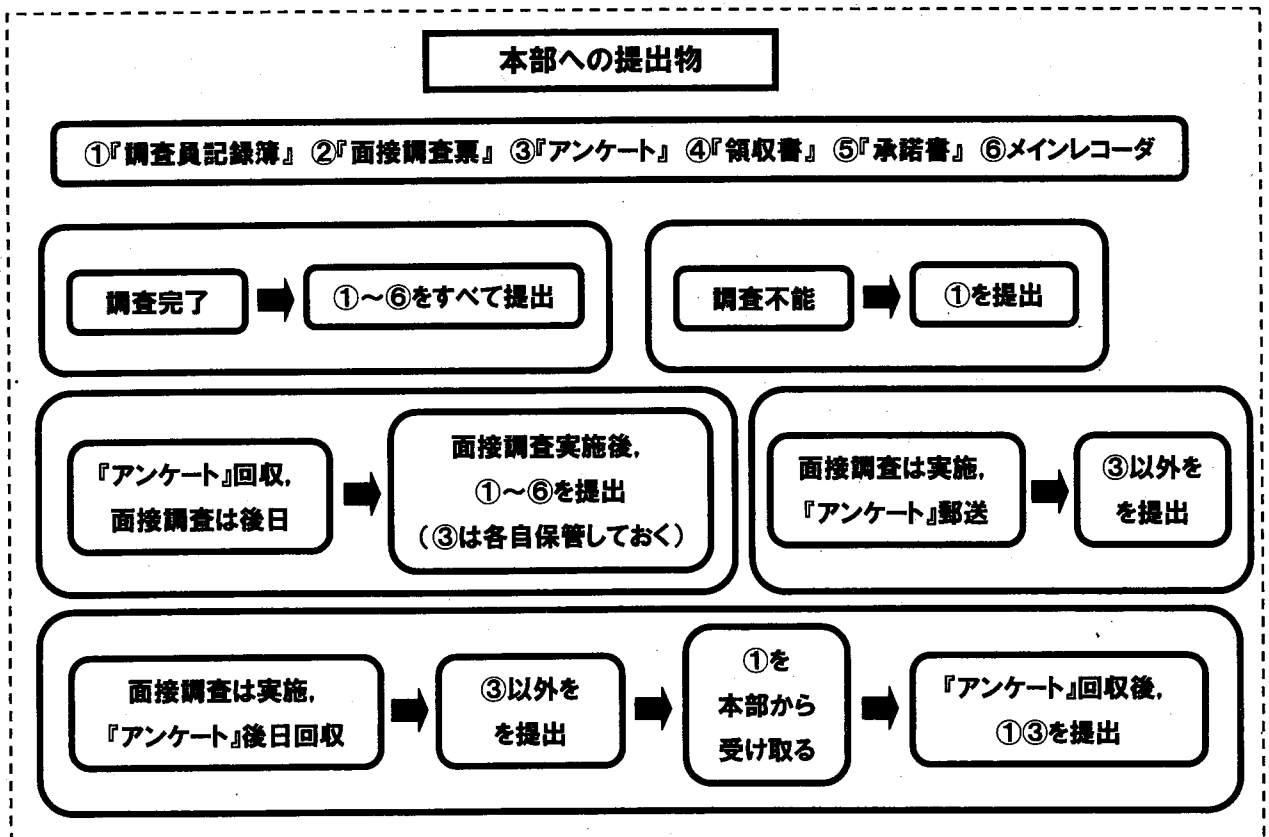
- (1) 面接調査には実質 30 分かかかる見込みである（調査への協力依頼文の中には 30 分程度と書いてある）。予定時間を過ぎたら相手の都合を確認し、できるだけ調査を続行する。
 - (2) 調査に際しては、必ず調査員証を首から下げること。
 - (3) 録音を撮る旨、あらかじめ断る。ただし、インフォーマントに無用な緊張を与えないよう配慮すること。録音については以下のことに注意すること。
 - ① 録音は調査の開始時点（『面接調査票』1 ページ、「録音開始」のチェックの後）から取り始め、調査終了（質問番号 300 番台の終わり）まで取り続ける。
 - ② 調査済みのメインレコーダは、その日の調査が終了次第、本部へすみやかに提出する。万一、メインレコーダの調子が悪く、録音できなかった場合は、サブレコーダを調査本部に提出すること。
 - (4) 面接調査の各設問については、§ 4.『面接調査票の説明、および記入上の注意』を参照されたい。
 - (5) 筆記用具はシャープペンシル、もしくは HB～2B の鉛筆を用いること。シャープペンシル、シャープペンシルの芯、ボールペン、消しゴムは調査本部でも準備しているので、それを使っても良い。
 - (6) 調査が終了したら、持参した図書カードを手渡す。また、必ず『受領書』に住所・氏名を書いてもらうこと。『アンケート』だけ、あるいは『面接調査票』だけにしか応じてもらえなかったインフォーマントにも同様にする。
 - (7) 持参した『調査のガイドライン』を示しながら、謝礼品の『受領書』と一緒に必ず『承諾書』にも住所・氏名を書いてもらうこと。インフォーマントが『調査のガイドライン』を紛失することもある。その場合は、予備で持参した『調査のガイドライン』を渡すこと。
 - (8) インフォーマントには後日、国立国語研究所長の名で、お礼の葉書を郵送する予定である。
 - (9) 調査に際し、次の持ち物を事前にチェックしておくこと（18 品）。クリアファイルと、クリアケースを配布する。基本的に紙資料はクリアファイル、機材等はクリアケースに入れて持ち運ぶと便利である。
- 接触： 調査員記録簿 調査員証 調査員用携帯電話 不在メモ
 調査： サーヴェイ調査票 選択肢リスト IC レコーダ（2 台）
 クリップボード 筆記用具（鉛筆・ボールペン） イヤホン
 謝礼の図書カード 受領書 ガイドライン 承諾書
 予備： 予備の電池 返信用封筒 言語生活調査票の予備
 調査マニュアル
- (10) 面接調査は実施できたが、『アンケート』は後日回収することになった場合でも、調査本部に『調査員記録簿』を一時的に提出すること。必要な情報を転記した後、調査

本部より再度手渡す。

3.7. 『調査員記録簿』の取り扱い

- (1) 『調査員記録簿』は、一人一人のインフォーマントへの調査の進行状況を調査員が記録し、その提出によって調査本部が調査全体の進行状況を把握するためのもので、非常に大切なものである。また、個人情報も記載されている。この取り扱いには細心の注意を払うこと。汚損、紛失の場合は、速やかに本部へ。
- (2) 『調査員記録簿』は、一人のインフォーマントに一枚用意されている。
 緑色の『調査員記録簿』は、ランダムサンプル用、
 黄色の『調査員記録簿』は、パネルサンプル用である。
- (3) インフォーマントの電話番号欄は、接触・交渉の過程で教えてもらった場合などに記入することを考えて設けてある。すべてのインフォーマントに尋ねる必要はない。
- (4) 当該のインフォーマントについて、記入漏れがないかどうかチェックした後、調査本部に提出する。原則として、一日の調査が終わったら、その日の完了分を提出すること。

『アンケート』、『面接調査票』はしかるべき整理を済ませてから本部へ提出すればよい。ただし、『アンケート』、『面接調査票』を整理や聞き直しのために岡崎市外（自宅や大学）へ持ち出すことは厳禁とする。岡崎を離れる前に本部へ提出すること。



3.8. 調査本部との連絡

- (1) 調査本部を岡崎サンホテルの7階に置く。ただし、調査本部要員が本部に詰めることはない。朝、夜は本部部屋を開けるので、必要な調査用品の補充は朝のうちに、記録簿やレコーダの提出は夜に済ませること。なお、朝日が調査本部用の携帯電話(080-6922-8020)を持ち、対応する。
- (2) 調査の予約が重なったとき、調査を拒否されそうなとき、その他調査全般にわたる悩み事、分からない点、気がついた点など、遠慮しないでどンドン朝日に申しでるようにしてほしい。

4. 『面接調査票』の説明、および記入上の注意

面接調査は、質問に対するインフォーマントの反応をそのまま記録することに主眼を置く。このような方針をとるのは、次の二点のためである。

- (1) 過去2回の調査と同様に、刺激-反応型の調査方法を踏襲するため
 - ⇒ 質問意図から多少外れる反応であっても、それを「回答」とする。例えば、101「道聞き」で「明代橋は知らない」という反応があったら、それが回答である。あるいは、明代橋ではなく殿橋への道順を答えたとしても、言い直してもらう必要はない。質問意図にあった反応が出るまで深追いしない。
- (2) 調査者が異なることによる調査結果の異なりを小さくするため
 - ⇒ インフォーマントから出た質問に対して、それぞれの調査員が異なった情報を与え、それが調査結果に影響することを避けたい。調査票に記載のないことについての判断は、基本的にインフォーマントに委ねる。

この二点を面接調査実施にあたっての大原則とする。ただし、いくつかの想定問答については予め設定するものもある(下記の注意書き参照)。本マニュアルに記載のない質問がインフォーマントから出た場合は、上記の大原則にしたがって対処すること。なお、その質問内容については、調査本部に報告してほしい。

<1ページ>

ランダム/パネル

サンプルの種類にしたがって、右上のランダム/パネルのどちらかに○をつけること。

被調査者 No.

『インフォーマント名簿』に記載された4ケタのコードをの中に記入すること。

調査の結果、被調査者が昭和28年および昭和47年のサンプルであることが判明した場合は、4ケタのコードの末尾にPを付け加えること。

- 調査員記号 調査員名(名字)を□の中に記入すること。
01. 氏名 調査前に記入しておくこと。
 生年月日 名前, 生年月日による本人確認を忘れずに(調査票にチェック欄あり)。生年月日は, 本人に言ってもらうようにすること。
02. アンケート §3.5.参照
03. 開始時刻 1分刻みで記入すること。
- 電池・録音の確認 電池の残量チェック, 録音開始のチェックを忘れずに(調査票にチェック欄あり)。

<調査全般>

- 調査票の質問は, ワーディング通りに行うこと。
- 100番台の質問は, 基本的に録音し, 後から文字化するようにする。なお, インフォーマントの回答の妨げにならない範囲で, 調査の場で, 述部などを書くことがあってもよい。
- 200番台以降は, 調査の場で, 調査票に回答を記入すること。
- 100番台の反応文の記入は IPA かカナ表記を用いること。カナ表記の基準は, 本マニュアルの資料に添付してある。
- NR(回答なし), DK(分からない)はその旨を記入すること。
- 2つ以上反応があった場合は, 回答された順に①, ②のように番号を添え書きすること。
- 調査票の質問文の()は説明を示し, < >は想定問答を示している。

<2~6ページ>

- 101.~118.
 場面設定項目 101.~118.については, 設定された場面を経験したことがない, 対象となる話し相手がいないといった場合でも, その場面を想像してもらって回答を引き出すこと。

<2ページ>

- 被調査者 No., 性別,
 生年, P/K 左上の4つの欄は, 調査員は記入しなくてよい。

〇〇さん

- 調査票の「〇〇さん」は、インフォーマントの名前に置き換えること。ただし、調査票の「〇〇さん」の部分にインフォーマントの名前を書かないこと。

<10~12 ページ>

301.~308.

フェイス項目

- 差し支えない範囲で答えてもらうこと。

<11 ページ>

305.

学歴

- 卒業/中途退学/在学中の選択肢についても、調査票には確実に記入すること。

<12 ページ>

307-2.仕事の内容

- 被調査者自身の仕事の内容について、できるだけ詳しく聞くこと。

例) 〇〇銀行に勤務 → 〇〇銀行の窓口勤務,
〇〇銀行の事務職, などを区別して書く。

〇〇高校に勤務 → 〇〇高校の教諭,
〇〇高校の事務, などを区別。

307-3.事業の種類

- 被調査者が選択肢の選択に迷った場合は、事業について尋ね、その内容を調査票の余白に書き込むこと。

<12 ページ>

308.家族構成

- 「同居」の範囲は、被調査者の判断に委ねること。

309.

前回調査の記憶

- パネル調査のみの項目である。

終了時間

- 1分刻みで記入すること。
所要時間は1ページの開始時刻との差を記入。

<13 ページ>

401.~404.

- 必ず調査の後で記入すること（インフォーマントの前では書かない）。
- 調査員の（主観的）判断によって記入すること。

5. 録音機材について

メインレコーダおよびサブレコーダの使用方法を簡単に説明する。使用方法の詳細については、別添資料を参照すること。

5.1. メインレコーダ

- (1) Roland 社の IC レコーダ (R-09) をメインレコーダとして使用する。
- (2) システムのアップデートや、録音に関する各種の設定は作業済みである。設定を変更しないこと。
- (3) 電池の挿入を確認し、下記①~④にしたがって録音・データ保存を行うこと。
 - ※ 電池は、1日分のデータを録音できる容量がある。メディアや電池を調査毎に取り換える必要はない。
 - ※ 電池（+予備の電池）は、調査前日の夜もしくは調査当日の朝、本部より配布する。

<録音方法>

- ① Power ボタンを押して、電源を入れる。
- ② [REC]ボタンを1回押し、スタンバイ状態にする。
 - ※液晶画面の左下に「REC」と「STANBY」が交互に点滅していることを確認すること。
- ③ 再生ボタン (▶) を1回押しすと、録音が始まる。
 - ※録音が始まると、液晶画面左下の表示が「REC」だけになる。
 - ※再生ボタンの代わりに[REC]ボタンをもう一度押ししても、同様に録音が始まる。
- ④ 録音を停止する場合は、停止ボタン (■) を押す。
 - ※停止ボタンを押すと、自動的に1つのファイルが生成される。データの保存作業等は必要ない。
 - ※ 別の録音を開始したいときは、①~④を繰り返せば良い。自動的に別ファイルが作成され、保存されるので、前の録音データが上書きされることはない。

5.2. サブレコーダ

- (1) OLYMPUS 社の IC レコーダ (Voice-Trek DS-60) をサブレコーダとして使用する。
- (2) システムのアップデートや、録音に関する各種の設定は作業済みである。設定を変更しないこと。
- (3) 内蔵のメモリに記憶するタイプの機材である。したがって、メディアは使用しない。
- (4) 電池の挿入を確認し、下記①～③にしたがって録音・データ保存を行うこと。

※ 電池は1日分のデータを録音できる容量がある。電池を調査毎に取り換える必要はない。

<録音方法>

- ① 側面にある「電源」つまみをスライドさせて、電源を入れる。
- ② 側面の録音ボタンを押すと録音が始まる。
- ③ 録音を停止する場合は、側面の停止ボタンを押す。

※停止ボタンを押すと、自動的に1つのファイルが生成される。データの保存作業等は必要ない。

※ 別の録音を開始したいときは、①～③を繰り返せば良い。自動的に別ファイルが作成され、保存されるので、前の録音データが上書きされることはない。

サブレコーダのデータの消去について

サブレコーダの内蔵メモリには、20時間以上の音声データを録音できる容量がある。各調査員がデータを削除する必要はない。機材返却時には、データが保存された状態で調査本部に返却すること。

6. 宿泊先について

- 食事：朝食（1階サクラルーム）7：00 から 9：30 まで
パン、スープ、ゼリー、コーヒー、紅茶、など。
- コインランドリー：8F（洗濯機2台、乾燥機2台）、24：00 まで使用可。

関連資料

調査員滞在日程・調査員参加日程表

(2009年1月23日現在)

【調査員】

▼は移動日

2月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	13月	14月	15月	16月
	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
朝日祥之	▼	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	▼
竹村亜紀子		▼	○	○	○	○	○	○	○	▼					
新井文人		▼	○	○	○	○	○	▼							
水野義道				▼	○	○	○	○	○	▼					
尾崎喜光				▼	○	○	▼								
阿部貴人					▼	○	○	○	○	○	▼				
久木田恵						○	○					○	○	○	
片岡邦好					○									○	

※網掛けは補填 33 名にお知らせしてある調査期間。

FAQ

調査の場では、インフォーマントから様々な質問を受けることがある。本調査で実際にあった質問を中心に、予想される FAQ を以下に挙げる。インフォーマントからの質問に対し、回答例を参考に回答すること。その際、サブクエスチョンに対する回答例の情報なども適宜追加するように。ただし、回答例として挙げたものすべてをそのまま述べる必要はない。情報量が多すぎると、余計に分からないことを増やすだけである。状況に応じて情報量を調整しながら対処してほしい。

Q. 国立国語研究所って聞いたことがない。何をしているところなの？

※ 調査員には国立国語研究所の概要を説明する冊子を配布する。

調査に携帯すること。

A. 日本語を使う人たちが、ふだんの生活のなかでどんなことばを使っているか、そのことばをどのように感じているか、といったことを調べています。

具体的には、このような研究活動をしています。【概要を示す】

Sub-Q. いつできた機関ですか？

A. 昭和 23 年 (1948 年) です。

Sub-Q. どこにあるの？

A. 東京都の立川市です。

Sub-Q. 「国立」とありますが、国の機関ですか？

A. 独立行政法人です。民間ではやれないことなどを実施するための法人です。そのうちの、文部科学省が所管する法人です。同じグループには衛星ロケットの打ち上げで有名な宇宙航空研究開発機構 (ジャクサ) などがあります。また、法人の種類は違いますが、岡崎にあるあの研究所も同じく文部科学省が所管する法人で、大きく言えば仲間です (岡崎にあるのは大学共同利用機関法人)。

Q. この調査が何の役に立つの？

A. 敬語がどのように使われているか、敬語に対してどのような意識を持っているかを知ることで、日本語の将来を予測する基礎資料を得られます。
長い目で見れば、学校教育や新聞・テレビなど言葉の文化の発展に貢献するデータです。

Q. なぜ岡崎市なんですか？

A. 地理的にも都市の規模としても日本の中間点だったことがひとつです。
また、ことばの面から見ても、方言と標準語がほどよく使い分けられているところでもあるからです。

Q. 結果を知ることができますか？

A. 今年中に、岡崎市で公開の報告会を開催することを計画しています。
調査報告の本も1～2年のうちに出版する予定です。

Q. どうして私が選ばれたの？

A. 岡崎市に住む15歳～79歳を、無作為に800名選びました。
特別な理由があって〇〇さん（インフォーマント）を選んだわけではありません。

Sub-Q. 何かの名簿でも使ったのですか？（岡崎市がそんな情報を教えていいんですか？）

A. 岡崎市の協力を得て、住民基本台帳を使って無作為に選びました。
住民基本台帳の閲覧は、民間団体には厳しい制約がありますが、国や自治体、公共的な団体が公共目的で必要な場合は閲覧が認められています。

Q. この調査は義務ですか？

A. 義務や強制ではありません。ですが、他の人に代わってもらえない調査です。是非、御協力ください。

調査地域一覧 (五十音順)

町名	フリガナ
葵町	アオイチョウ
曙町	アケボノチョウ
朝日町	アサヒチョウ
伊賀新町	イガシンマチ
伊賀町	イガチョウ
石神町	イシガミチョウ
井田新町	イダシンマチ
井田町	イダチョウ
井田西町	イダニシマチ
井田南町	イダミナミマチ
板屋町	イタヤチョウ
稲熊町	イナグマチョウ
魚町	ウオマチ
梅園町	ウメゾノチョウ
柿田町	カキタチョウ
欠町	カケマチ
籠田町	カゴダチョウ
上明大寺町	カミミョウダイジチョウ
上六名1丁目	カミムツナ1チョウメ
上六名2丁目	カミムツナ2チョウメ
上六名3丁目	カミムツナ3チョウメ
上六名4丁目	カミムツナ4チョウメ
上六名町	カミムツナチョウ
亀井町	カメイチョウ
唐沢町	カラサワチョウ
久右エ門町	キュウエモンチョウ
久後崎町	クゴサキチョウ
康生町	コウセイチョウ
康生通	コウセイドオリ
材木町	ザイモクチョウ
栄町	サカエマチ
島町	シマチョウ
十王町	ジュウオウチョウ
城北町	ジョウホクチョウ
真宮町	シングウチョウ
末広町	スエヒロチョウ
菅生町	スゴウチョウ
田町	タマチ
天白町	テンパクチョウ
伝馬通	テンマドオリ
中岡崎町	ナカオカザキチョウ
中町	ナカマチ
西魚町	ニシウオマチ

町名	フリガナ
錦町	ニシキマチ
西中町	ニシナカマチ
根石町	ネイシチョウ
能見町	ノミチョウ
能見通	ノミドオリ
八幡町	ハチマンチョウ
八帖北町	ハッチョウキタマチ
八帖町	ハッチョウチョウ
八帖南町	ハッチョウミナミマチ
東能見町	ヒガシノミチョウ
東明大寺町	ヒガシミョウダイジチョウ
日名北町	ヒナキタマチ
日名中町	ヒナナカマチ
日名西町	ヒナニシマチ
日名本町	ヒナホンマチ
日名南町	ヒナミナミマチ
広幡町	ヒロハタチョウ
吹矢町	フキヤチョウ
福寿町	フクジュチョウ
蓬莱町	ホウライチョウ
本町通	ホンマチドオリ
松本町	マツモトチョウ
花崗町	ミカゲチョウ
南明大寺町	ミナミミョウダイジチョウ
明大寺町	ミョウダイジチョウ
明大寺本町	ミョウダイジホンマチ
六名1丁目	ムツナ1チョウメ
六名2丁目	ムツナ2チョウメ
六名3丁目	ムツナ3チョウメ
六名新町	ムツナシンマチ
六名町	ムツナチョウ
六名東町	ムツナヒガシマチ
六名本町	ムツナホンマチ
元欠町	モトカケチョウ
元能見町	モトノミチョウ
門前町	モンゼンチョウ
祐金町	ユウキンチョウ
両町	リョウマチ
連尺通	レンジャクドオリ
六地藏町	ロクジゾウチョウ
六供町	ロックチョウ
六供本町	ロックホンマチ
若宮町	ワカミヤチョウ

7. 調査の達成状況

最後に、本調査と補充調査を合わせて得られた第三次調査全体の達成状況を示す資料を収録する。

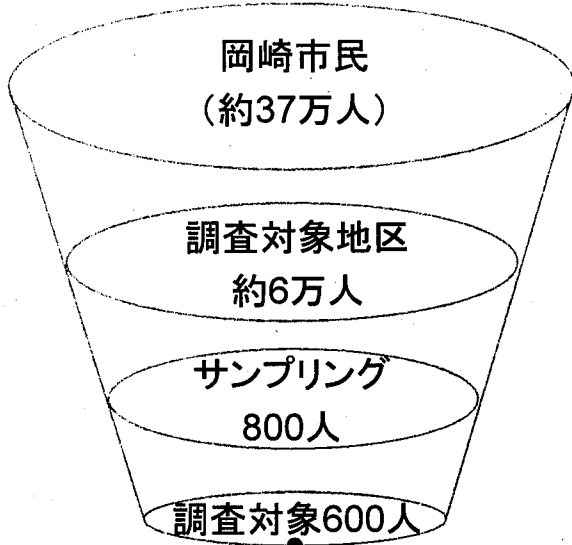
- 「面接調査・アンケート達成状況(最終)」……………207
 - ・ 岡調08-046
 - ・ 2009年3月14日付
 - ・ ランダムサンプル・パネルサンプル、本調査・補充調査の全体にわたって、調査達成状況を概観できる資料である。

- 「補充調査による構成比の補正(ランダムサンプル)」……………209
 - ・ 岡調08-047
 - ・ 2009年3月14日
 - ・ 補充調査は、本調査の達成状況を受けて、調査対象地域住民全体の年齢・性別構成比により近い調査結果を得ることを目標として、重点的に補充すべき回答者の年齢層や性別を設定して実施した。本資料は、その結果として得られた回答者の構成比が、補充実施前に比べて目標とした調査対象地域の年齢・性別構成比に近づいたことを示している。

- 「調査結果(地区別)」……………211
 - ・ 岡調08-048
 - ・ 2009年3月14日付
 - ・ 最終的な調査達成数や回収率を調査地区別に一覧する資料である。

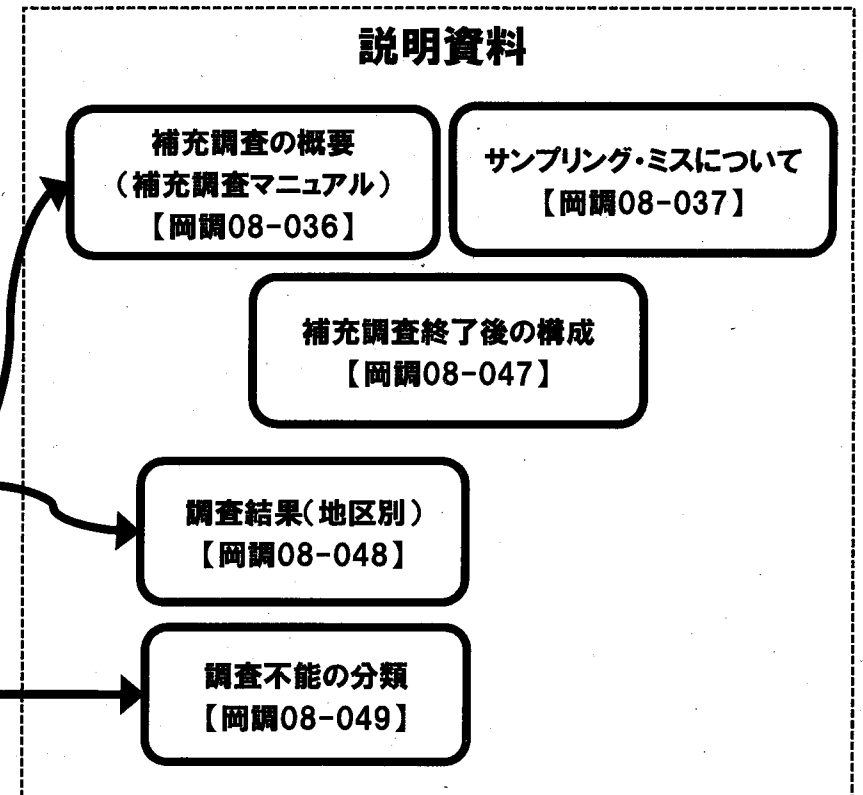
- 「調査不能の内訳(ランダムサンプル・パネルサンプル)」……………213
 - ・ 岡調08-049
 - ・ 2009年3月14日付
 - ・ 調査不能(調査が達成できなかった)回答者について、その理由や事情を分類した資料である。第一次調査、第二次調査の内訳と対比して見ることができる。第一次調査では住居不明・転出・出稼ぎが目立った。第二次調査では病気・入院が相対的に多かった。これらに比して第三次調査では「拒否」が目立って多くなった。さらに、その「拒否」の内訳として「門前払い=理由不明」が過半数にのぼった。

面接調査・アンケート達成状況(最終)



	人数
岡崎市に在住(調査地域)	145
岡崎市に在住(調査地域外)	55
岡崎市以外	30
合計	230

		ランダム	パネル
調査対象(対象外を除く)		600	145
調査完了	本調査	277	75
	補充調査	29	7
	合計	306 (回収率51%)	82 (回収率56.5%)
調査不能		294 (アンケートのみ33)	63 (アンケートのみ9)



補充調査による構成比の補正(ランダムサンプル)

	A		B		C		D		E		F (=A-C)		G (=A-E)	
	対象地区の構成		本調査後				補充調査後				本調査後の 構成比の差		補充調査後の 構成比の差	
			実数		構成比		実数		構成比					
	M	F	M	F	M	F	M	F	M	F	本M	本F	補M	補F
10代	3.22%	3.12%	8	6	2.89%	2.17%	8	7	2.61%	2.29%	0.34	0.95	0.61	0.83
20代	8.30%	7.40%	18	10	6.50%	5.78%	23	16	7.52%	8.50%	1.80	3.79	0.78	-1.10
30代	9.99%	9.14%	21	23	7.58%	8.30%	31	24	10.13%	7.84%	2.41	0.83	-0.14	1.29
40代	8.86%	8.38%	22	28	7.94%	10.11%	26	28	8.50%	9.15%	0.91	-1.73	0.36	-0.77
50代	8.36%	7.75%	21	29	7.58%	10.47%	22	29	7.19%	9.48%	0.77	-2.72	1.17	-1.72
60代	7.03%	7.30%	31	23	11.19%	8.30%	31	23	10.13%	7.52%	-4.16	-1.00	-3.10	-0.21
70代	4.90%	6.26%	19	18	6.86%	6.50%	19	19	6.21%	6.21%	-1.96	-0.24	-1.31	0.05



色付きが補
充対象の層

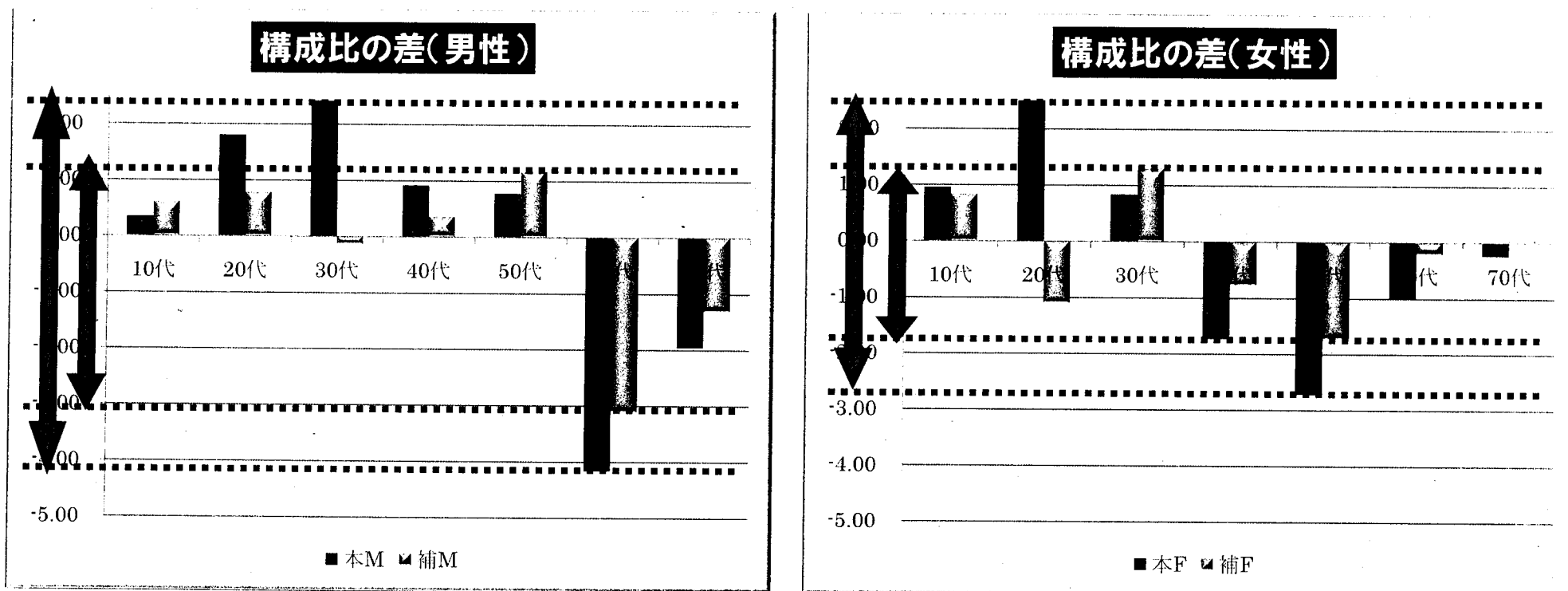
サンプルの構成比が
対象地区の構成比に近づいた

図示すると(次頁)



補充調査による構成比の是正

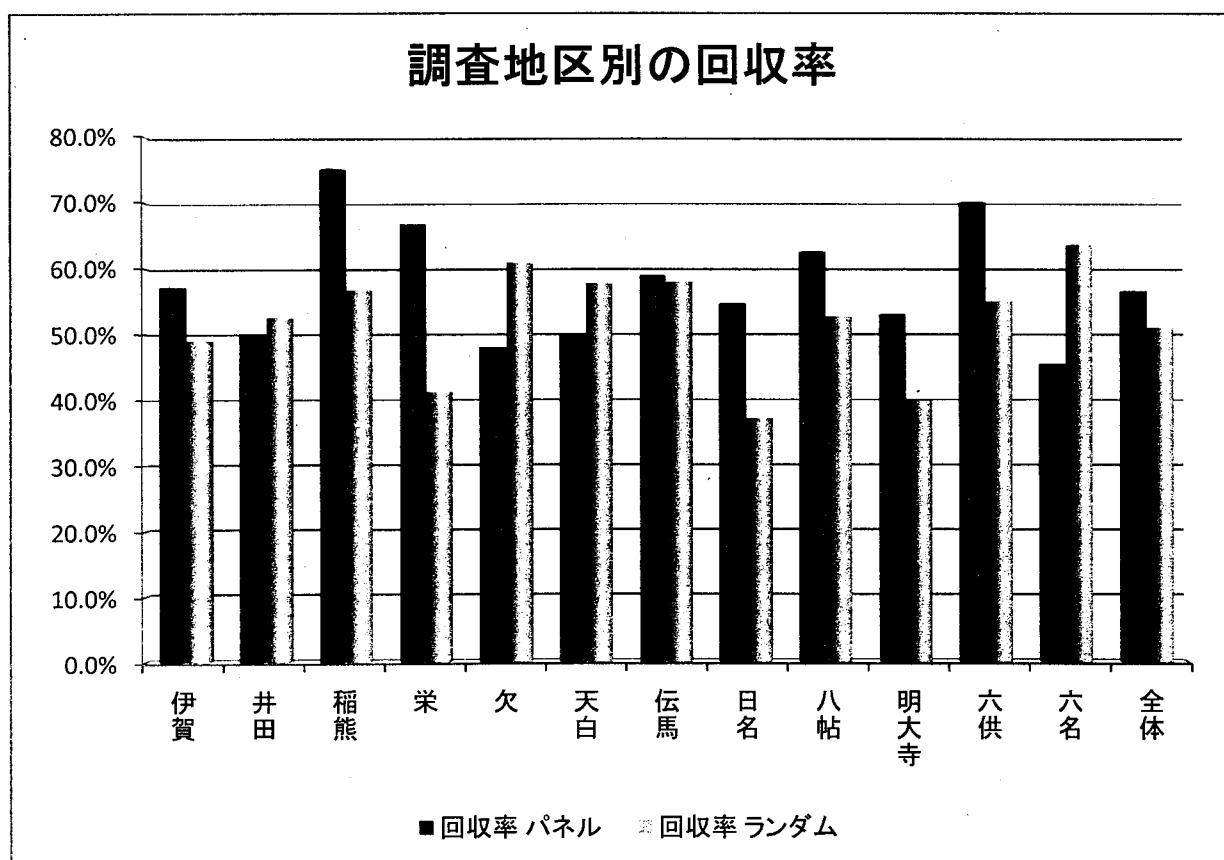
図は、対象地区の年代別の構成比と、本調査終了後の調査完了の構成比（緑）、補充調査終了後の構成比（橙）のズレを図示したものである。棒グラフが0の値に近いほど、対象地区の構成比に近いことを表す。また、図の点線は、対象地区の構成比から最も離れているところ（上限と下限）を示している。図のように、補充調査終了後は、対象地区の構成比からのズレ幅（上限と下限の幅）が小さくなり、また0の値に近づいたことがわかる。



補充調査によって、構成比が
母集団のそれに近づいた

調査結果(地区別)

地区	調査終了数						回収率	
	パネル			ランダム			パネル	ランダム
	完了	不能	合計	完了	不能	合計		
伊賀	4	3	7	28	29	57	57.1%	49.1%
井田	7	7	14	41	37	78	50.0%	52.6%
稲熊	6	2	8	38	29	67	75.0%	56.7%
栄	2	1	3	7	10	17	66.7%	41.2%
欠	12	13	25	37	24	61	48.0%	60.7%
天白	2	2	4	19	14	33	50.0%	57.6%
伝馬	10	7	17	11	8	19	58.8%	57.9%
日名	6	5	11	26	44	70	54.5%	37.1%
八帖	5	3	8	20	18	38	62.5%	52.6%
明大寺	9	8	17	35	53	88	52.9%	39.8%
六供	14	6	20	11	9	20	70.0%	55.0%
六名	5	6	11	33	19	52	45.5%	63.5%
全体	82	63	145	306	294	600	56.6%	51.0%



調査不能の内訳(ランダムサンプル)

	住居不明	転出		出稼ぎ・出張	死亡	病気・入院	不在(旅行含む)		拒否			その他	合計	不能率
		住民票移 *1	住民票残 *2				誰とも会え ず	本人に会え ず	本人	家族	不明 *3			
第一次調査	11	15		16	2	9	13		2			4	72	8.96%
	15.28%	20.83%		22.22%	2.78%	12.50%	18.06%		2.78%			5.56%		
第二次調査*4	1	6		0	1	17	9		17			11	62	14.83%
	1.61%	9.68%		0.00%	1.61%	27.42%	14.52%		27.42%			17.74%		
第三次調査	6	9	25	3	2	22	44	41	108	15	10	9	294	49.00%
	2.04%	3.06%	8.50%	1.02%	0.68%	7.48%	14.97%	13.95%	36.73%	5.10%	3.40%	3.06%		
		34						85		133				
		11.56%						28.91%		45.24%				

注

- *1 住民票を移動させたと考えられるもの。
- *2 住民票を残したまま転居したもの(大学進学, 単身赴任などを含む)。
- *3 誰が拒否しているのかが不明
- *4 第二次調査は差し替えを行っている。
表内の数字は差し替えられたサンプルの総数の内訳を集計したもの。
調査完了に占める差し替え数と調査不能数は一致しない。
これは、差し替えサンプルに対する差し替えがあるためである。

基本的に第一次調査の報告書の分類に従った。
塗りつぶしの濃いところは、今回新たに分類枠を設けたもの。

**拒否の理由の内訳
(本人+不明)**

	第二次	第三次
門前払い =理由不明	8 47.06%	69 58.47%
多忙	4 23.53%	25 21.19%
やりたくない	2 11.76%	13 11.02%
育児・看病	3 17.65%	6 5.08%
その他	0 0.00%	5 4.24%

調査不能の内訳(パネルサンプル)

	住居不明	転出		出稼ぎ・出張	死亡	病気・入院・高齢	不在(旅行含む)		拒否			その他	合計	不能率
		住民票移*1	住民票残*2				誰とも会えず	本人に会えず	本人	家族	不明*3			
第二次調査	0	9		0	4	9	2		3			3	30	13.95%
	0.00%	30.00%		0.00%	13.33%	30.00%	6.67%		10.00%			10.00%		
第三次調査	1	5	1	0	3	19	1	1	23	1	3	5	63	43.45%
	1.59%	7.94%	1.59%	0.00%	4.76%	30.16%	1.59%	1.59%	36.51%	1.59%	4.76%	7.94%		
		6					2		27					
		9.52%					3.17%		42.86%					

注

- *1 住民票を移動させたと考えられるもの。
- *2 住民票を残したまま転居したもの(大学進学, 単身赴任などを含む)。
- *3 誰が拒否しているのかが不明

基本的に第一次調査の報告書の分類に従った。
塗りつぶしの濃いところは、今回新たに分類枠を設けたもの。

拒否の理由の内訳 (本人+不明)

	第二次	第三次
門前払い =理由不明	2 66.67%	13 50.00%
多忙	1 33.33%	5 19.23%
やりたくない	0 0.00%	1 3.85%
育児・看病	0 0.00%	6 23.08%
その他	0 0.00%	1 3.85%

文部科学省科学研究費補助金報告書

敬語と敬語意識

—愛知県岡崎市における第三次調査—

第1分冊【経年調査 実施資料編】

発行年月日：平成22（2010）年3月31日

代表発行者：杉戸清樹（すぎと・せいじゅ）

- 本冊子は、グリーン購入法（国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律）に基づく基本方針の判断の基準を満たす紙を使用しています。
- リサイクル適性の表示：紙へリサイクル可